

第4次笛吹市男女共同参画推進計画 策定支援業務

アンケート結果報告書

目次

1. アンケートの概要	1
1.1. 対象者及び人数	1
1.2. 抽出方法	1
1.3. 実施方法	1
1.4. 実施期間	1
1.5. 回答者数及び回収率	1
1.6. 本報告書中の記号、調査結果の数値について	1
2. アンケート結果	2
2.1. 回答者の属性について	2
2.2. 暮らしの「男女の平等感」について.....	9
2.3. 「家庭」について	21
2.4. 「職場」について	50
2.5. 「地域活動」について	55
2.6. ことばの「認知度」について	65
2.7. あなたの「価値観」について	74
2.8. 自由意見	84
3. まとめ	95
3.1. 価値観と幸福度の関係	96
3.2. 社会参加の機会と家庭生活の役割分担	98
3.3. 家庭生活の割分担と幸福度	99
3.4. 社会参加の機会と幸福度.....	100
4. アンケート調査票	101

1. アンケートの概要

1.1. 対象者及び人数

笛吹市内在住の 18 歳以上 80 歳未満の男女 1,800 人

1.2. 抽出方法

無作為抽出

1.3. 実施方法

郵送による配布回収

1.4. 実施期間

令和 2 年 7 月 30 日(木)～8 月 14 日(金)

1.5. 回答者数及び回収率

女性	431 人
男性	336 人
その他	2 人
無回答	2 人
総計	771 人 (回収率 42. 8%)

1.6. 本報告書中の記号、調査結果の数値について

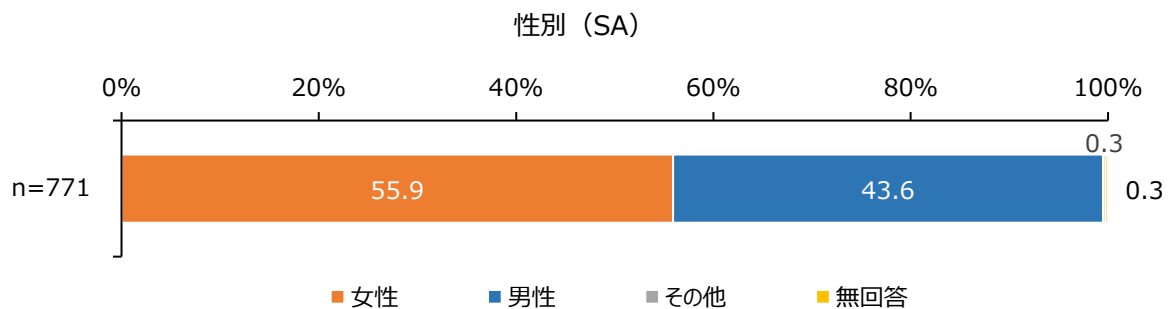
- (SA) 単一回答 (Single Answer) の略。選択回答は 1 項目のみ。
- (MA) 複数回答 (Multi Answer) の略。(一部回答を限定しているものもある。) 複数回答における回答率は 100%を超える場合がある。
- (NA) 数値回答 (Numeric Answer) の略。該当する数値を記入するもの。
- n 回答者数 (number) をあらわす。「n=100」は、回答者数が 100 人。

*各回答項目の構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が 100%にならない場合もある。

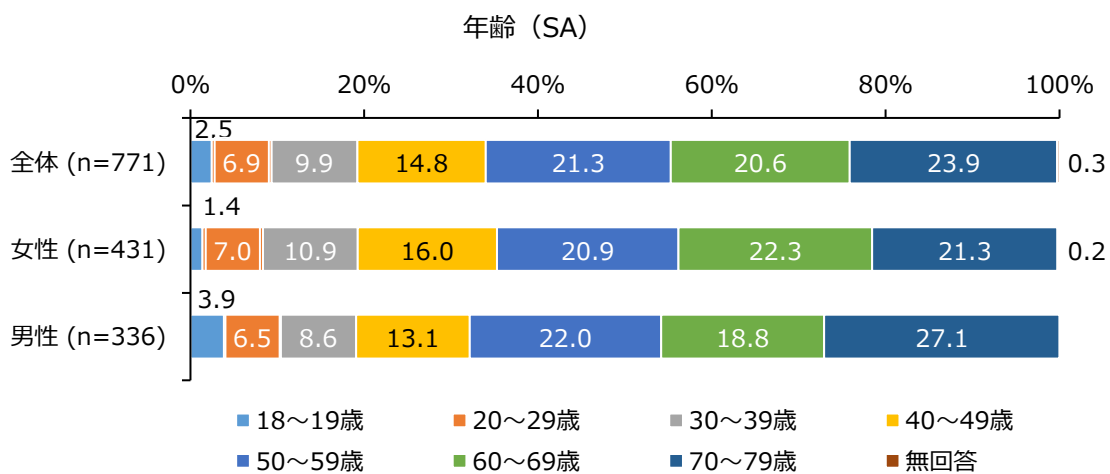
2. アンケート結果

2.1. 回答者の属性について

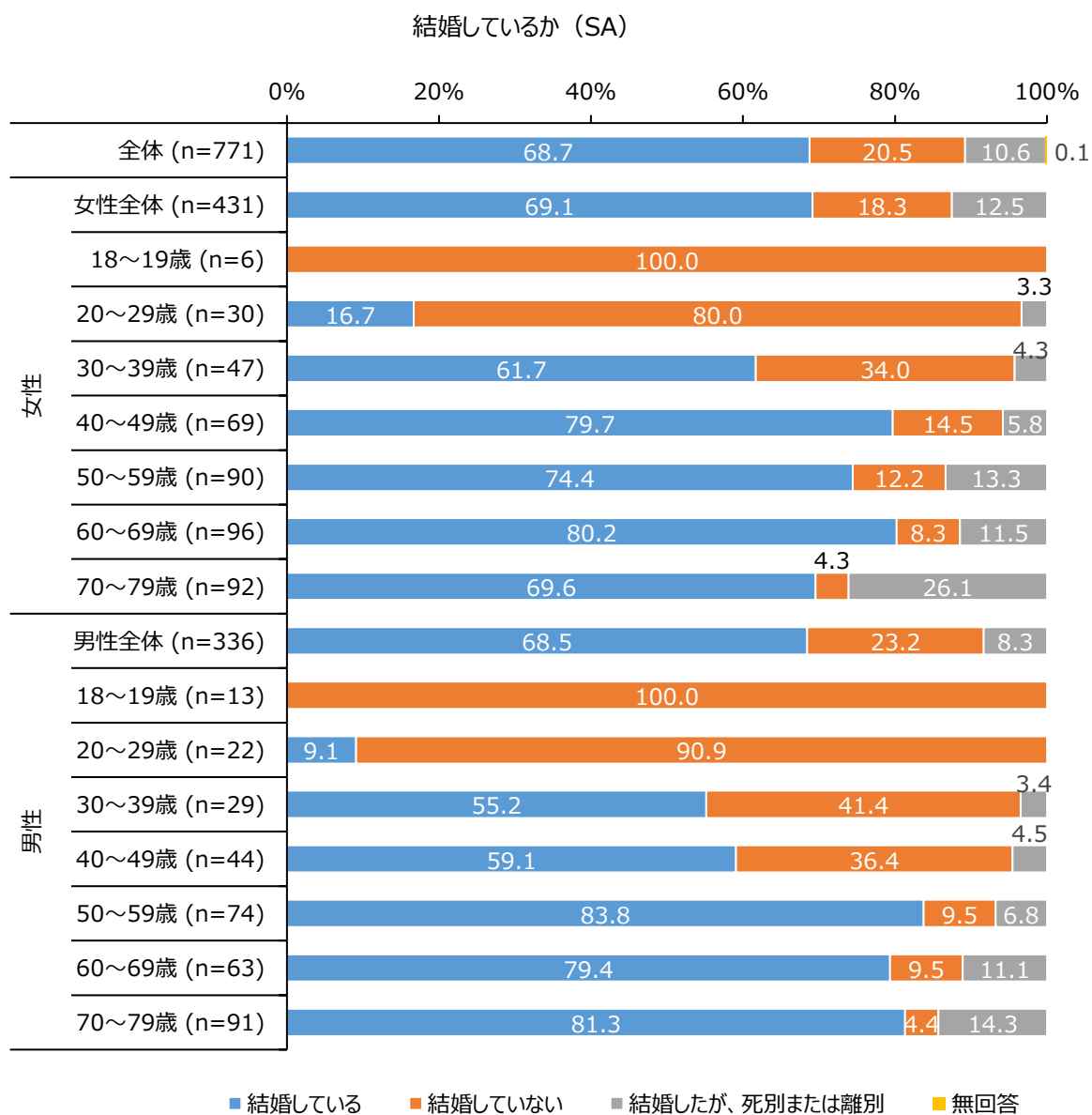
F-1 性別



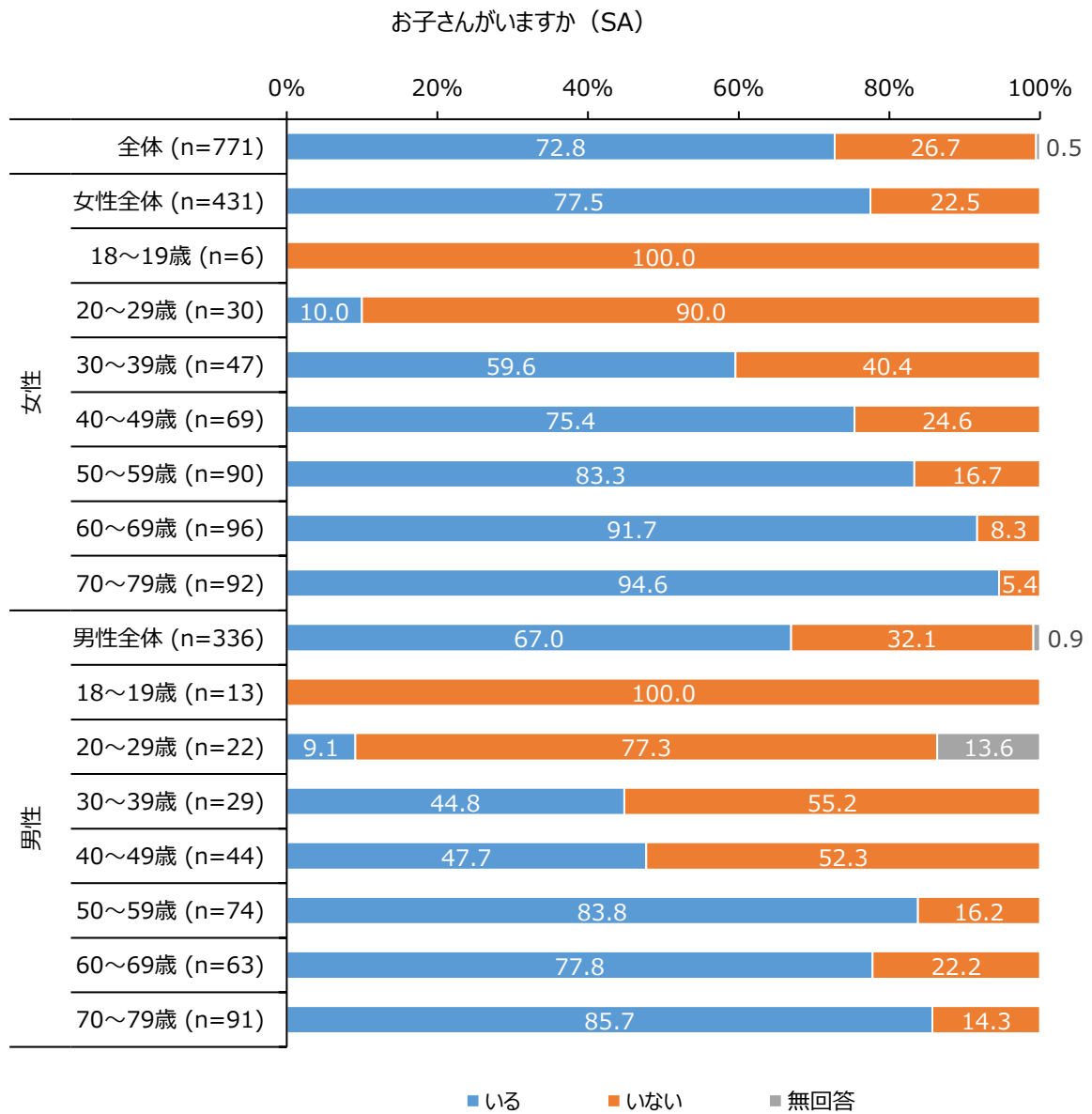
F-2 年齢（令和2年8月1日現在）



F-3 婚姻



F-4 子どもの有無及び人数

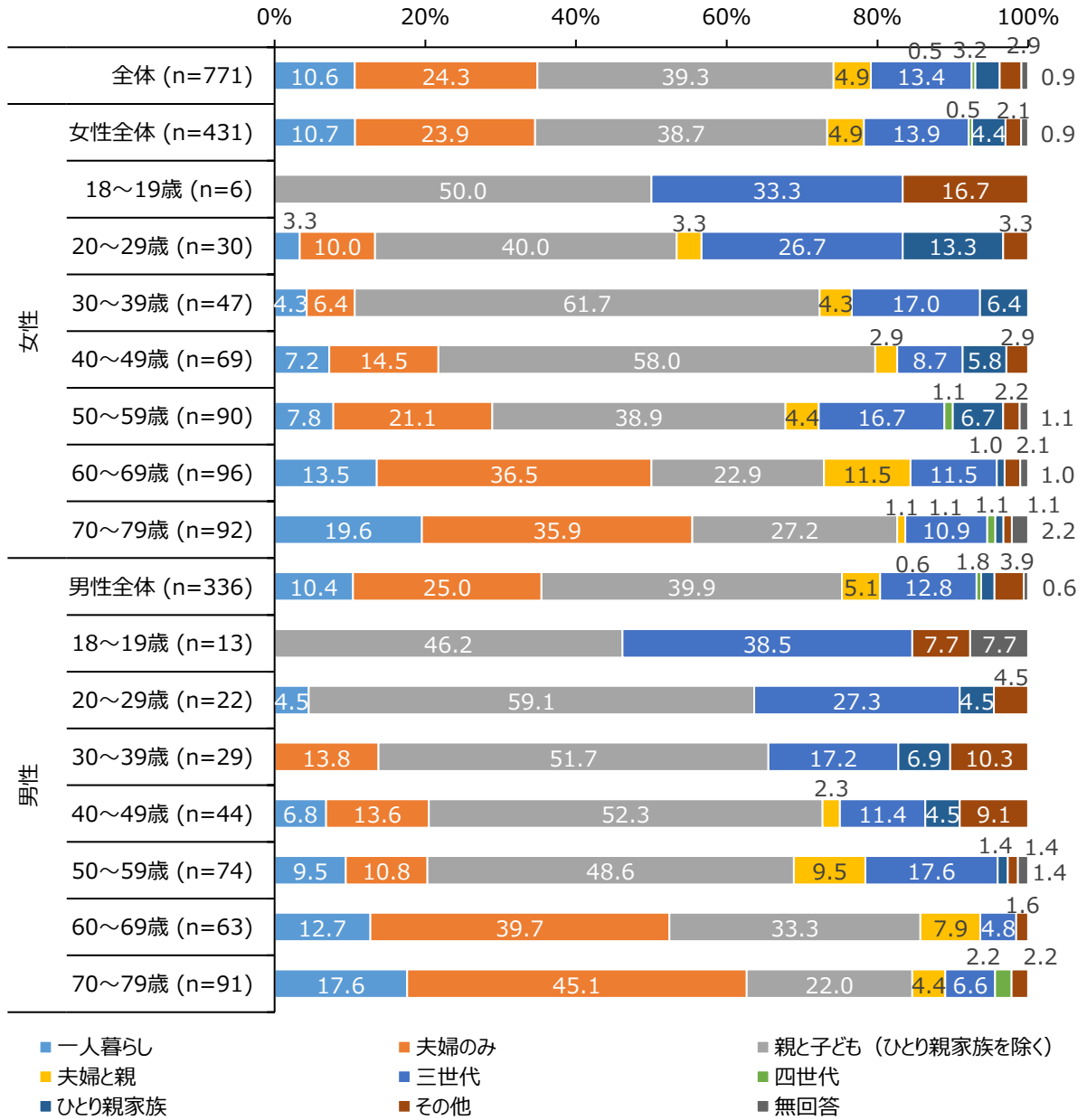


【子どもの人数】

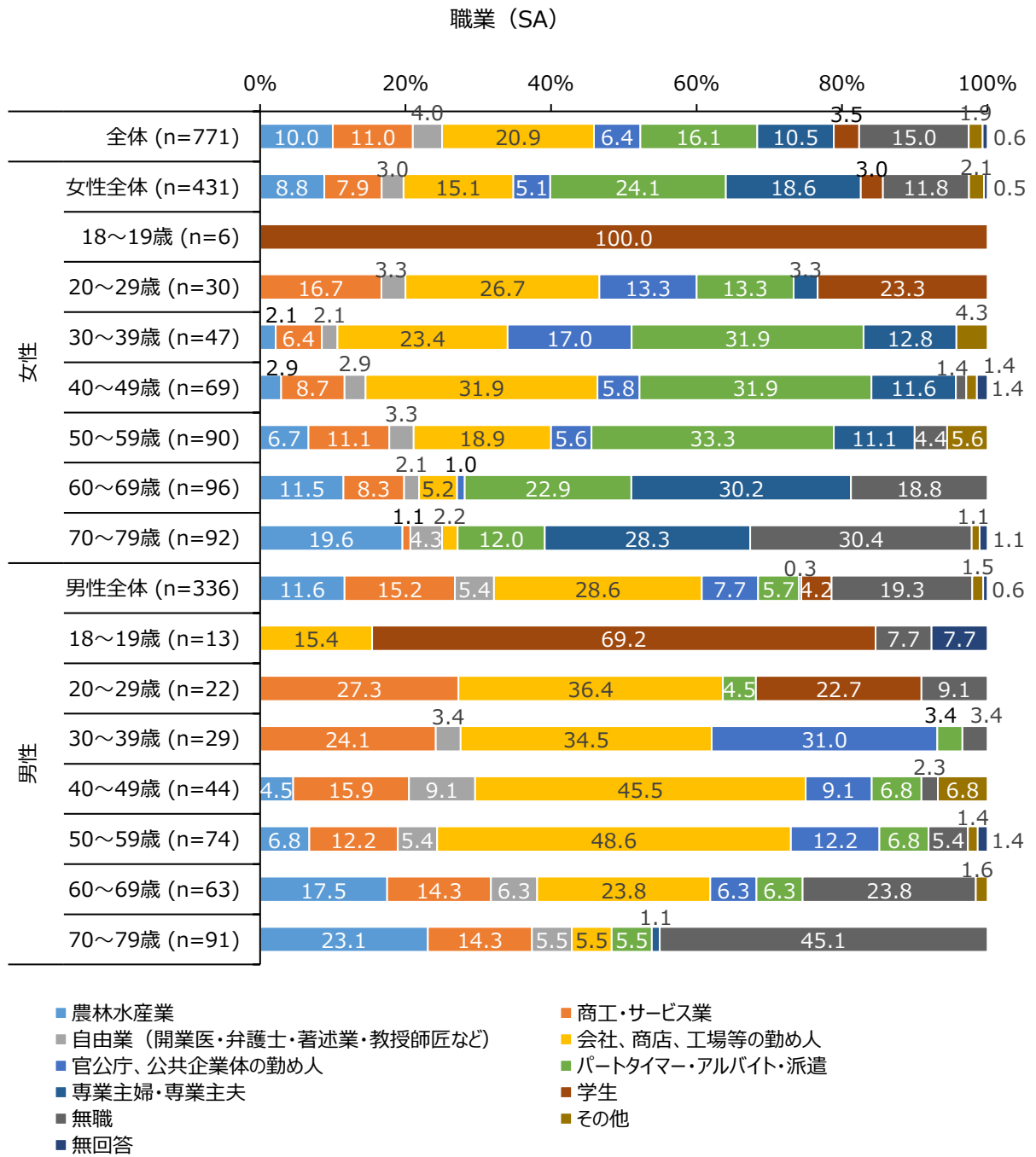
		1人	2人	3人	4人	5人	無回答
	全体 (n=561)	18.5	51.5	26.6	2.0	0.2	1.2
女性	女性全体 (n=334)	20.4	50.3	24.6	2.7	0.3	1.8
	18～19歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-
	20～29歳 (n=3)	66.7	-	33.3	-	-	-
	30～39歳 (n=28)	46.4	46.4	7.1	-	-	-
	40～49歳 (n=52)	23.1	57.7	17.3	1.9	-	-
	50～59歳 (n=75)	20.0	44.0	28.0	5.3	-	2.7
	60～69歳 (n=88)	14.8	51.1	28.4	2.3	1.1	2.3
	70～79歳 (n=87)	14.9	54.0	27.6	2.3	-	1.1
	男性	男性全体 (n=225)	15.6	53.3	29.8	0.9	-
18～19歳 (n=0)		-	-	-	-	-	-
20～29歳 (n=2)		50.0	50.0	-	-	-	-
30～39歳 (n=13)		38.5	61.5	-	-	-	-
40～49歳 (n=21)		23.8	23.8	47.6	-	-	4.8
50～59歳 (n=62)		21.0	56.5	21.0	1.6	-	-
60～69歳 (n=49)		4.1	46.9	46.9	2.0	-	-
70～79歳 (n=78)		11.5	61.5	26.9	-	-	-

F-5 家族構成

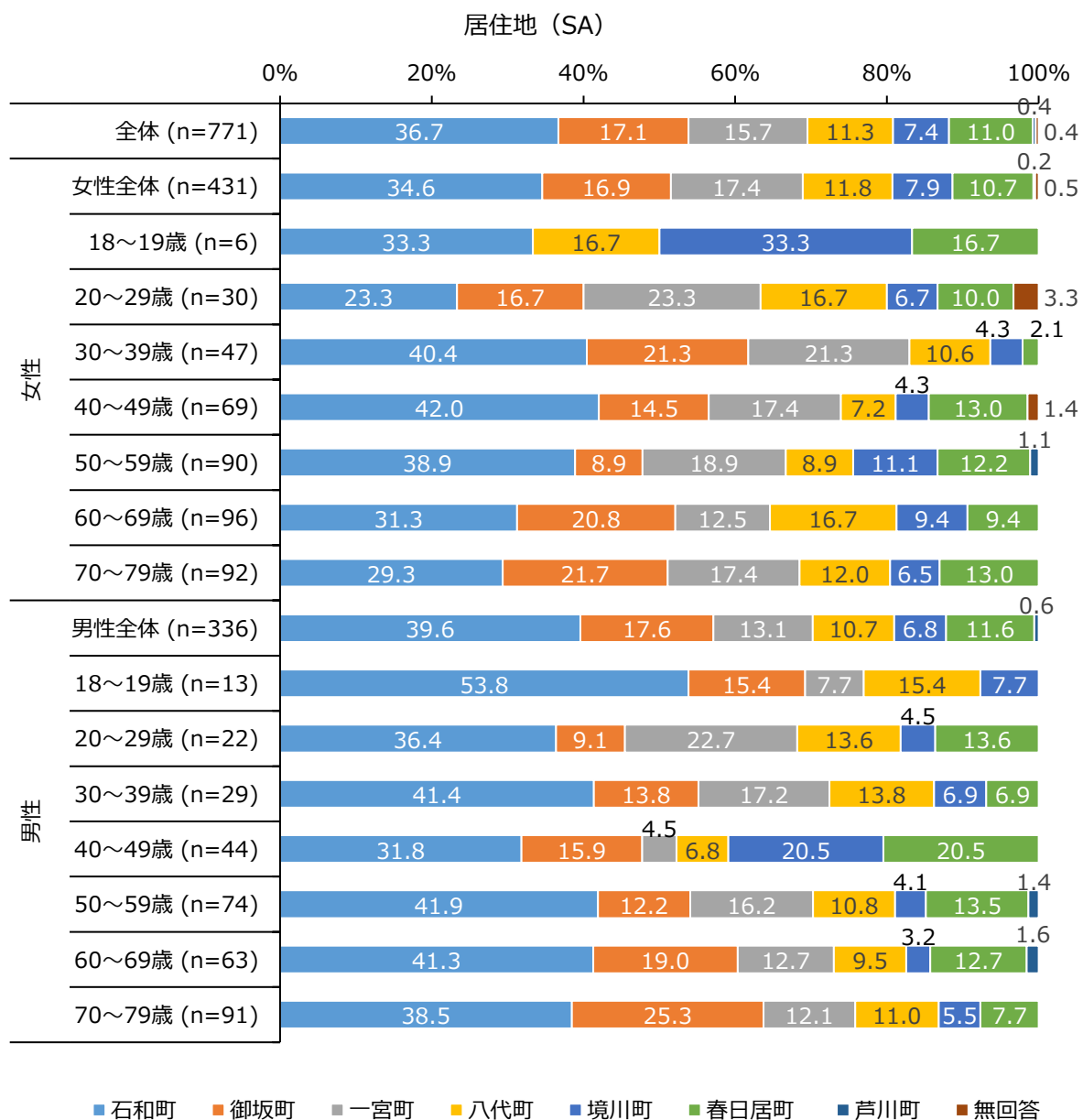
家族構成 (SA)



F-6 職業

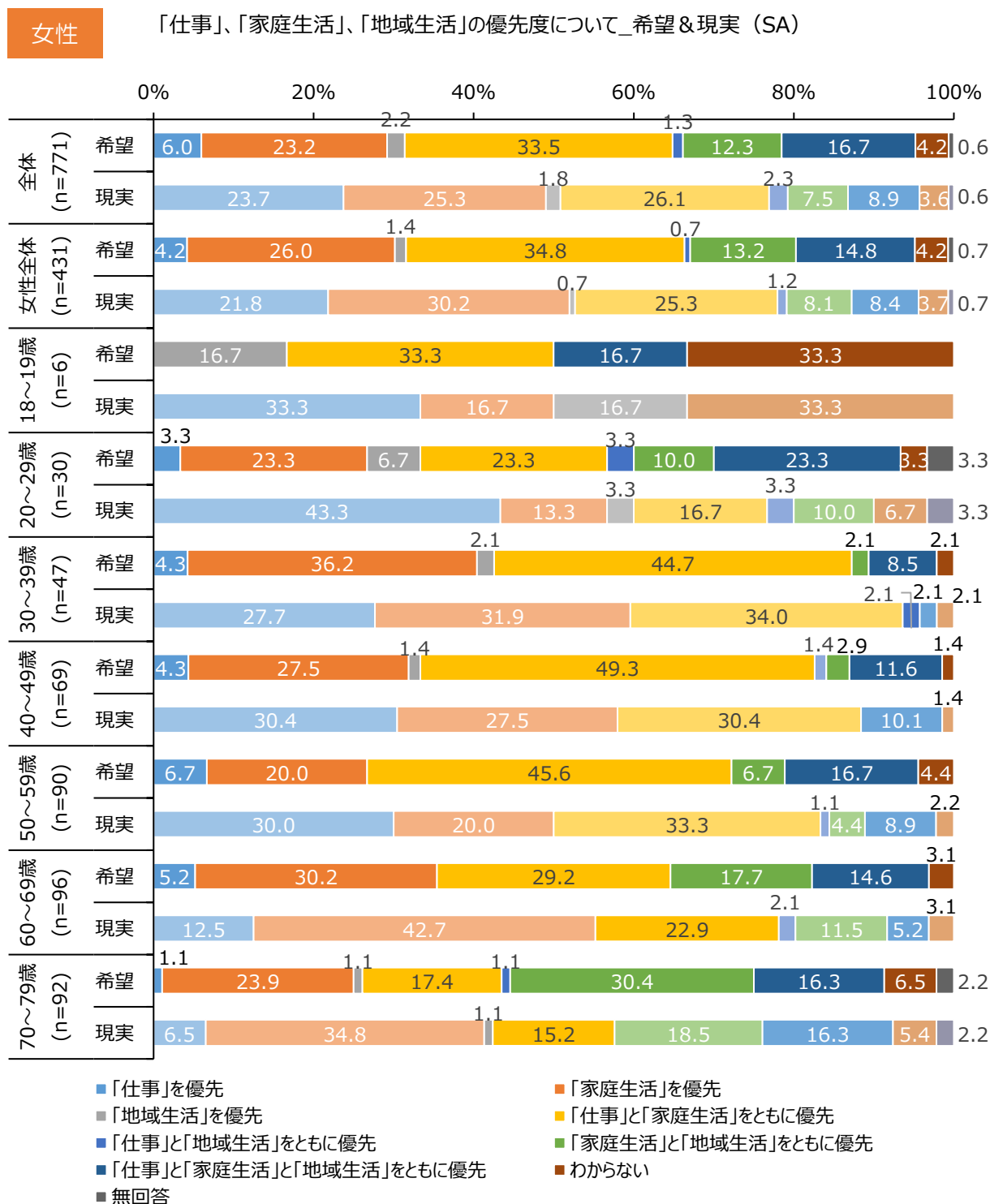


F-7 居住地



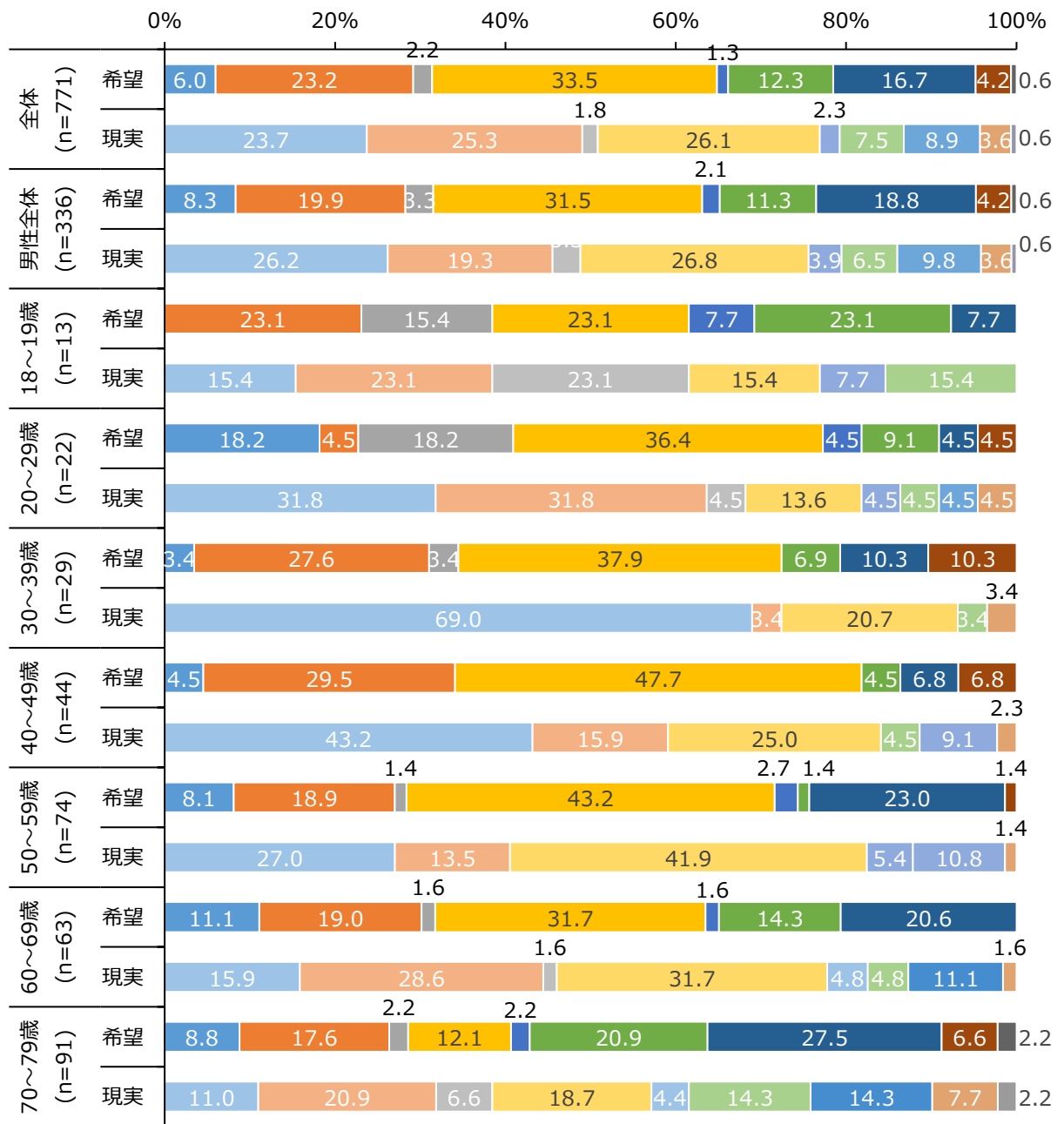
2.2.暮らしの「男女の平等感」について

問1・2 「仕事」、「家庭生活」、「地域生活」の優先度（希望・現実）



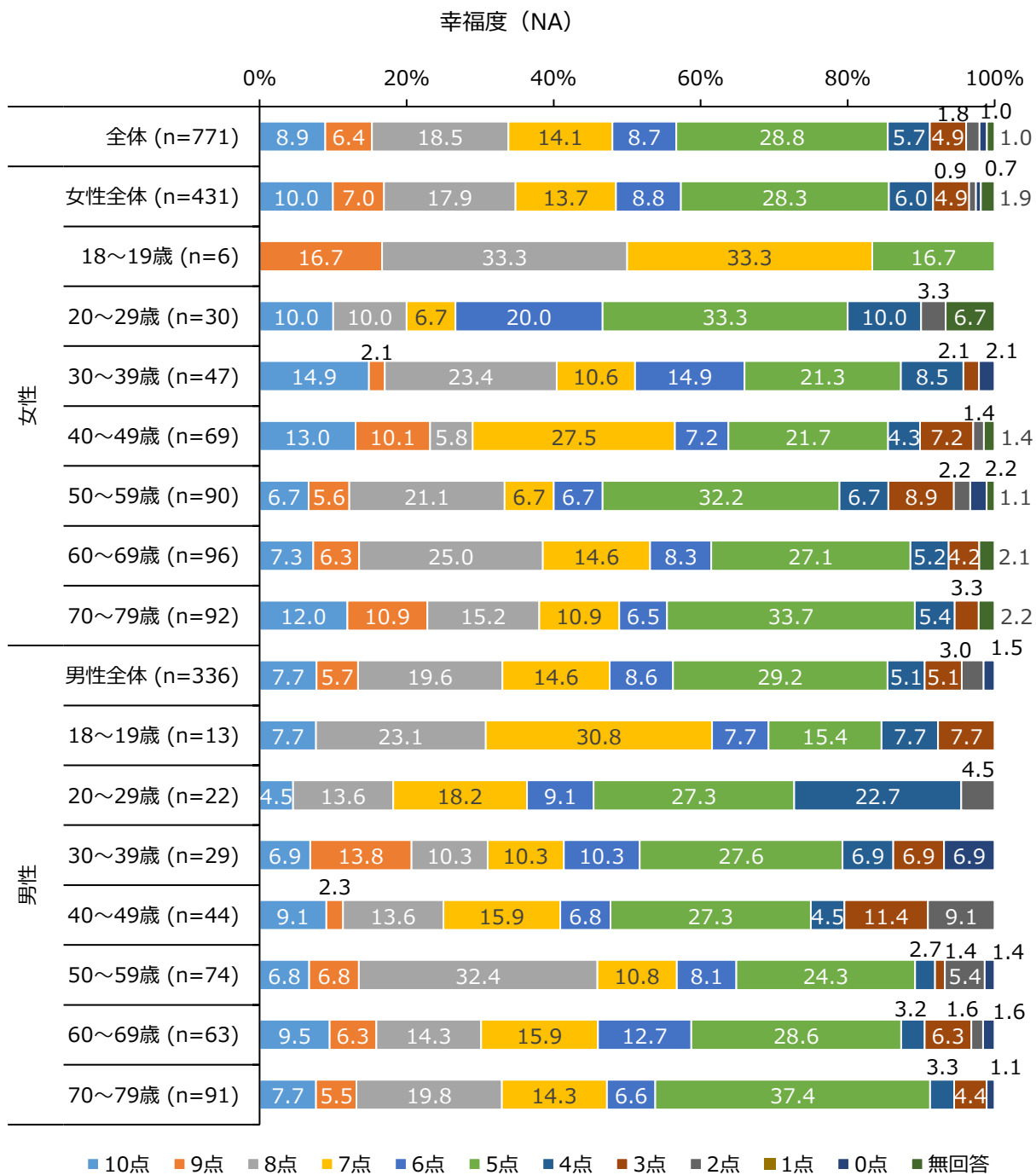
男性

「仕事」、「家庭生活」、「地域生活」の優先度について_希望&現実 (SA)



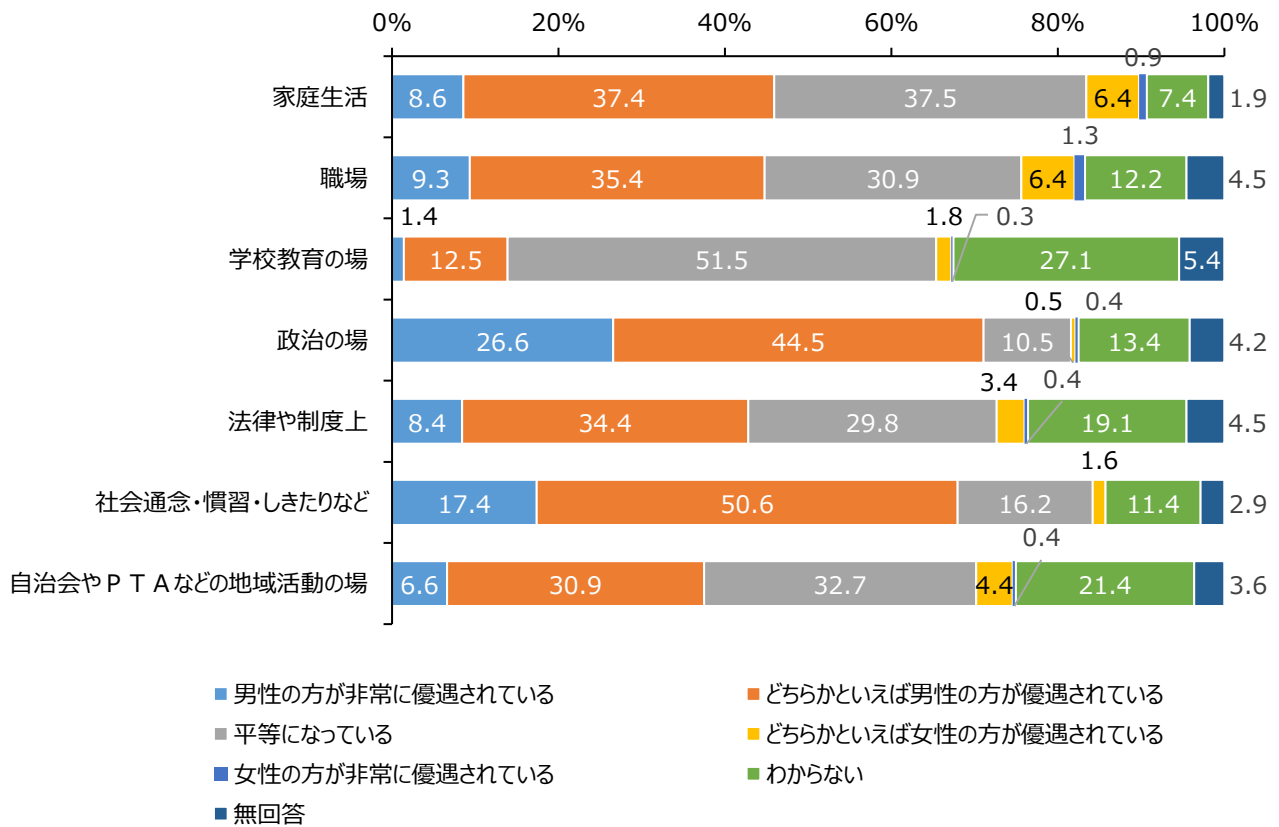
- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域生活」をともに優先
- わからない
- 無回答

問3 幸福度



問4 男女の地位の平等

男女の地位の平等について(SA)

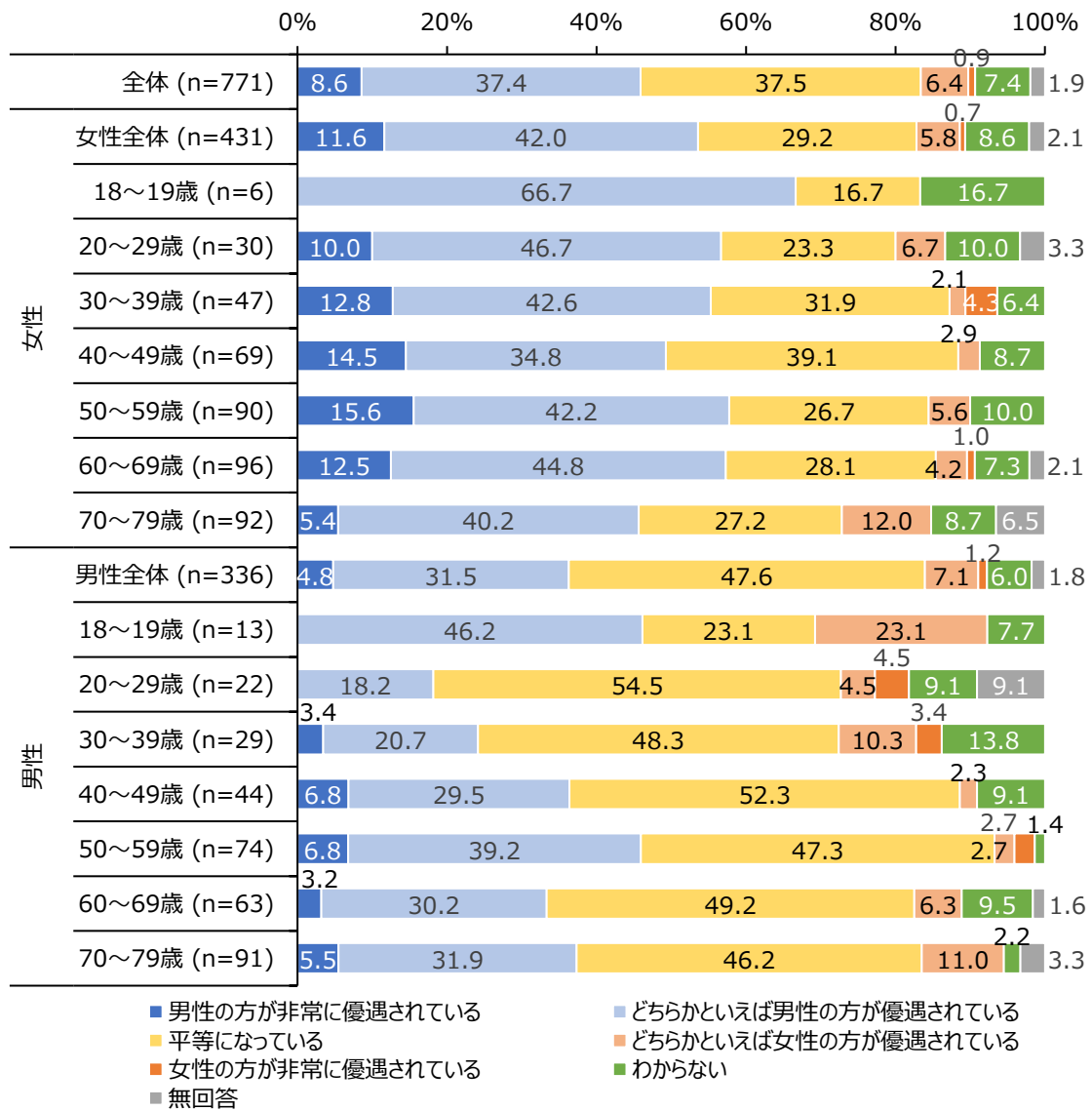


n=771

*項目ごとに1つ回答

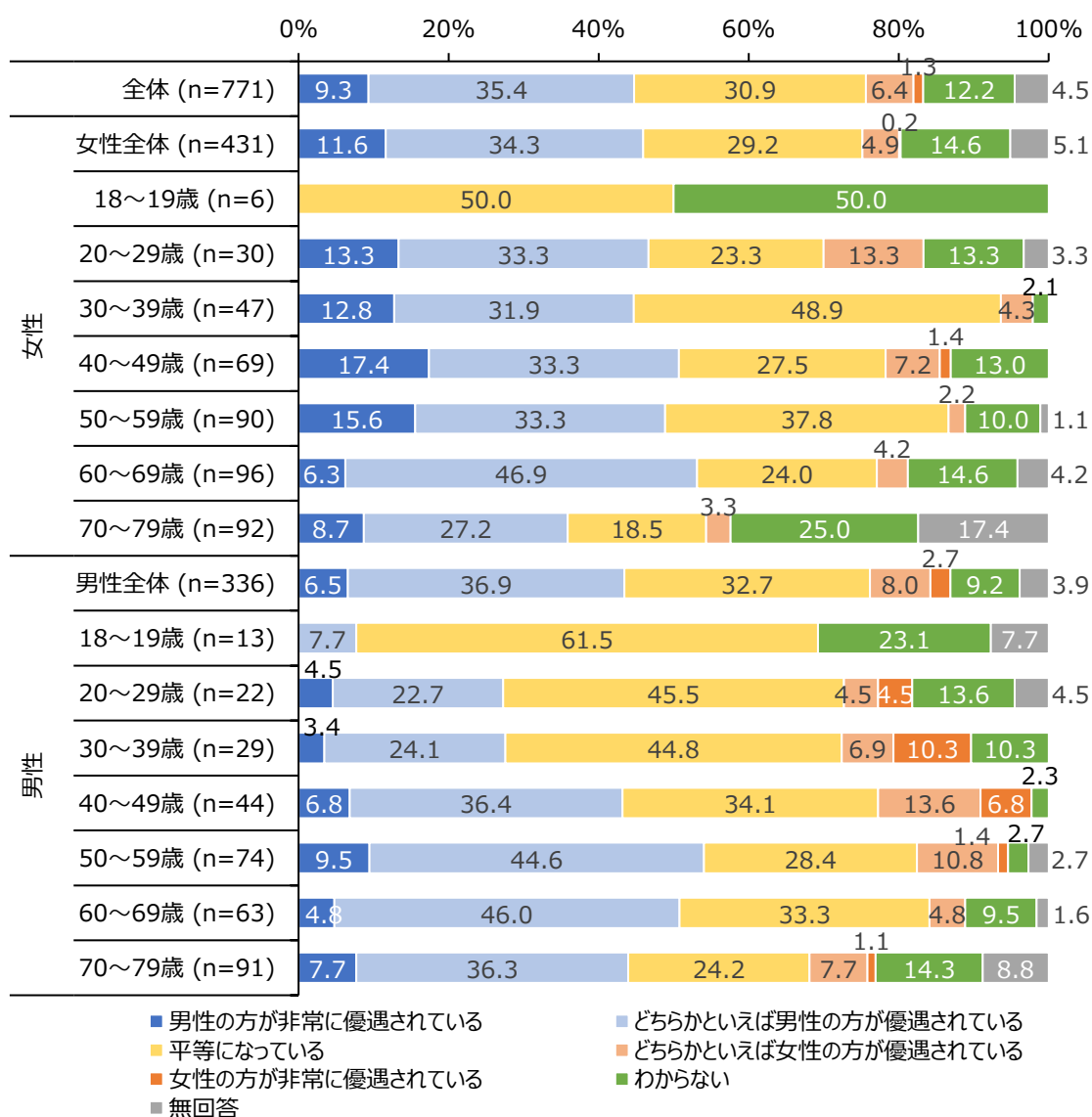
① 家庭生活

男女の地位の平等について_家庭生活(SA)



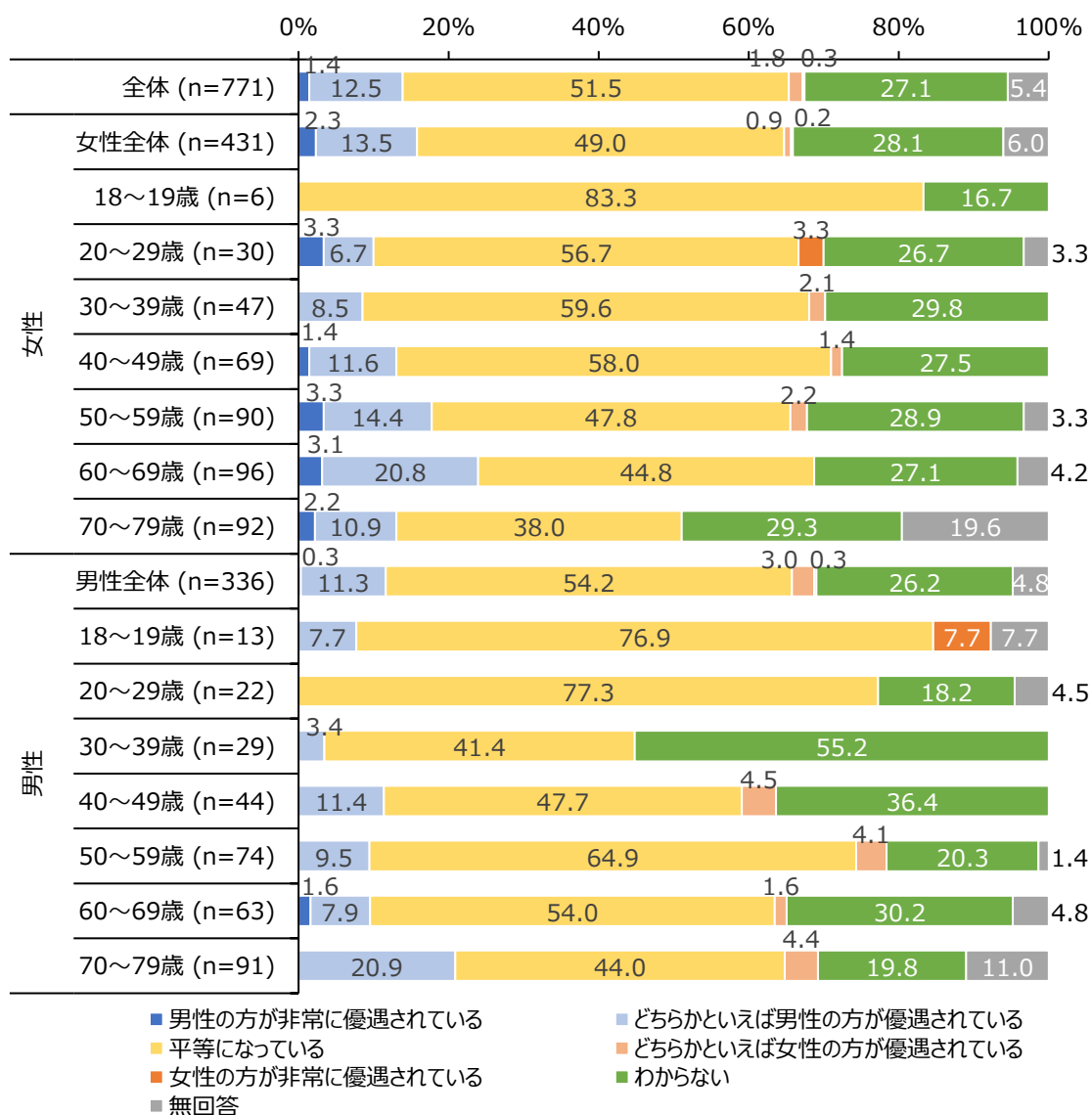
② 職場

男女の地位の平等について_職場(SA)



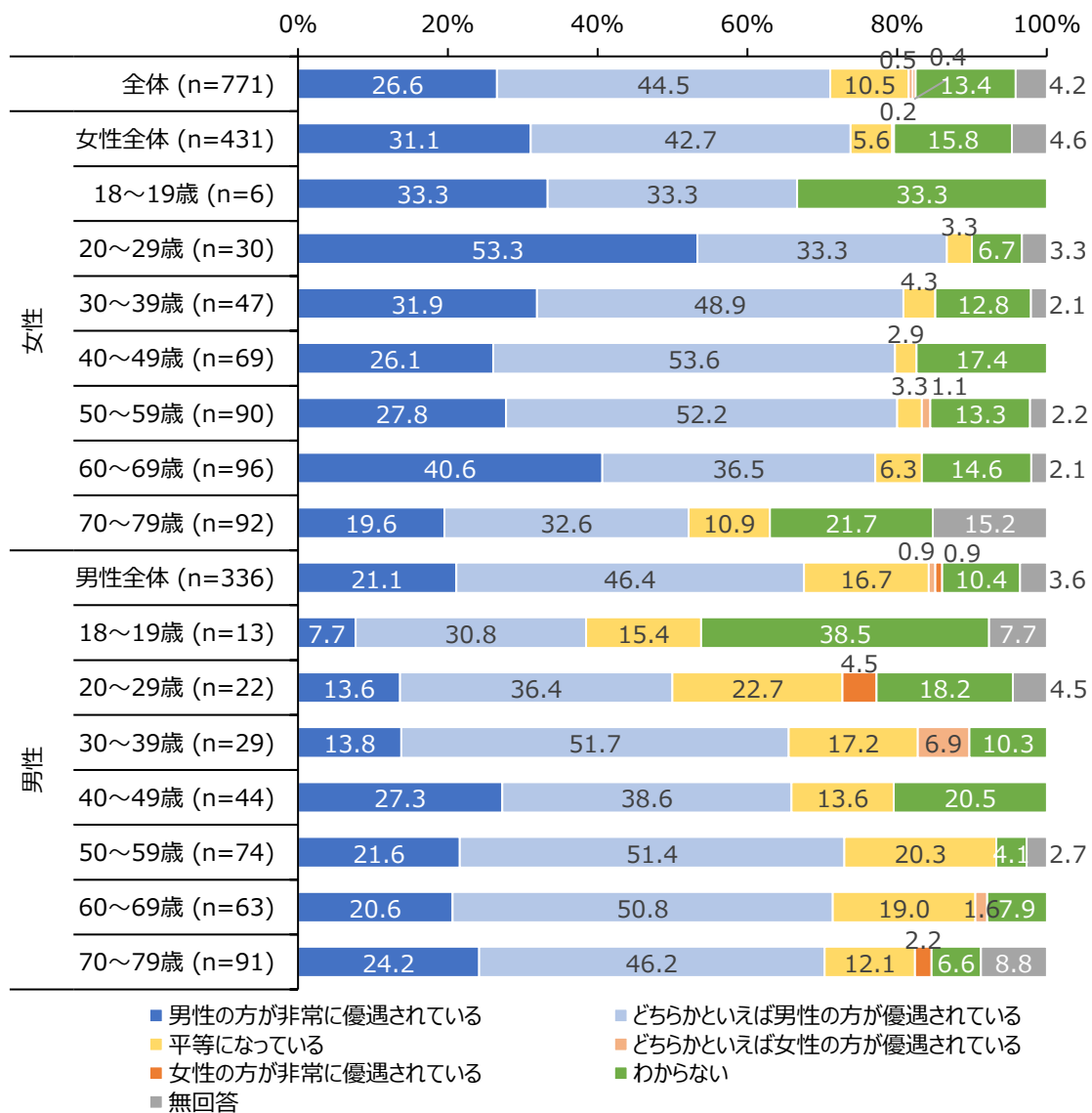
③ 学校教育の場

男女の地位の平等について_学校教育の場(SA)



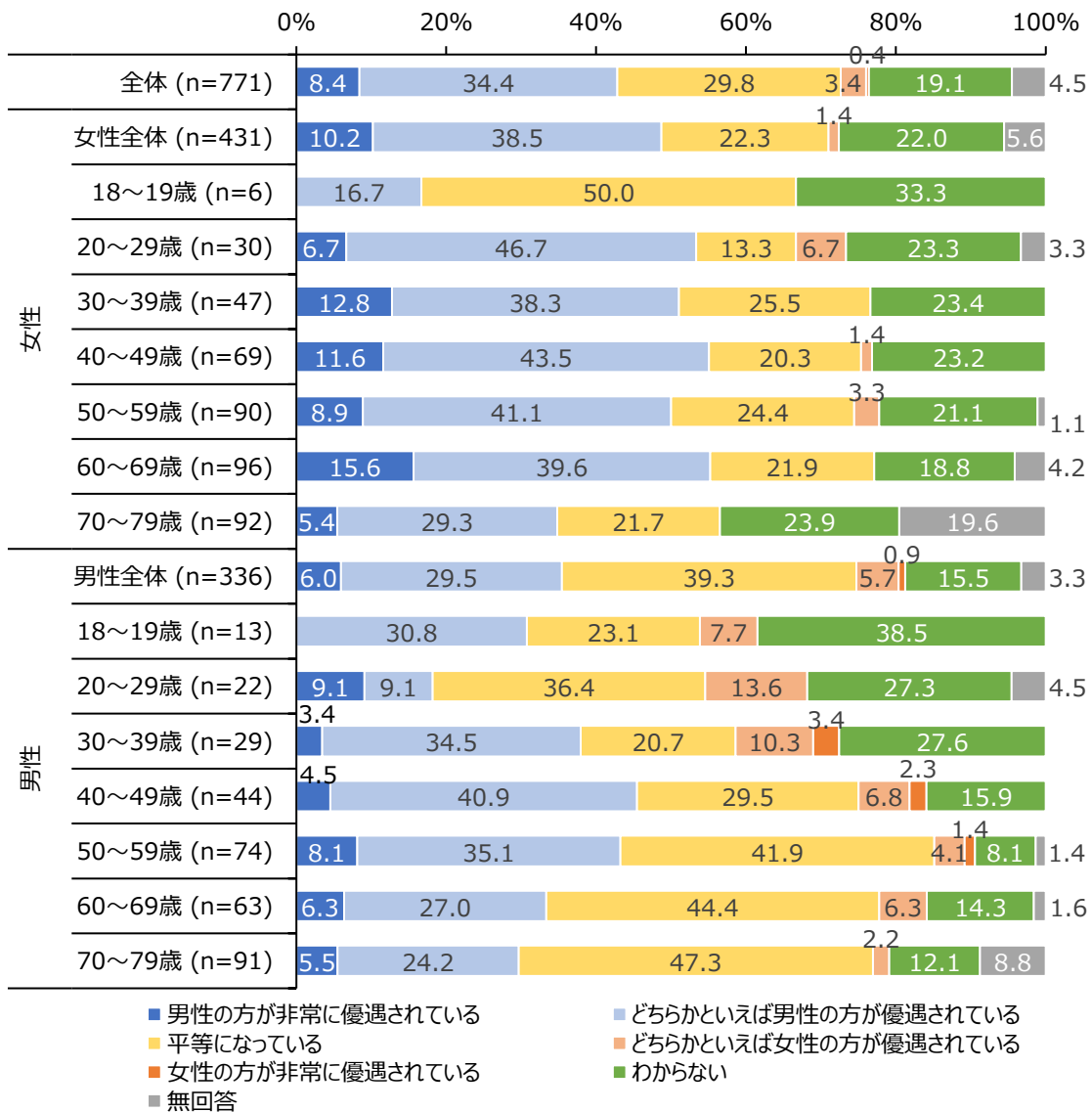
④ 政治の場

男女の地位の平等について_政治の場(SA)



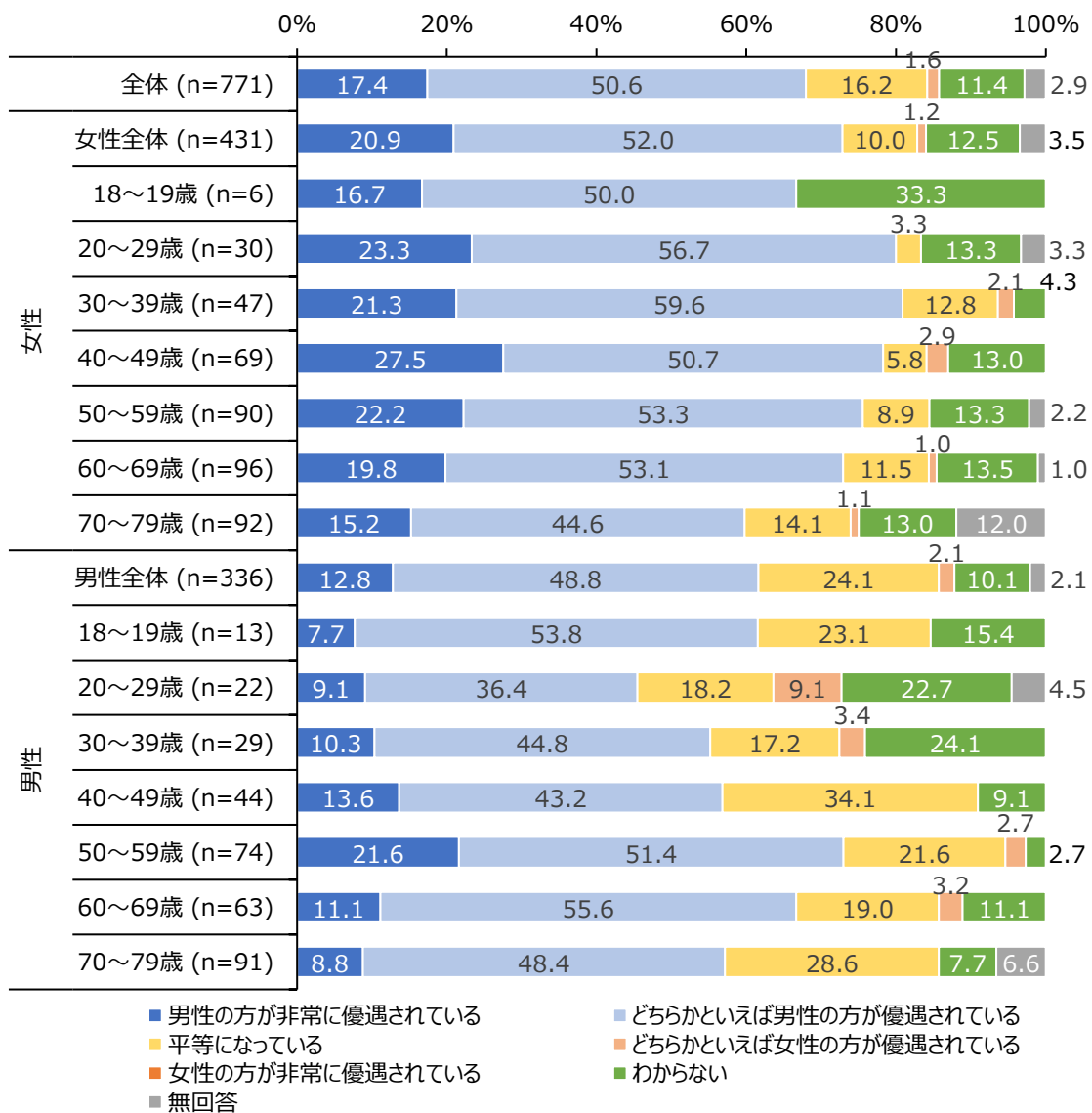
⑤ 法律や制度上

男女の地位の平等について_法律や制度上(SA)



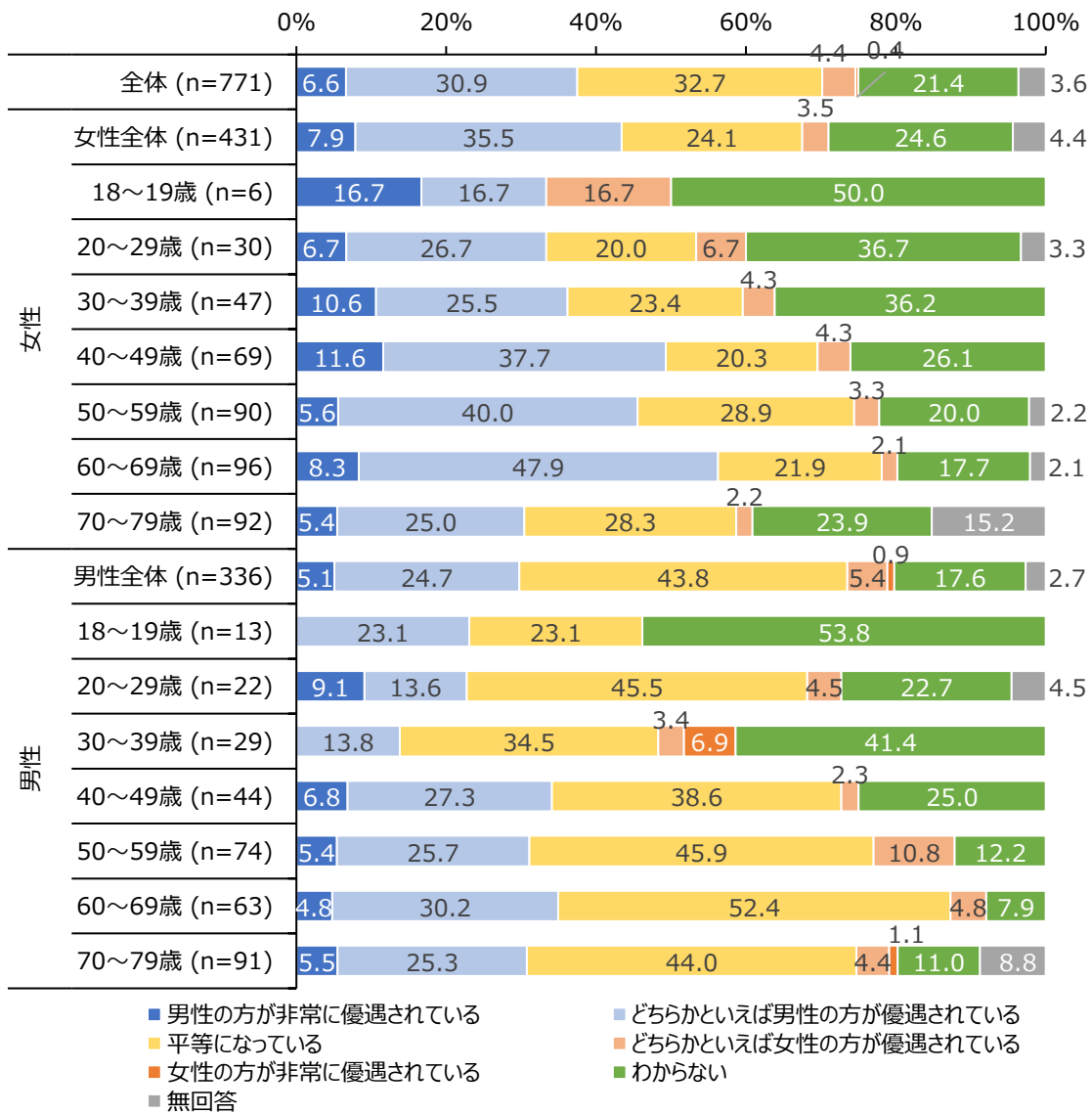
⑥ 社会通念・慣習・しきたりなど

男女の地位の平等について_社会通念・慣習・しきたりなど(SA)



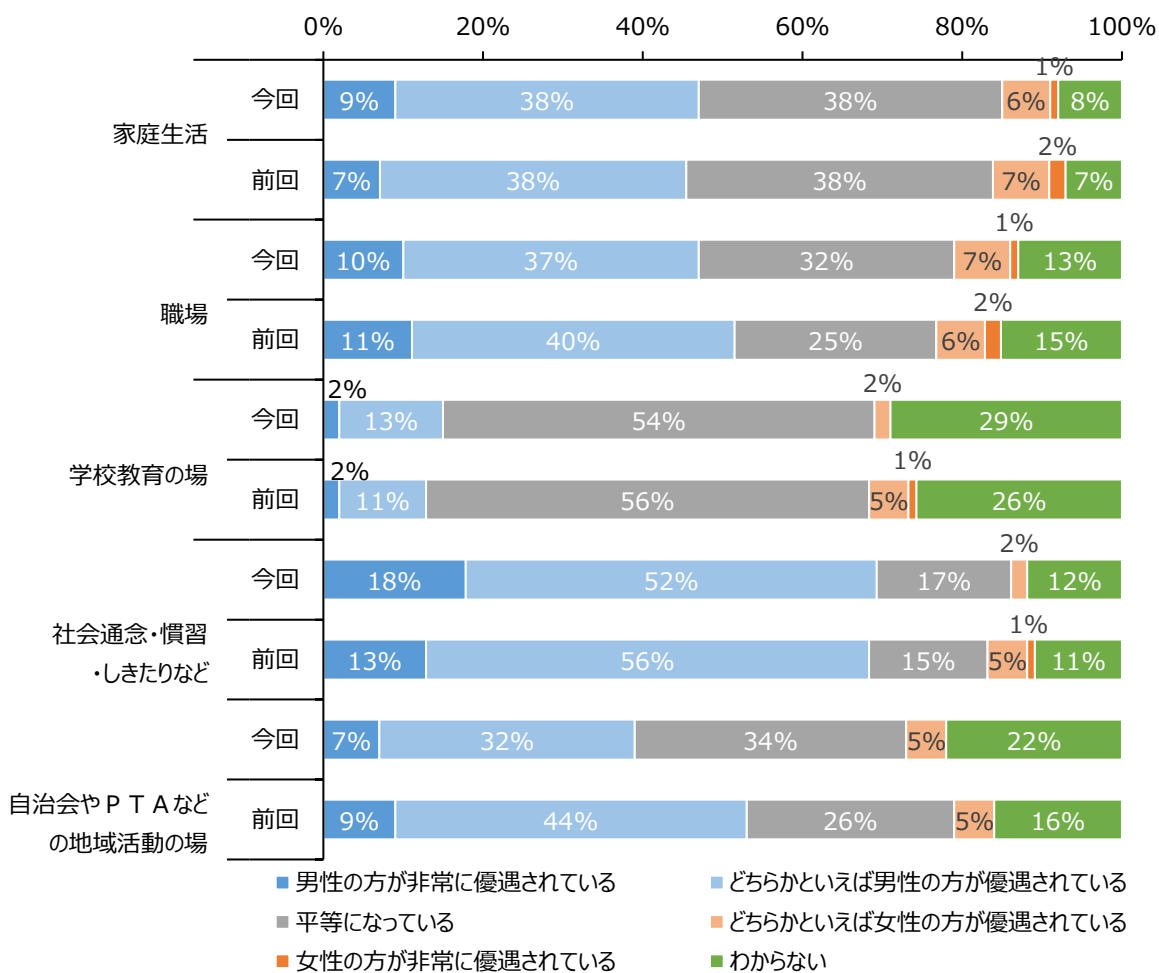
⑦ 自治会やPTAなどの地域活動の場

男女の地位の平等について_自治会やPTAなどの地域活動の場(SA)



【前回（平成 27 年度）との比較】

男女の地位の平等について



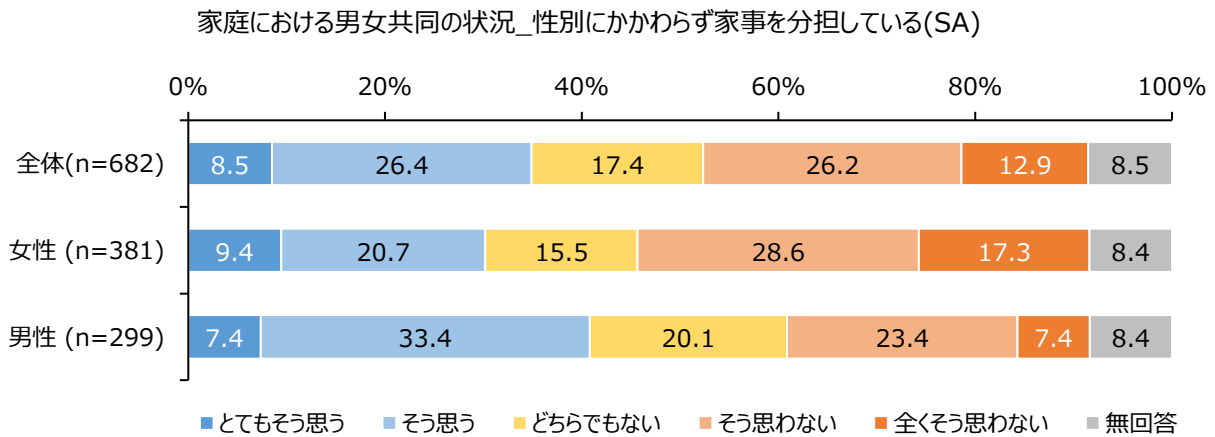
* 無回答を除く

* 前回調査した項目のみ比較

2.3. 「家庭」について

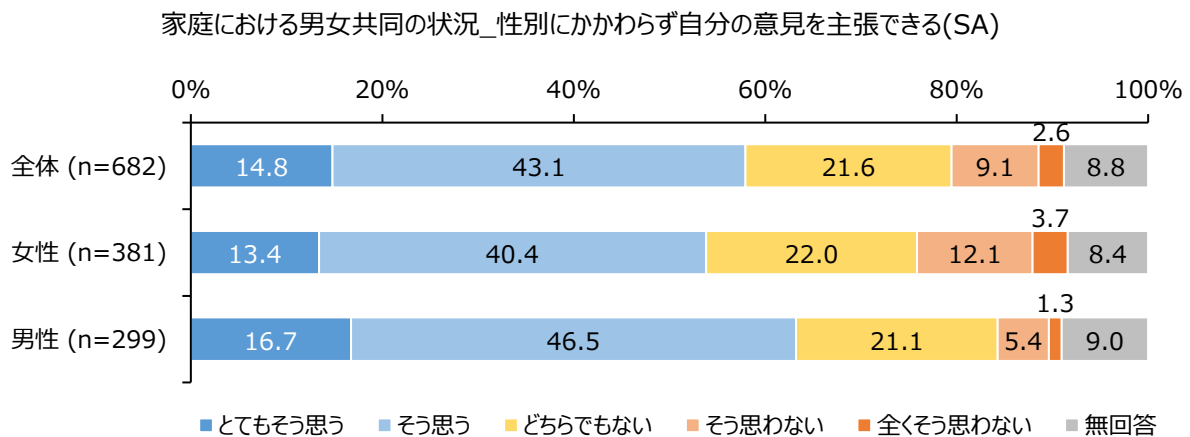
問5 家庭における男女共同の状況

① 家事の分担



*家族と同居している方

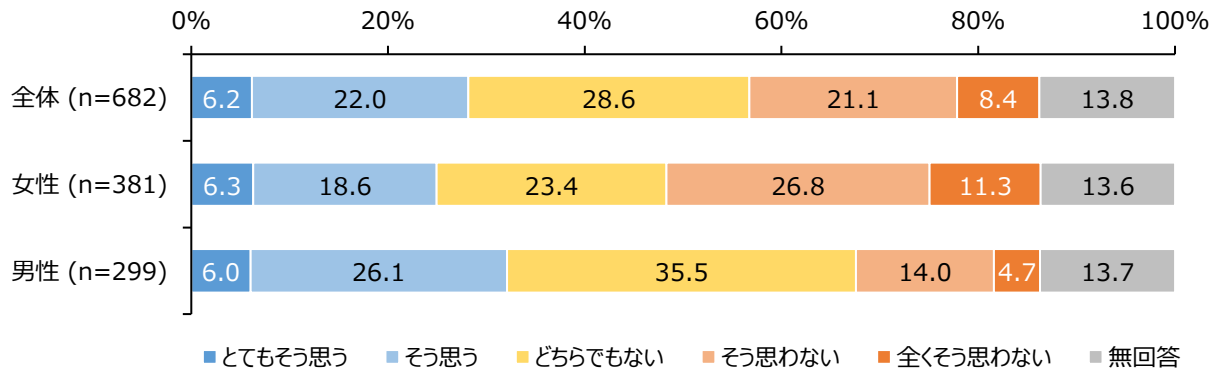
② 意見の主張



*家族と同居している方

③ 介護や育児の分担

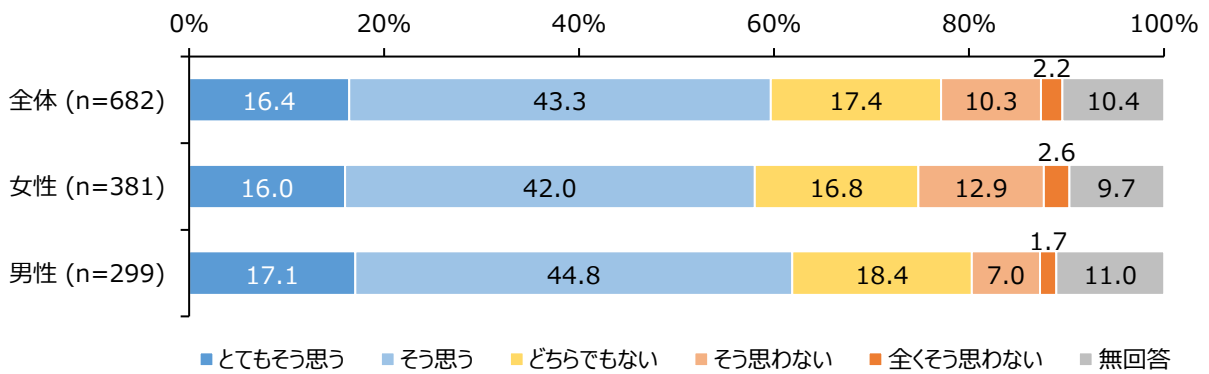
家庭における男女共同の状況_性別にかかわらず介護や育児を分担している(SA)



*家族と同居している方

④ 就業機会

家庭における男女共同の状況_性別にかかわらず働くことができる(SA)

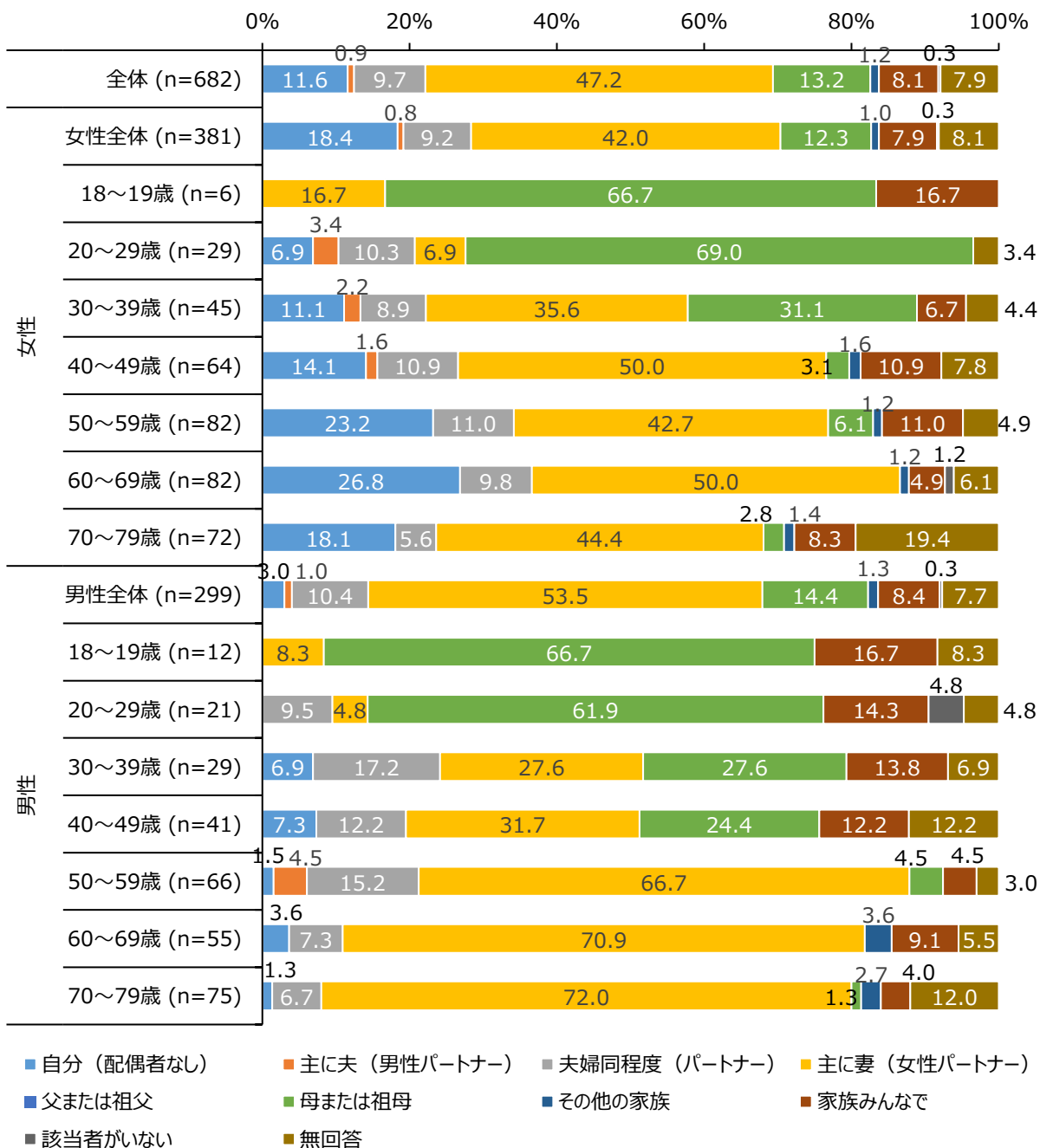


*家族と同居している方

問6 家事などの分担

① 家事

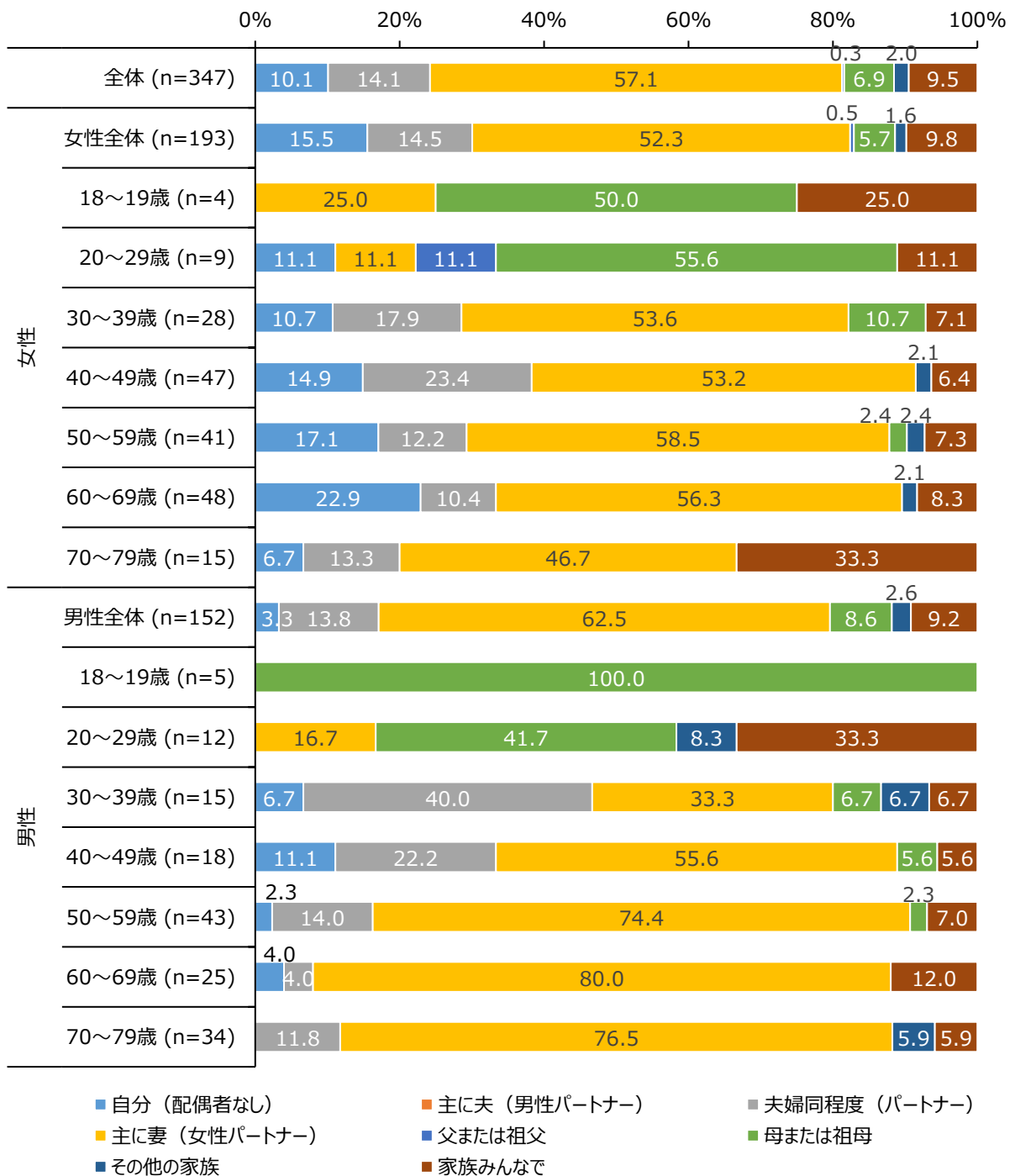
家庭で家事などをするのは、主にだれか_家事 (SA)



*家族と同居している方

② 育児

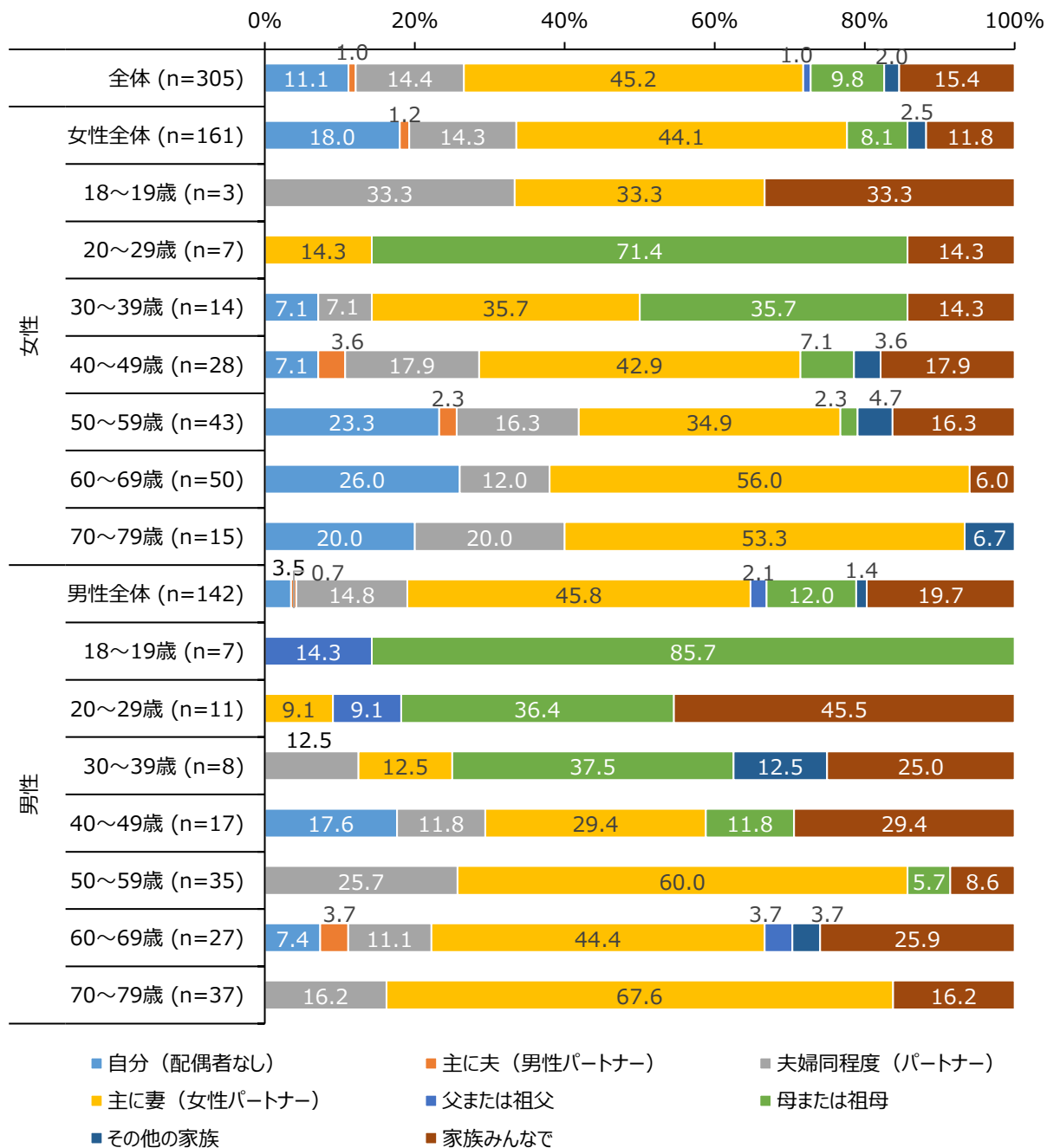
家庭で家事などをするのは、主にだれか_育児 (SA)



*家族と同居している方
 ※「該当者がいない」、「無回答」除く

③ 看護・介護

家庭で家事などをするのは、主にだれか_看護・介護 (SA)

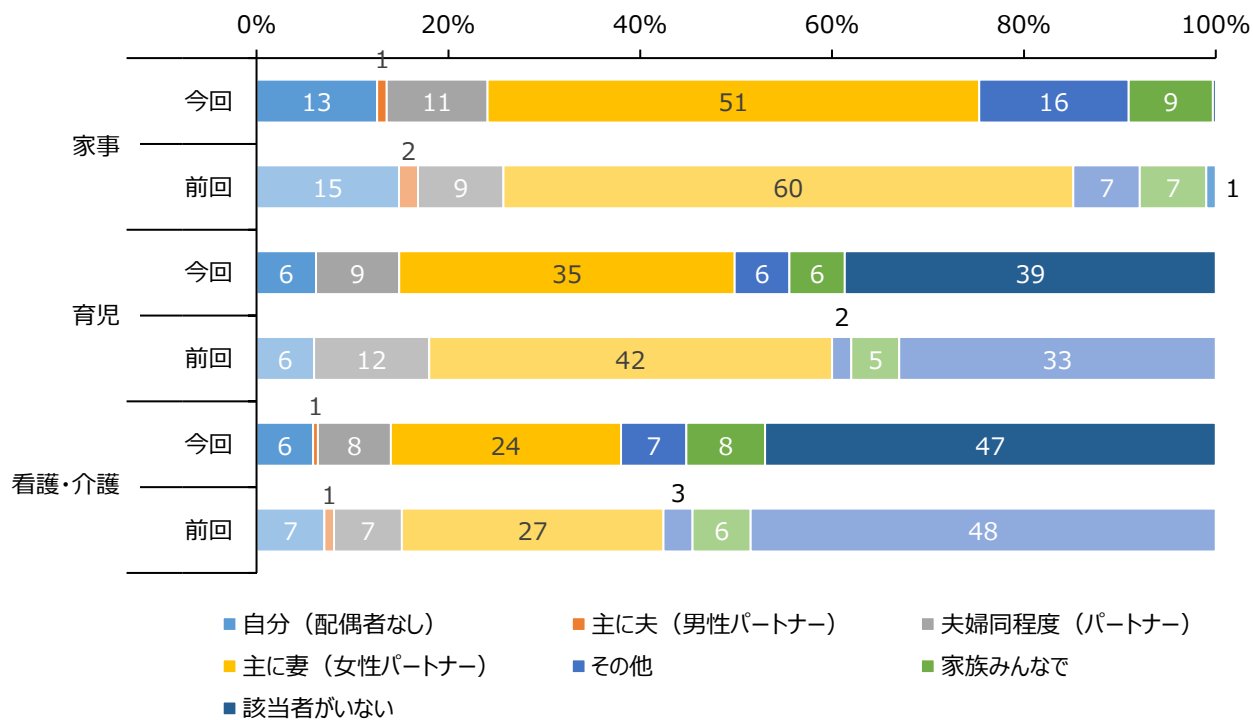


*家族と同居している方

※「該当者がいない」、「無回答」除く

【前回（平成 27 年度）との比較】

家庭で家事などをするのは、主にだれか

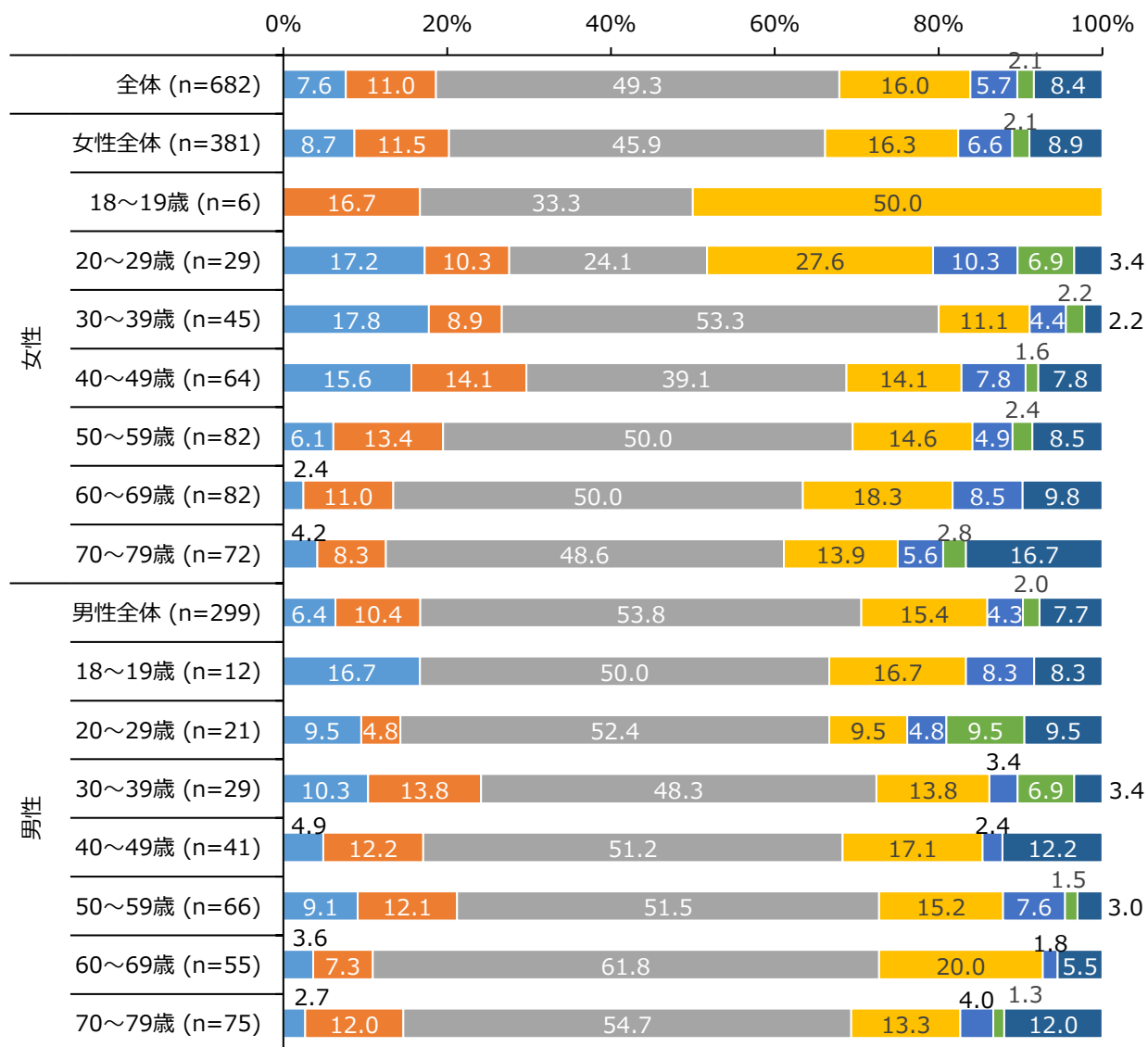


*無回答を除く

*その他・・・父または祖父、母または祖母、その他家族

問7 家庭内の決め事

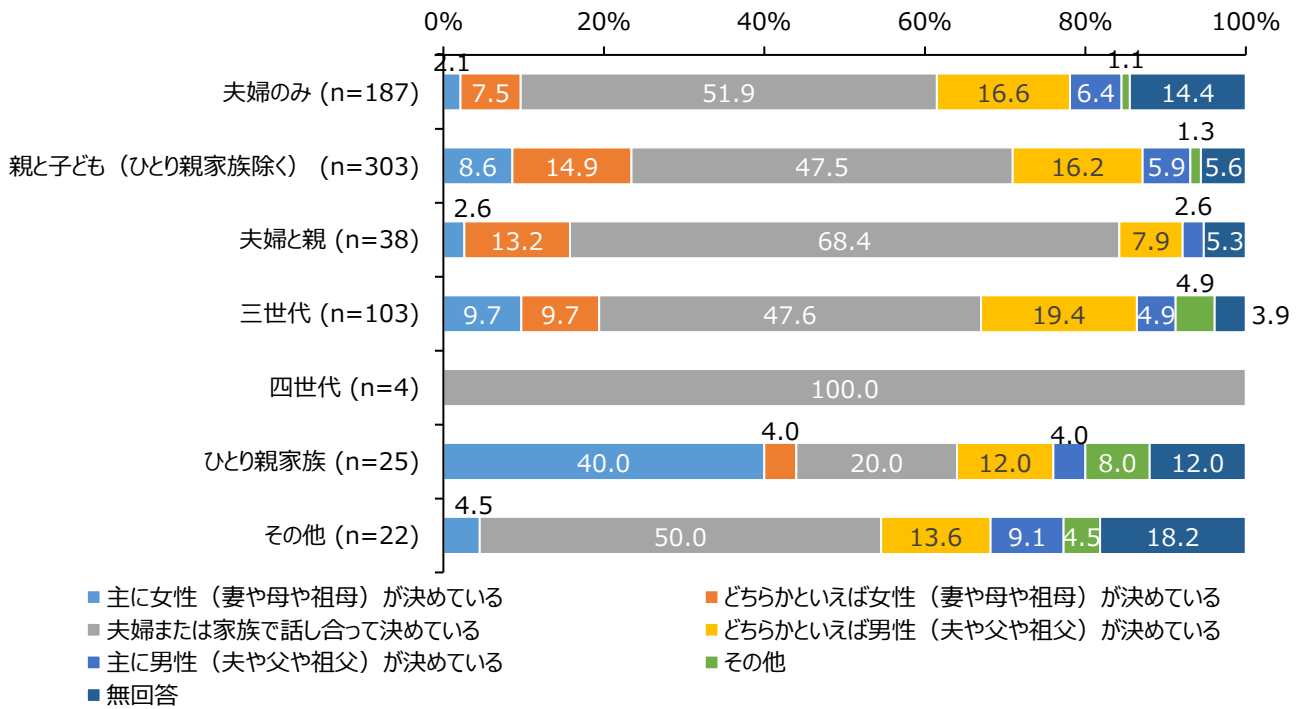
家庭内の決め事はだれが決めているか (SA)



- 主に女性 (妻や母や祖母) が決めている
- どちらかといえば女性 (妻や母や祖母) が決めている
- 夫婦または家族で話し合っ決めて
- どちらかといえば男性 (夫や父や祖父) が決めている
- 主に男性 (夫や父や祖父) が決めている
- その他
- 無回答

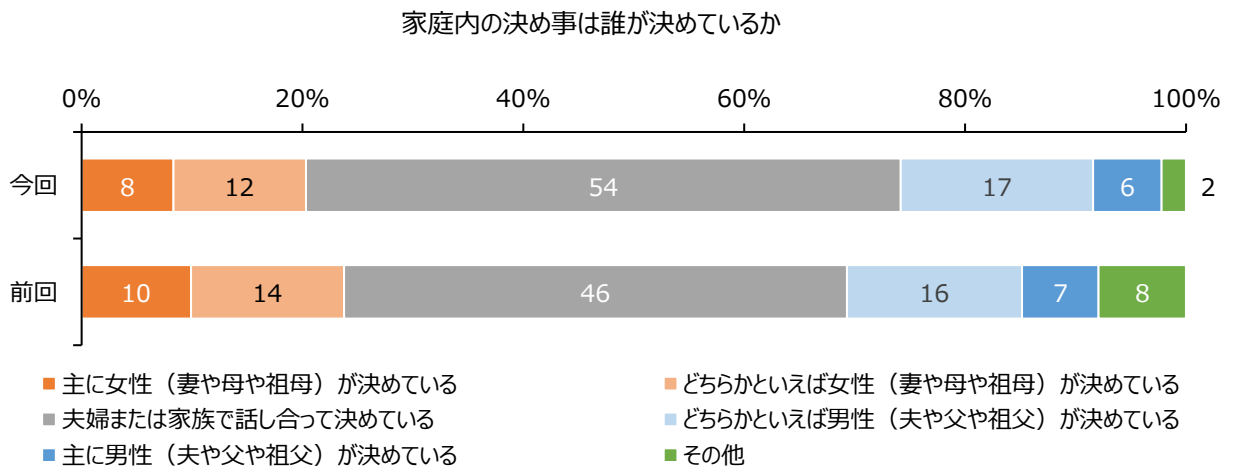
*家族と同居している方

家族構成 × 家庭内の決め事はだれが決めているか



*家族と同居している方

【前回 (平成 27 年度) との比較】

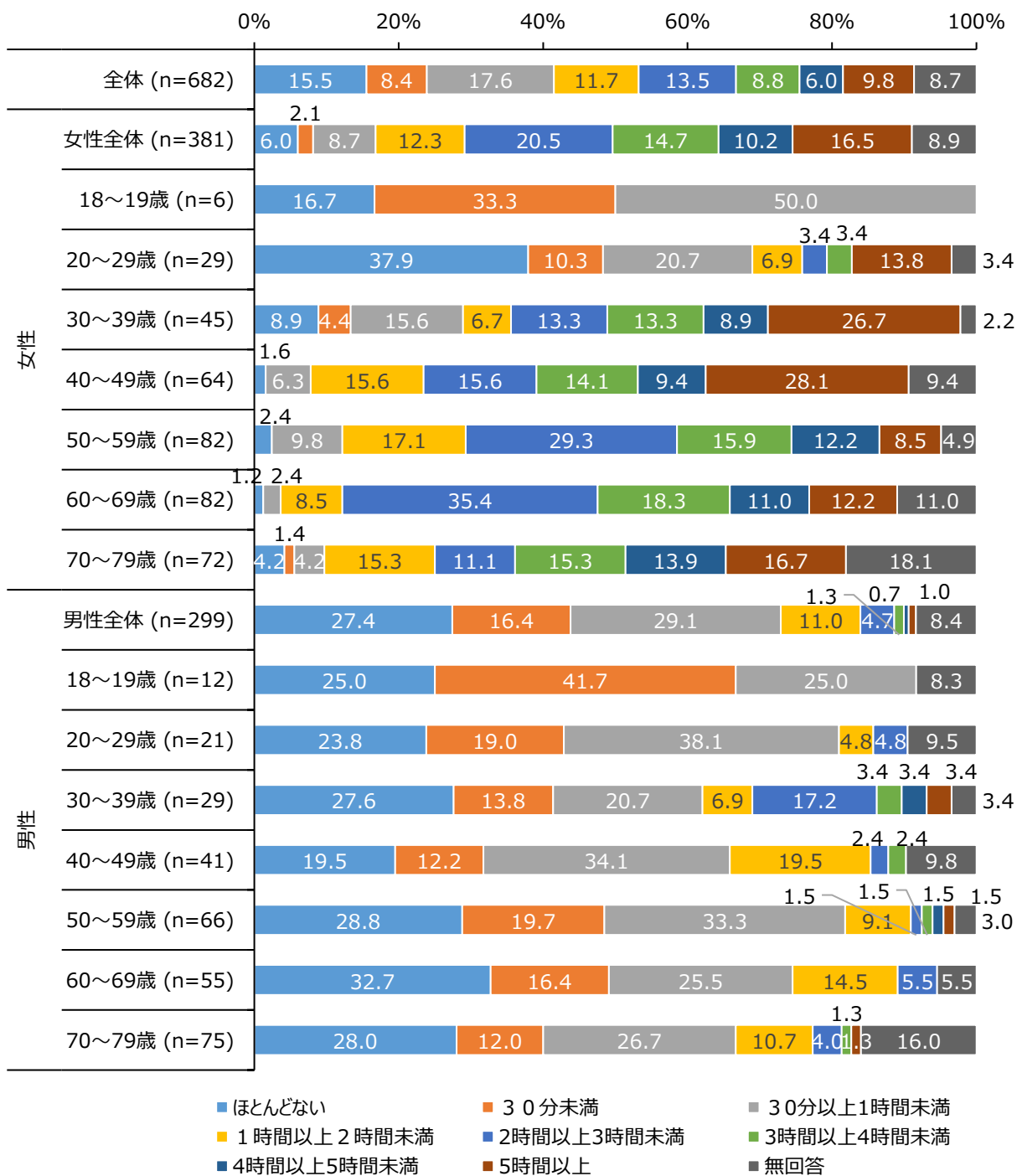


*無回答を除く

問8・9 一日に家事・育児・介護等に関わる時間

① 平日

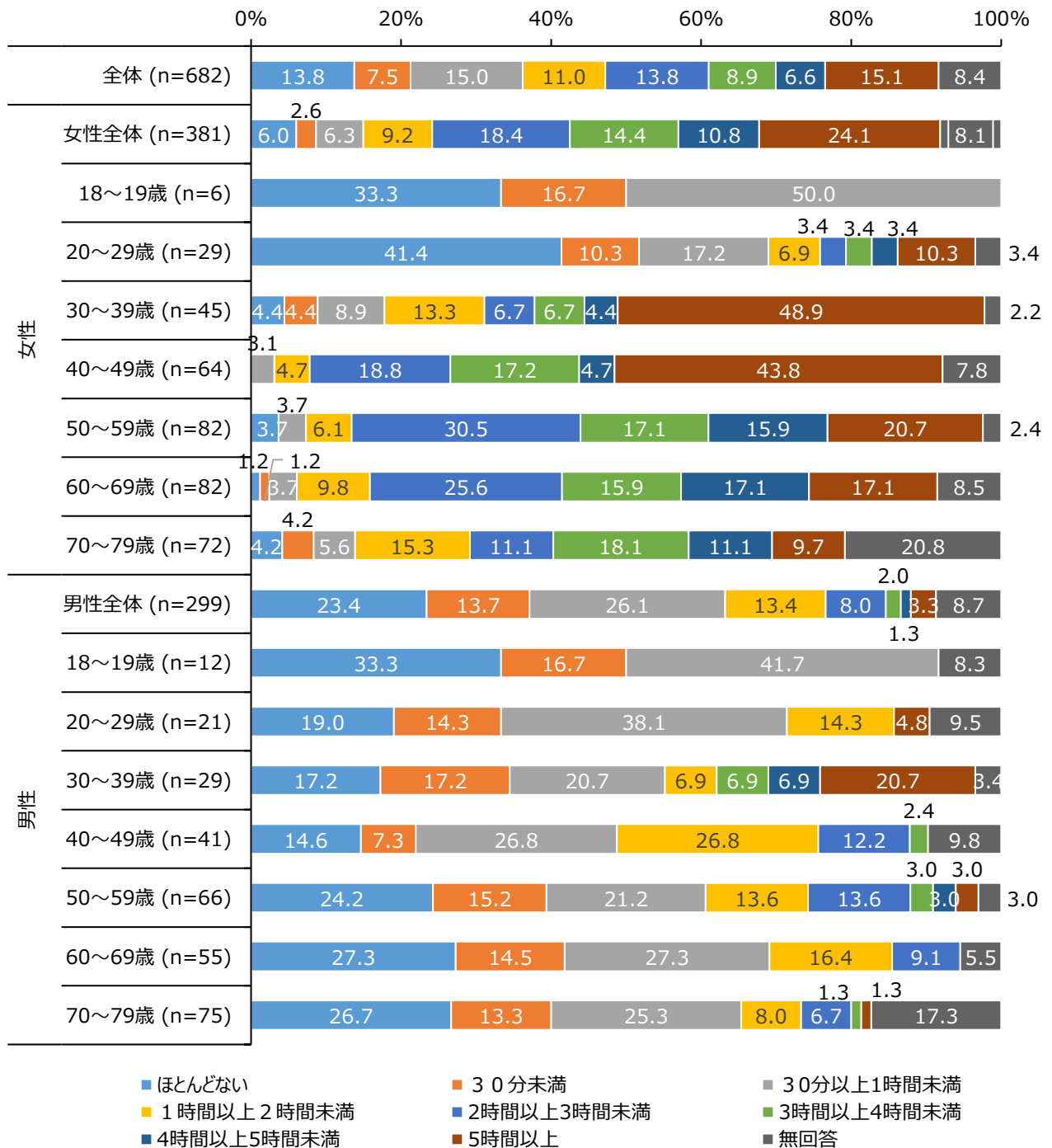
一日（平日）に家事・育児・介護等に関わる時間（SA）



*家族と同居している方

② 休日

一日（休日）に家事・育児・介護等に関わる時間（SA）

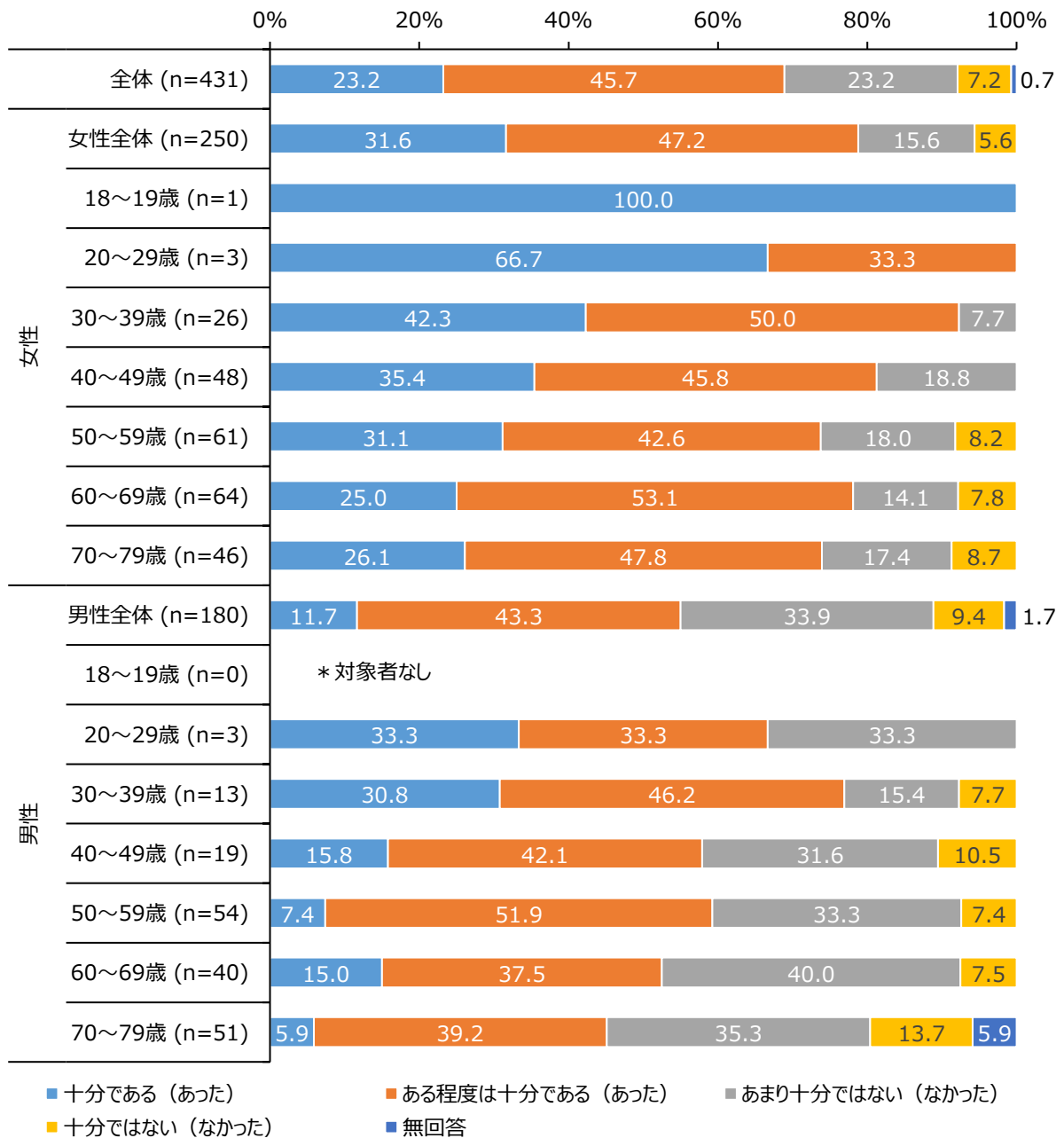


*家族と同居している方

問 10・11 子育てへのかかわり

① 自身の子育てへの関わり

自身の子育てへのかかわりは十分である、または十分であったと思うか (SA)



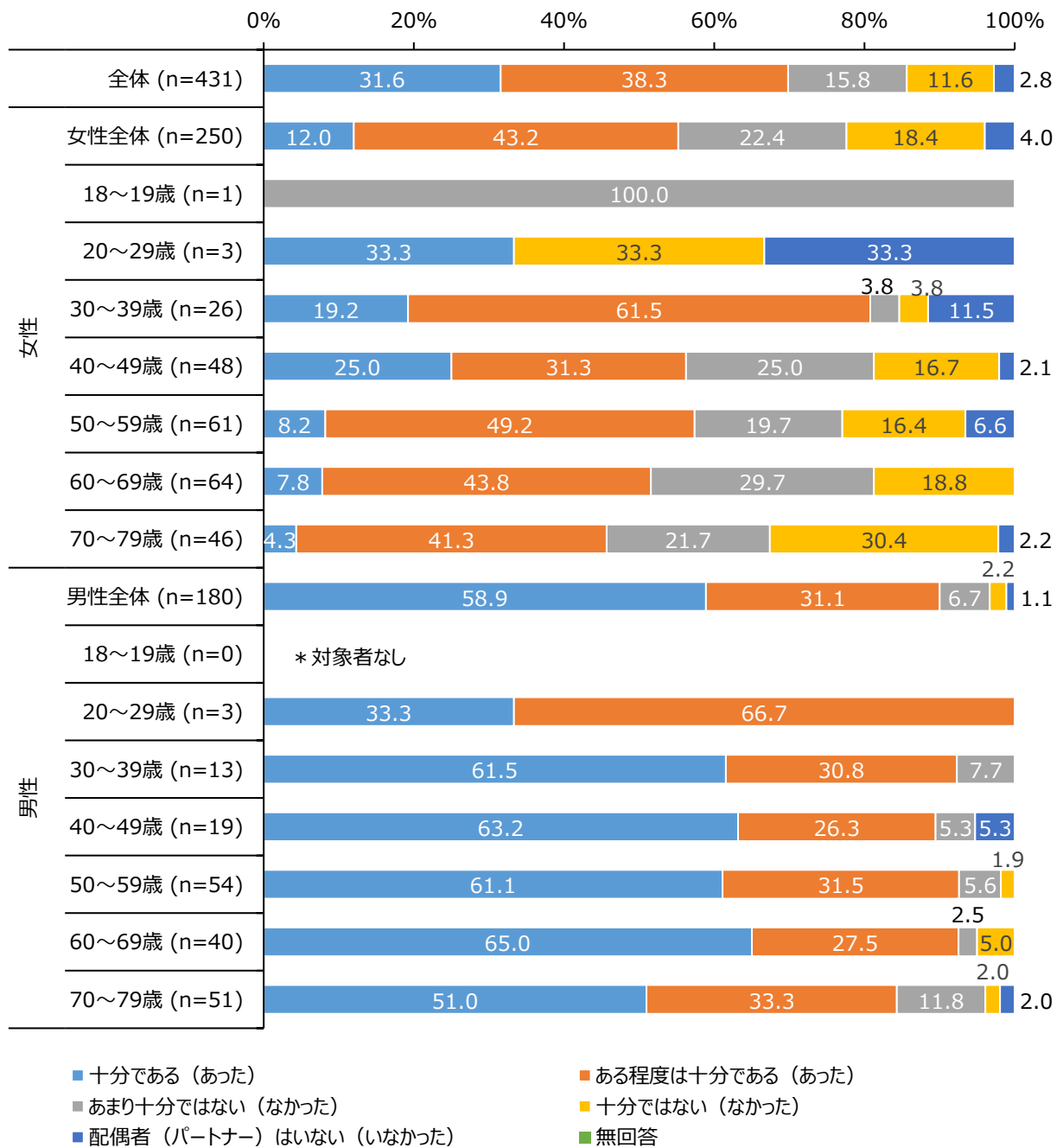
* 家族と同居し、子育て中または子育て経験のある方

* 全体には年齢・性別無回答含む

* 女性全体には年齢無回答含む

② 配偶者の子育てへの関わり

配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりは十分である、または十分であったと思うか（SA）

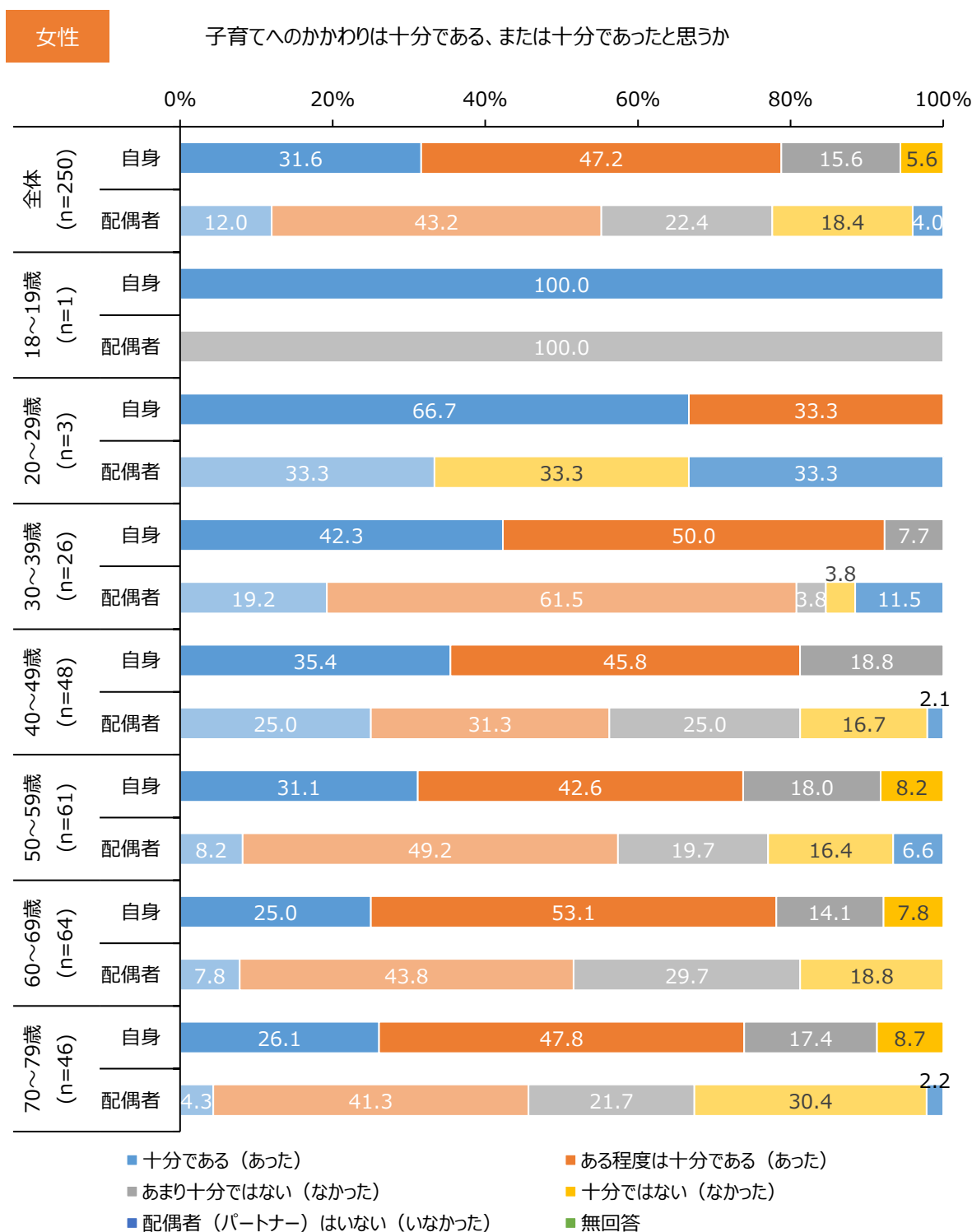


* 家族と同居し、子育て中または子育て経験のある方

* 全体には年齢・性別無回答含む

* 女性全体には年齢無回答含む

③ 自身と配偶者の子育てへの関わり（比較）

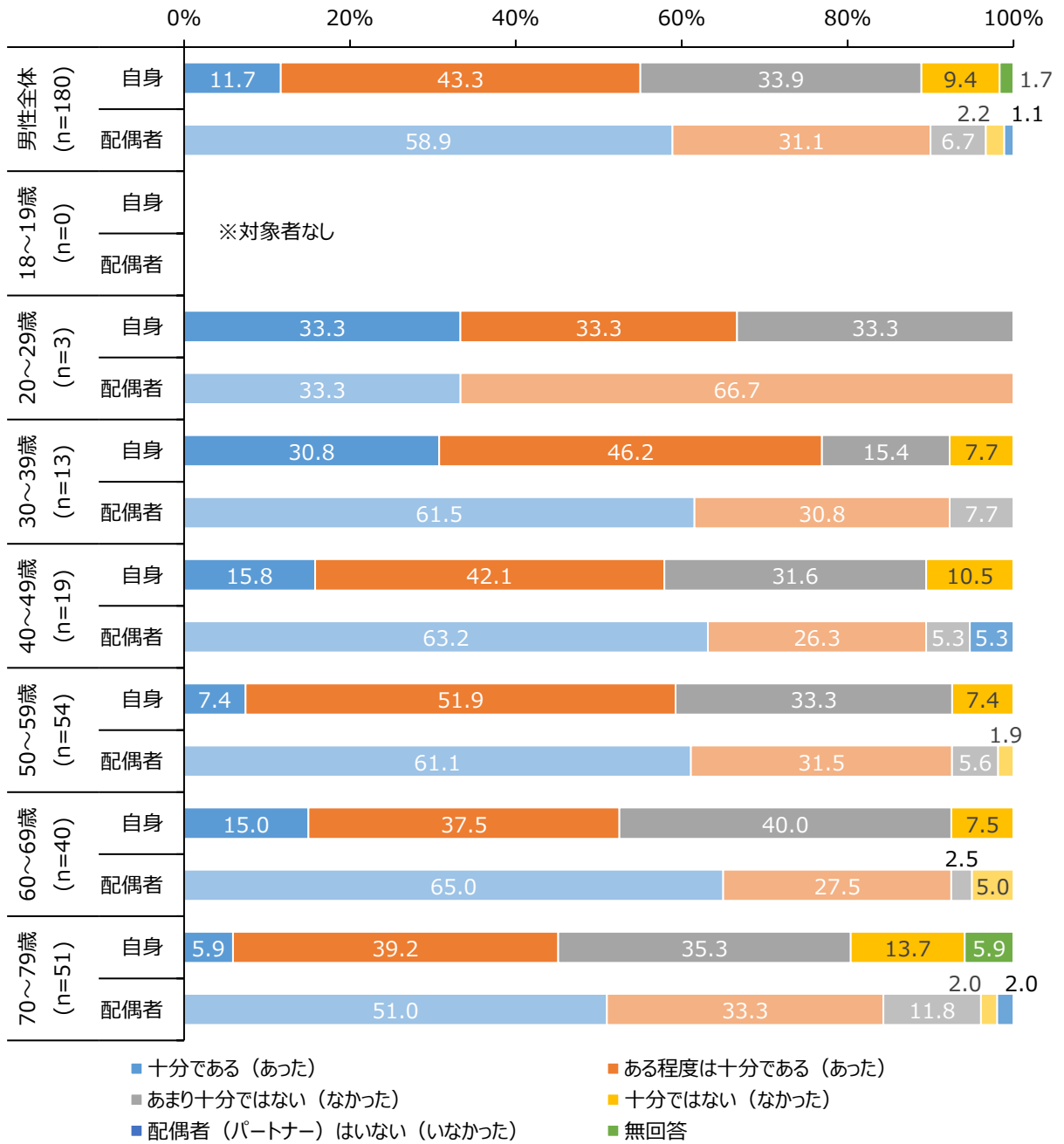


*家族と同居し、子育て中または子育て経験のある方

*女性全体には年齢無回答含む

男性

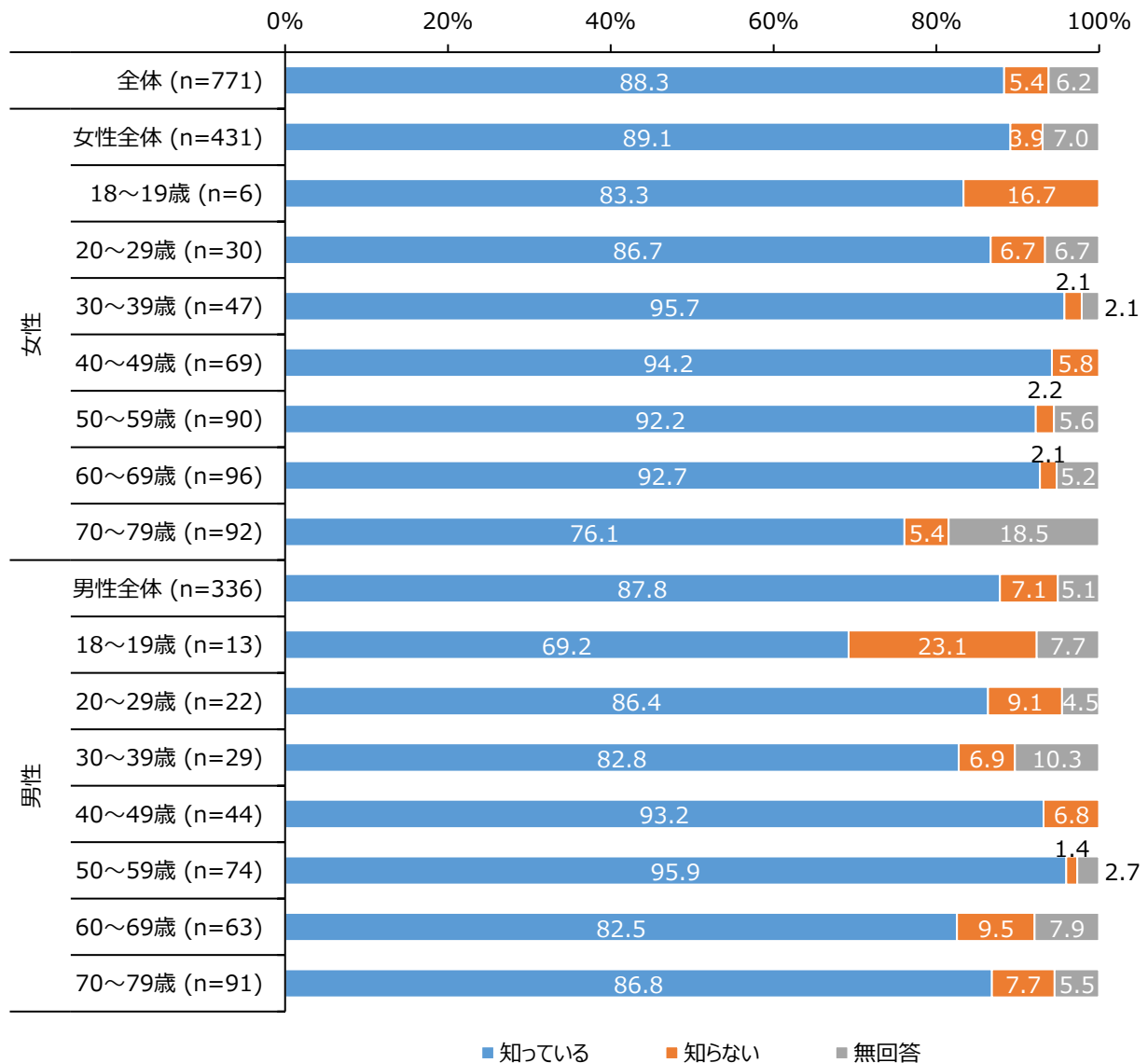
子育てへのかわりは十分である、または十分であったと思うか



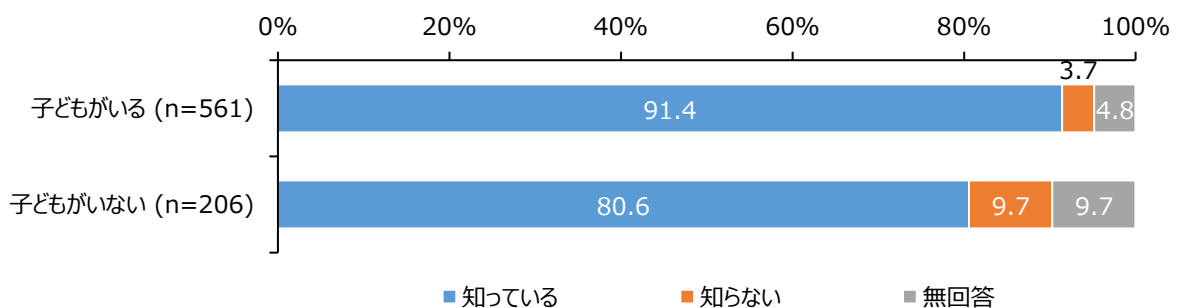
*家族と同居し、子育て中または子育て経験のある方

問12 育児休業制度の認知度

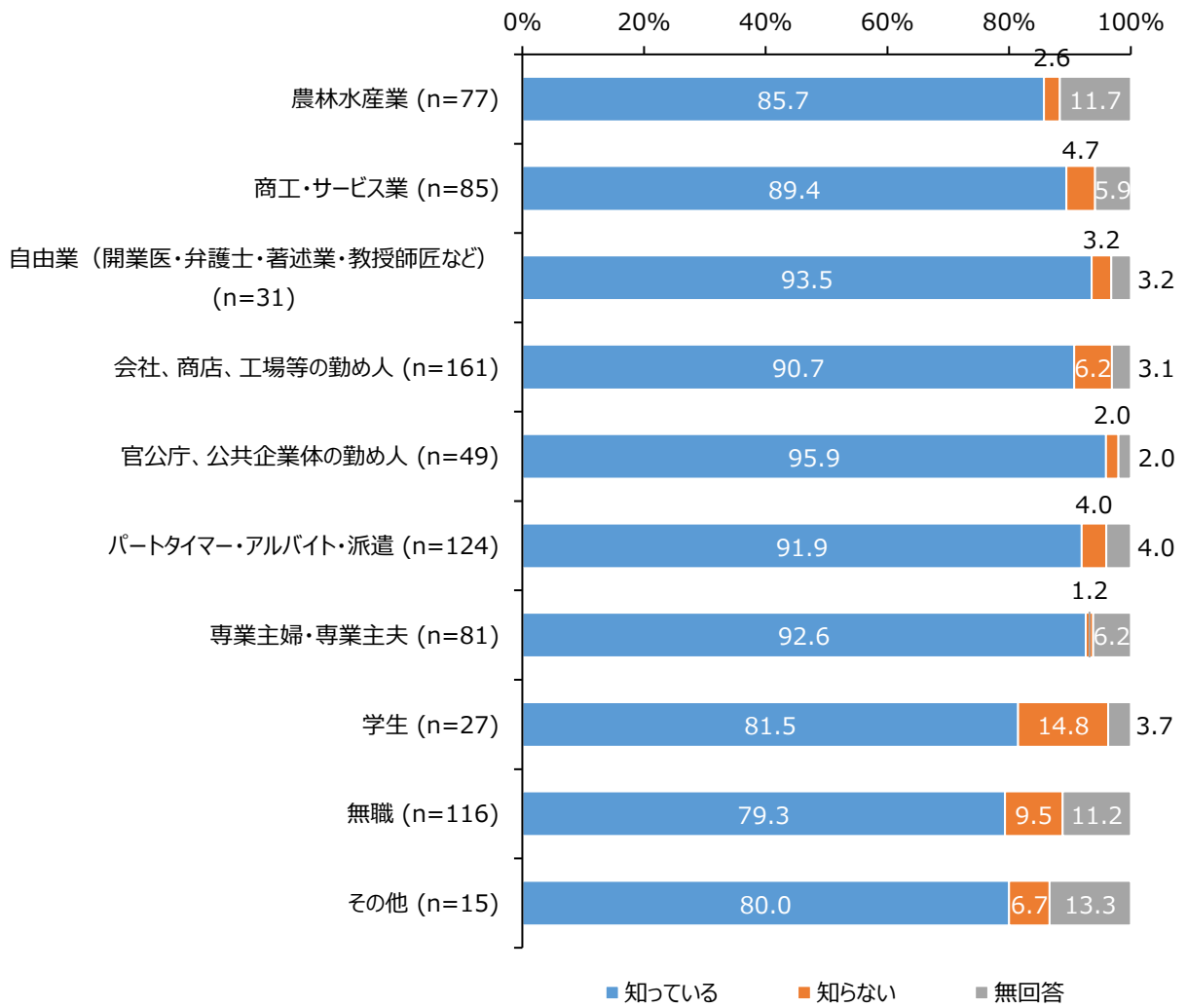
法律に基づき育児休業を取得できる制度を知っているか (SA)



子どもの有無 × 法律に基づき育児休業を取得できる制度を知っているか

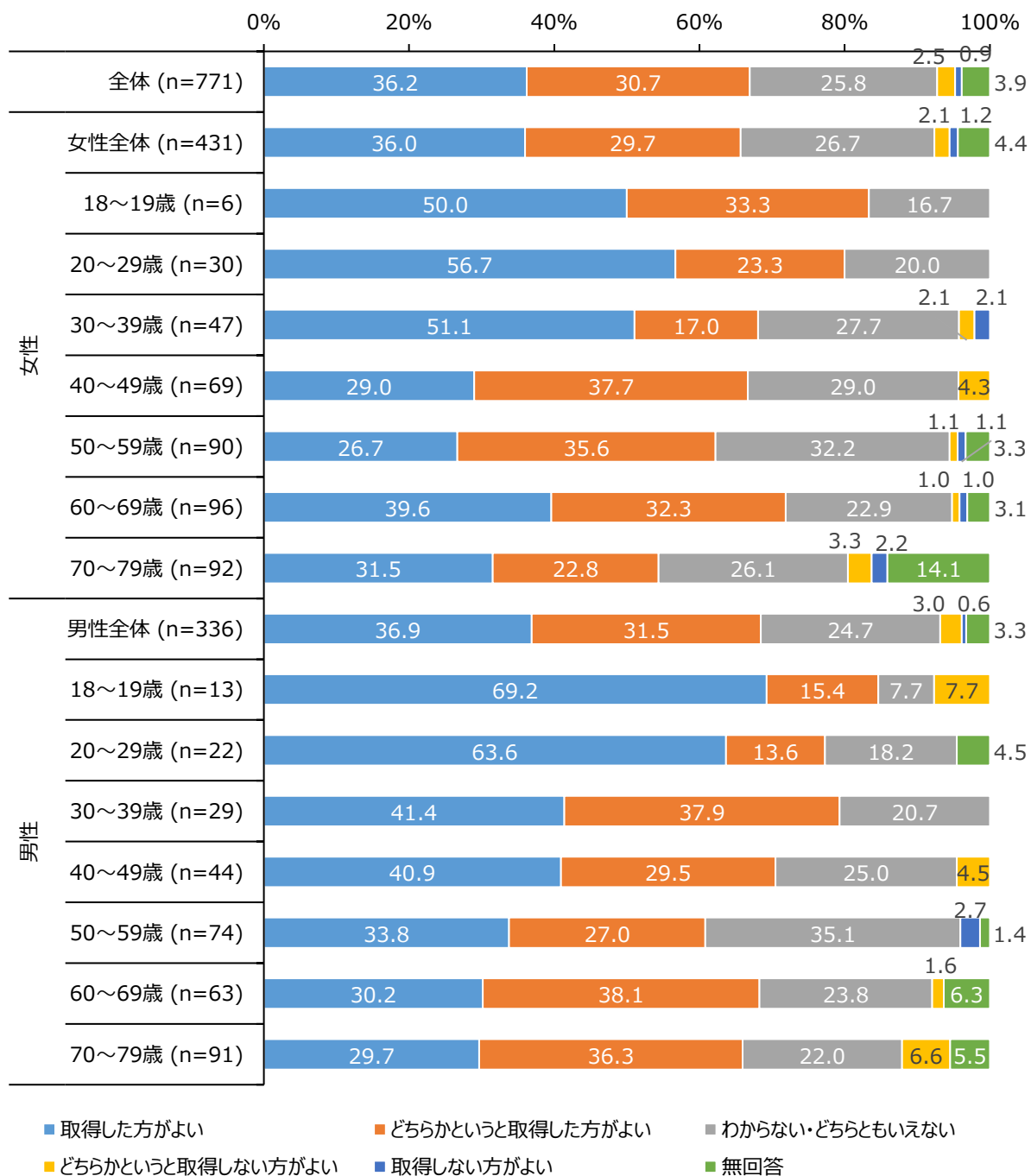


職業 × 法律に基づき育児休業を取得できる制度を知っているか

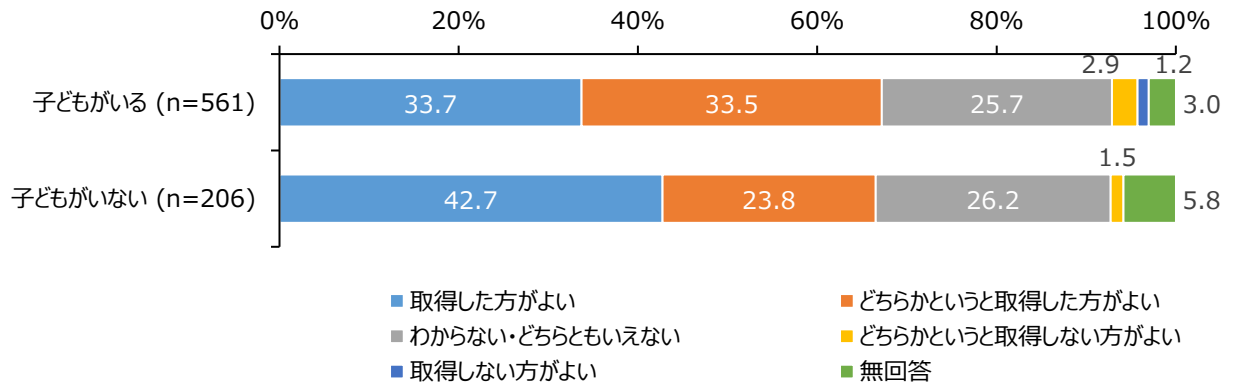


問12-1 制度を活用して、男性が育児休業を取得することについて

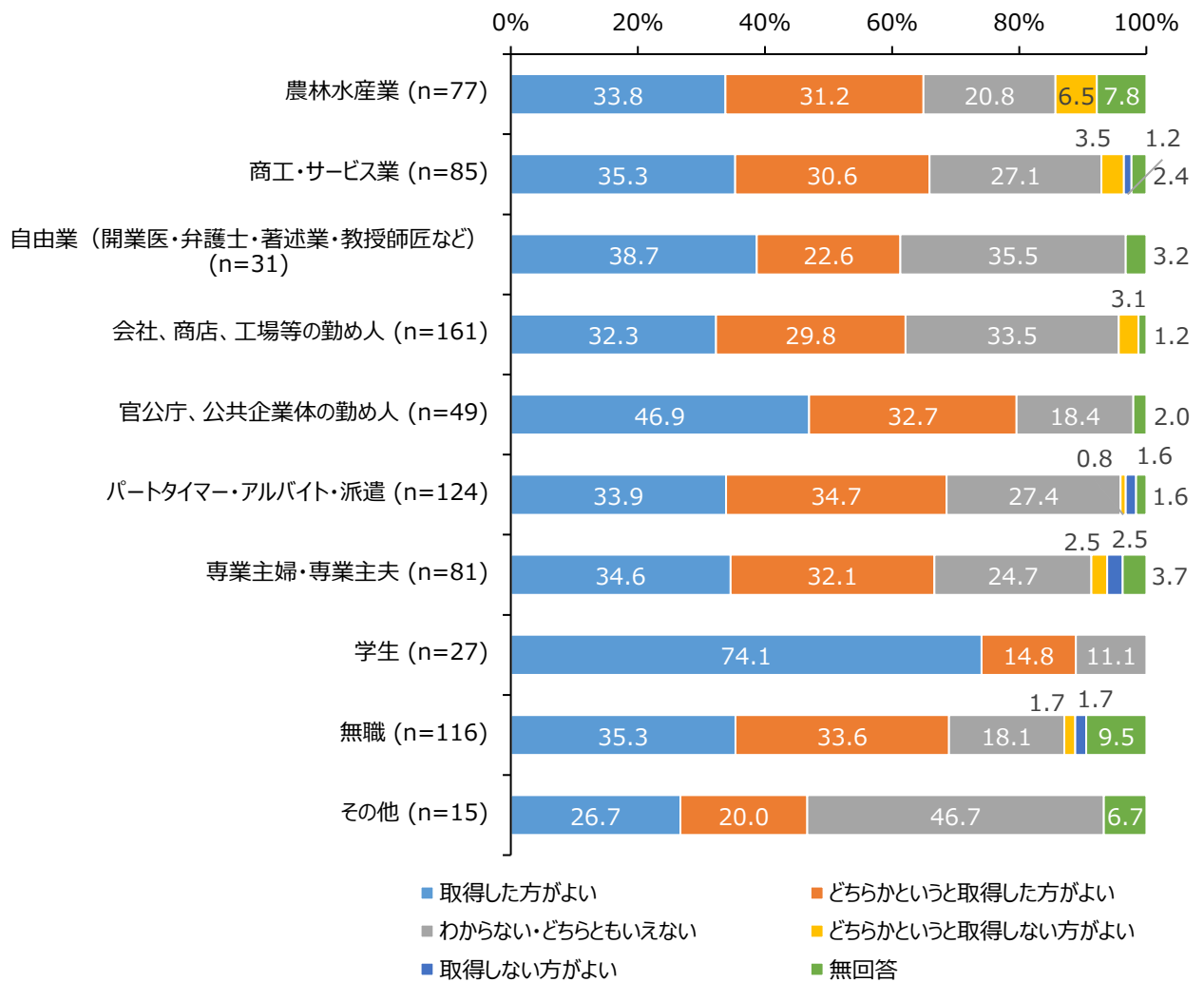
制度を活用して、男性が育児休業を取得することについて、どう思うか (SA)



子どもの有無 × 制度を活用して、男性が育児休業を取得することについて、どう思うか

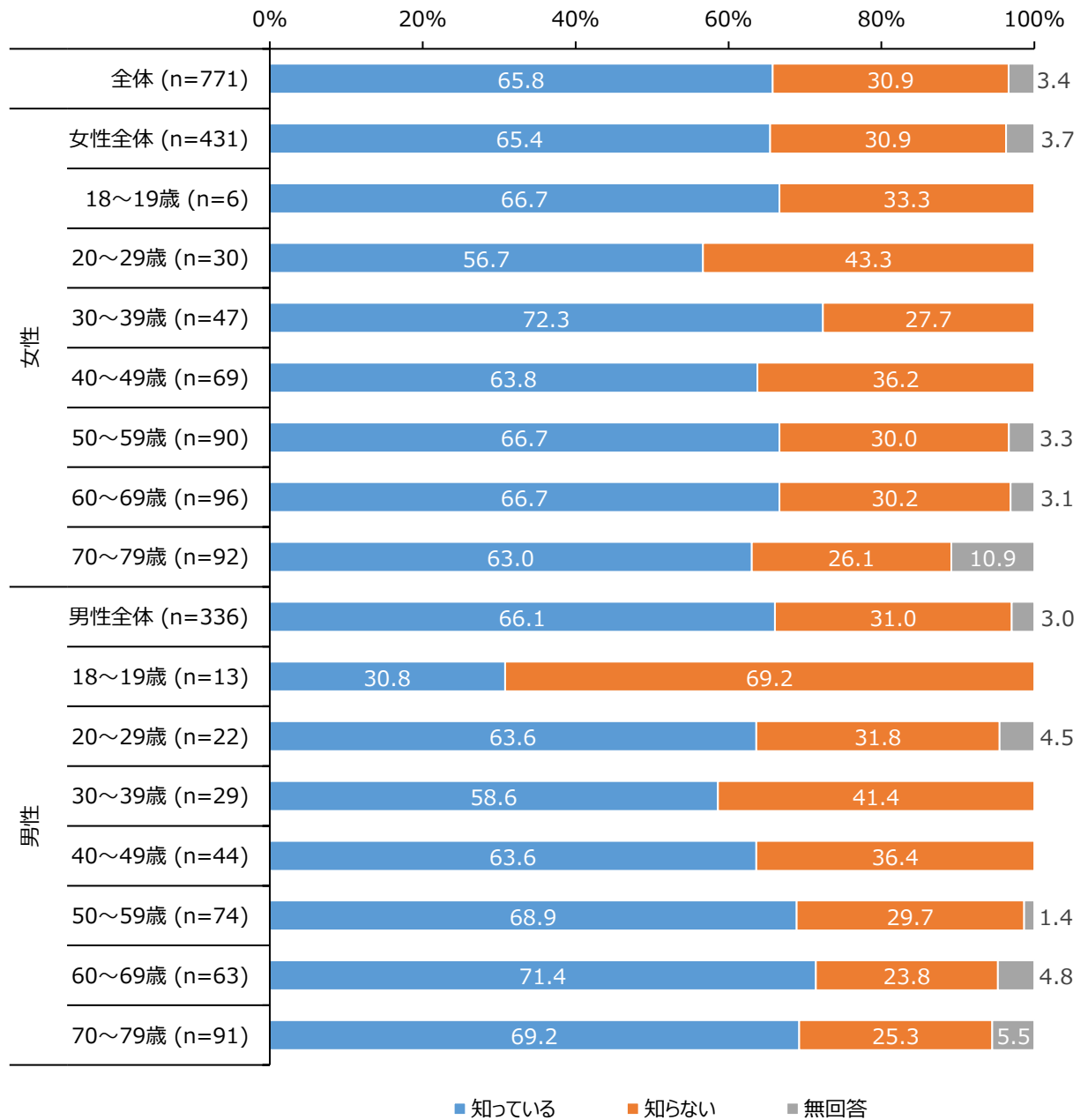


職業 × 制度を活用して、男性が育児休業を取得することについて、どう思うか

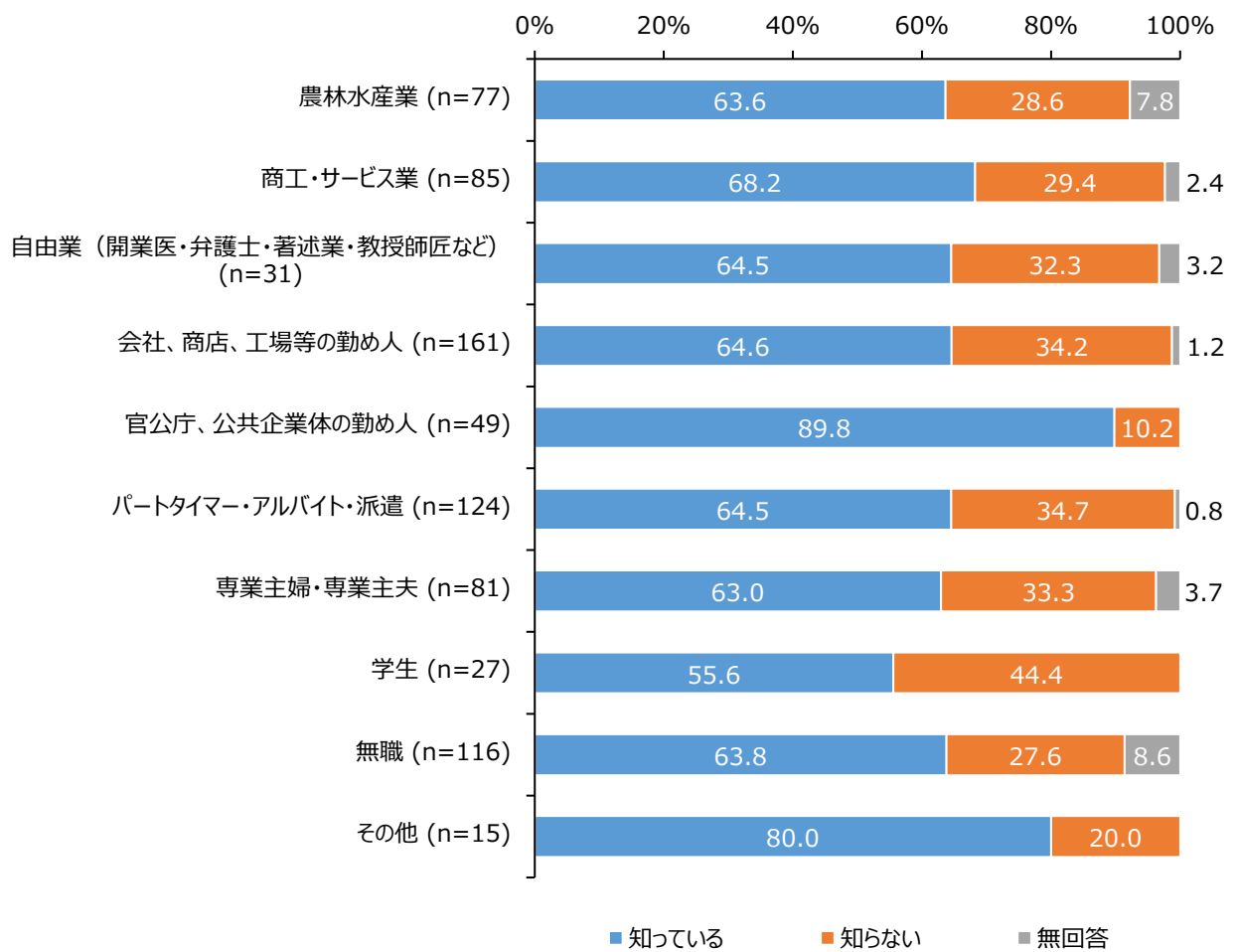


問13 介護休業制度の認知度

法律に基づき介護休業を取得できる制度を知っているか (SA)

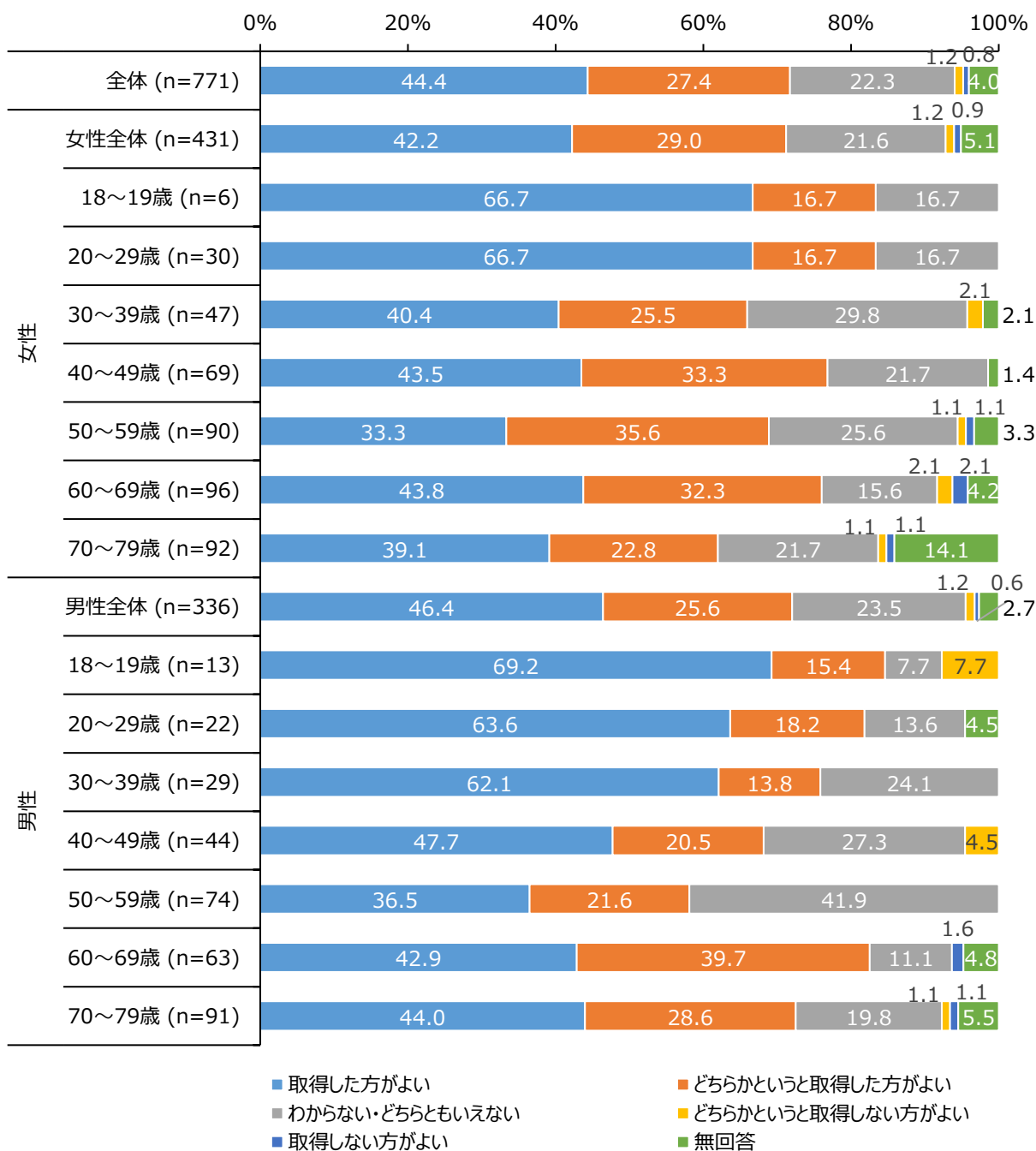


職業 × 法律に基づき介護休業を取得できる制度を知っているか

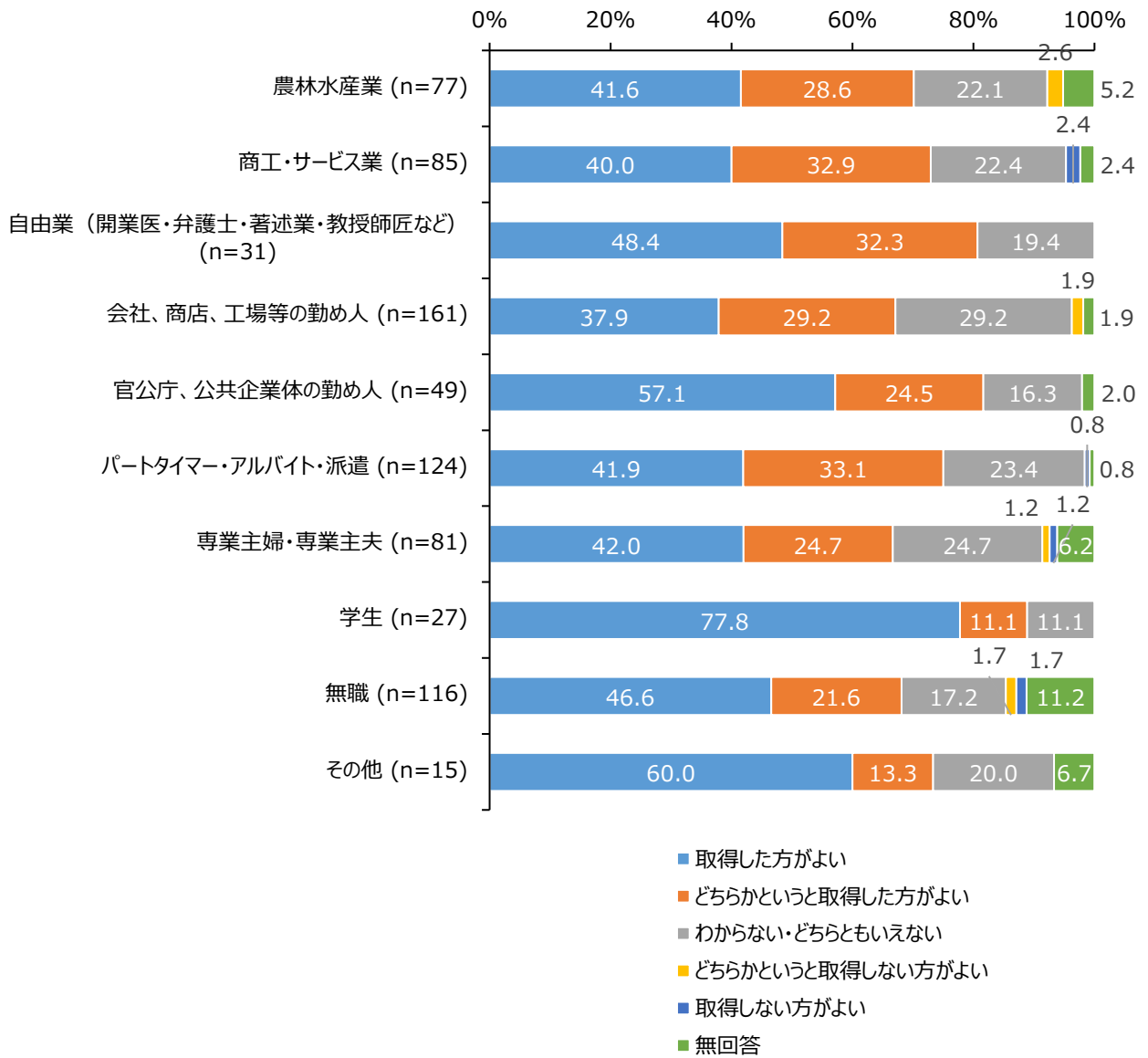


問13-1 制度を活用して、男性が介護休業を取得することについて

制度を活用して、男性が介護休業を取得することについて、どう思うか（SA）

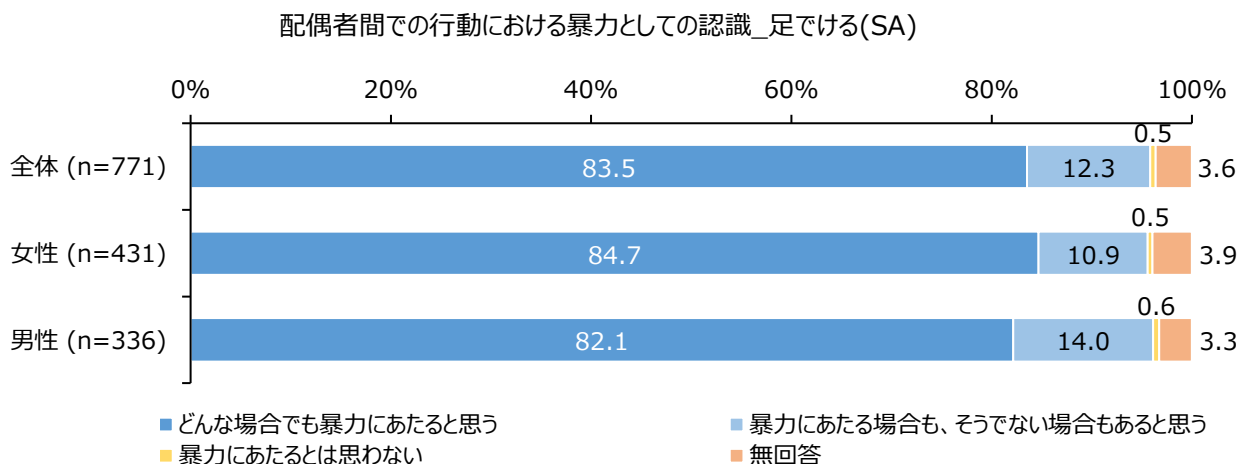


職業 × 制度を活用して、男性が介護休業を取得することについて、どう思うか

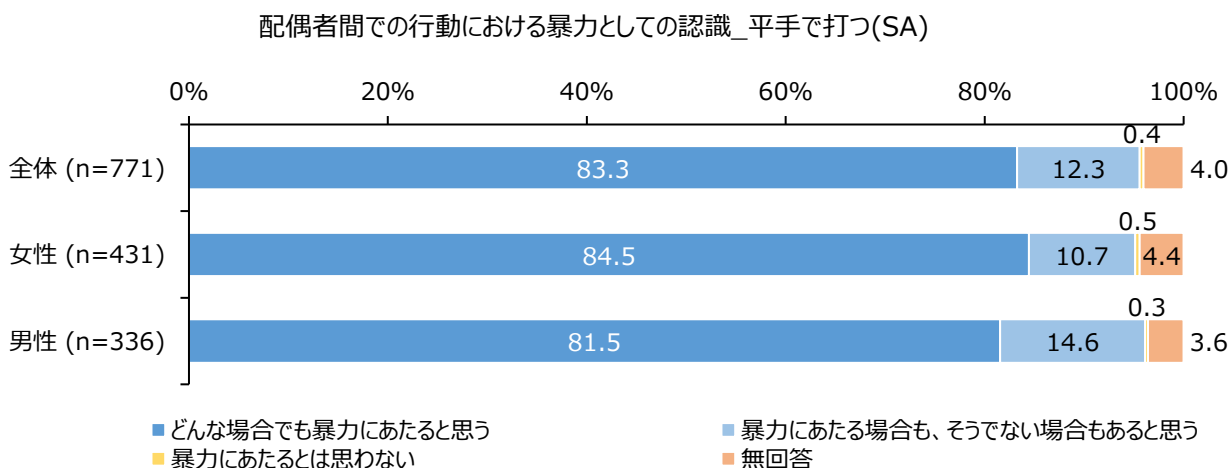


問14 配偶者間での行動における暴力としての認識

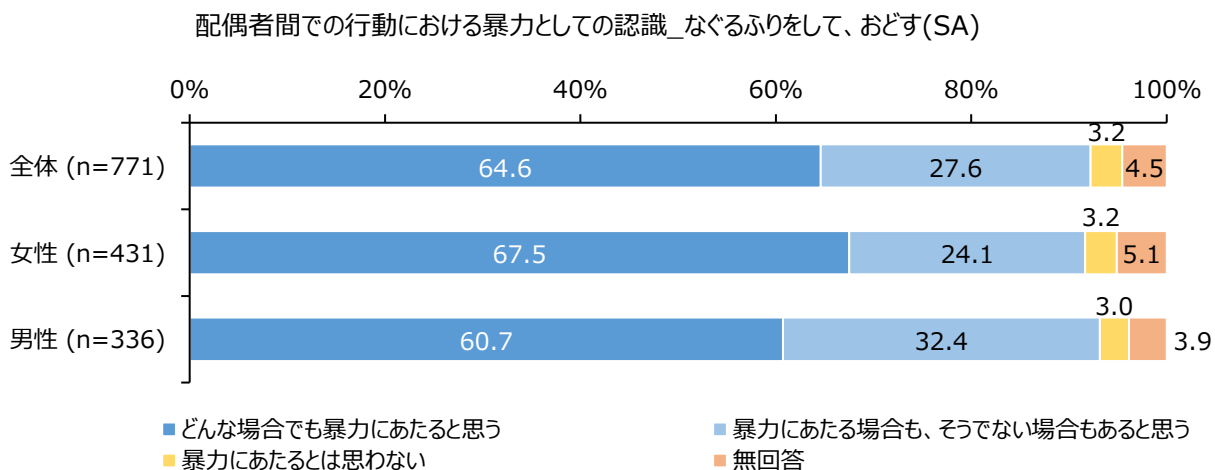
① 足でける



② 平手で打つ

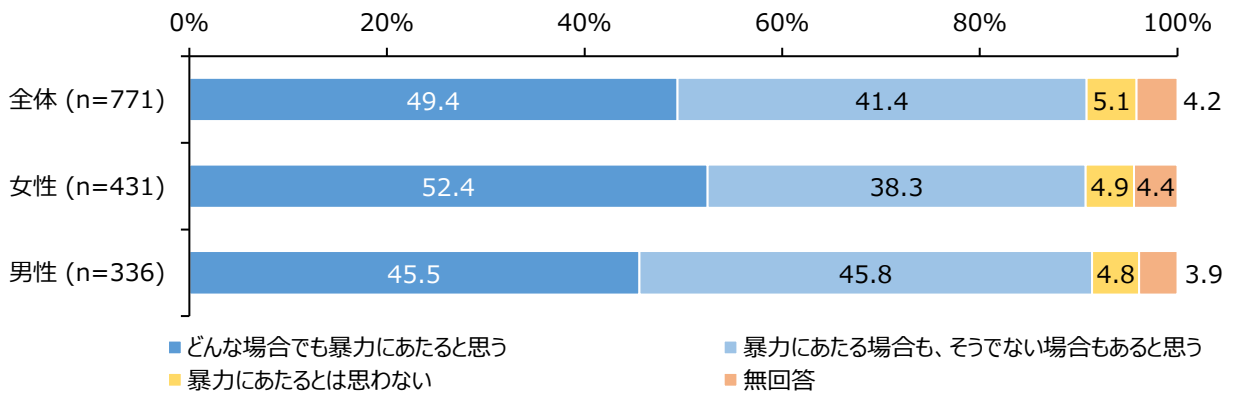


③ なぐるふりをして、おどす



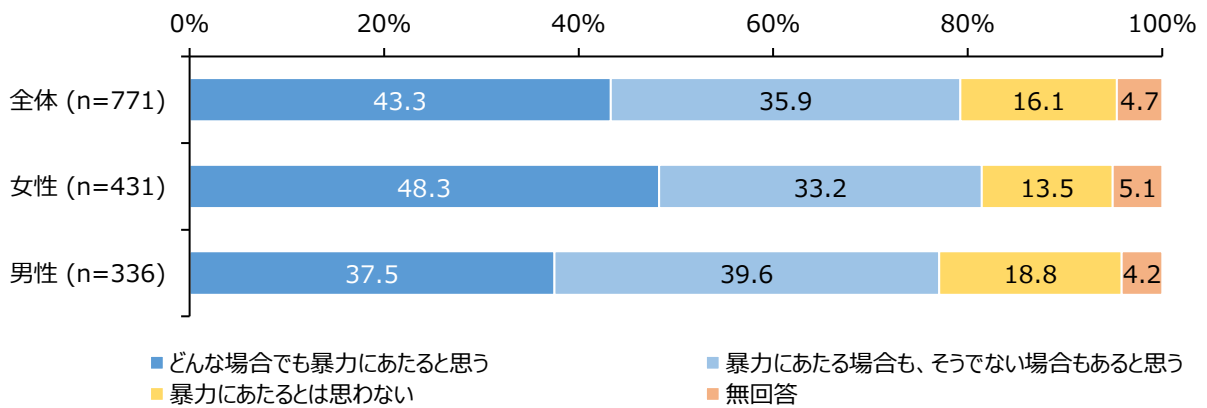
④ 大声でどなる

配偶者間での行動における暴力としての認識_大声でどなる(SA)



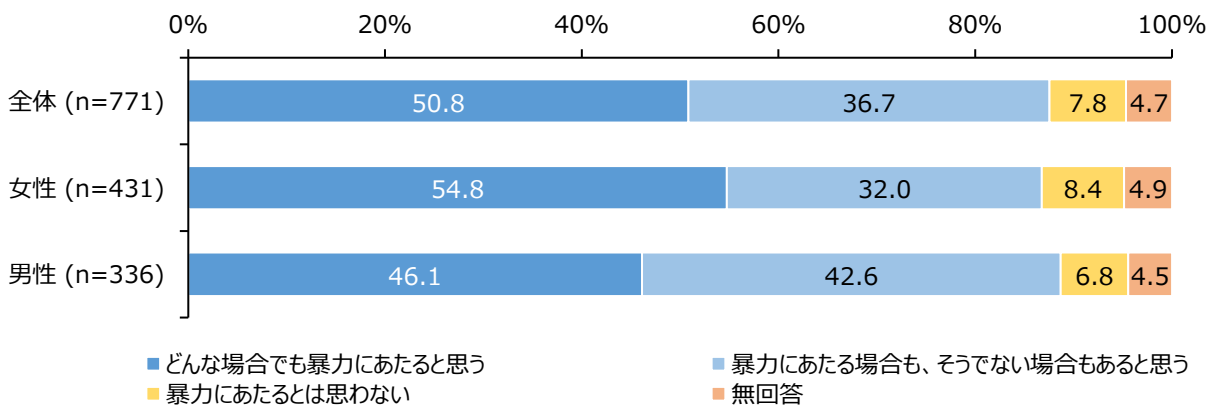
⑤ 他の異性との会話を許さない

配偶者間での行動における暴力としての認識_他の異性との会話を許さない(SA)



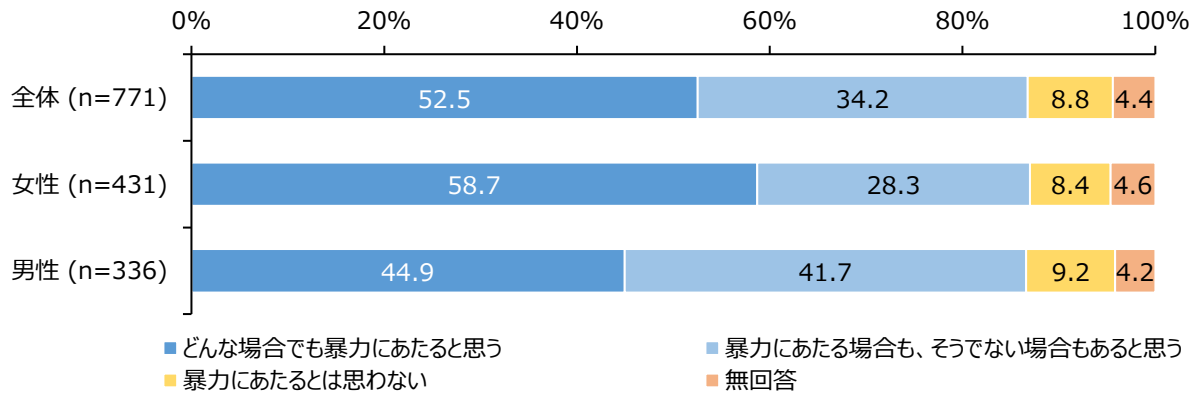
⑥ 何を言っても長時間無視し続ける

配偶者間での行動における暴力としての認識_何を言っても長時間無視し続ける(SA)



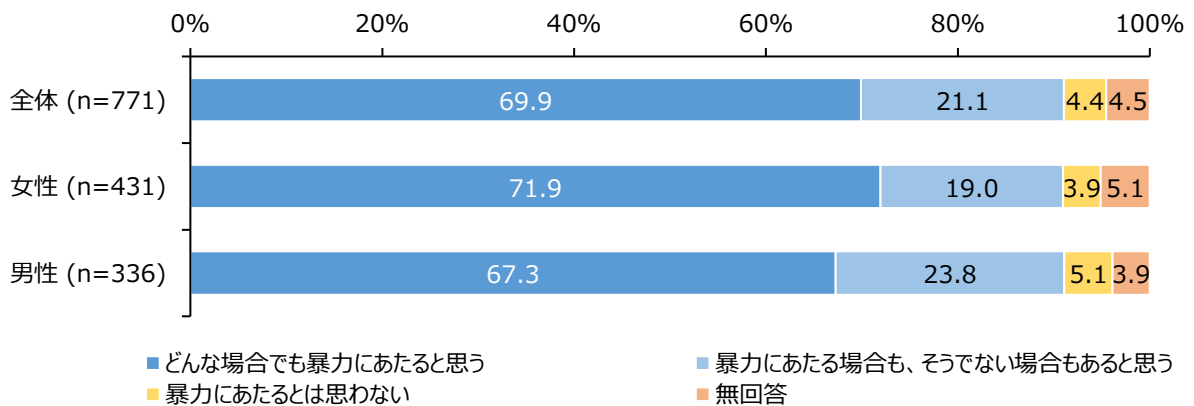
⑦ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

配偶者間での行動における暴力としての認識_交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する(SA)



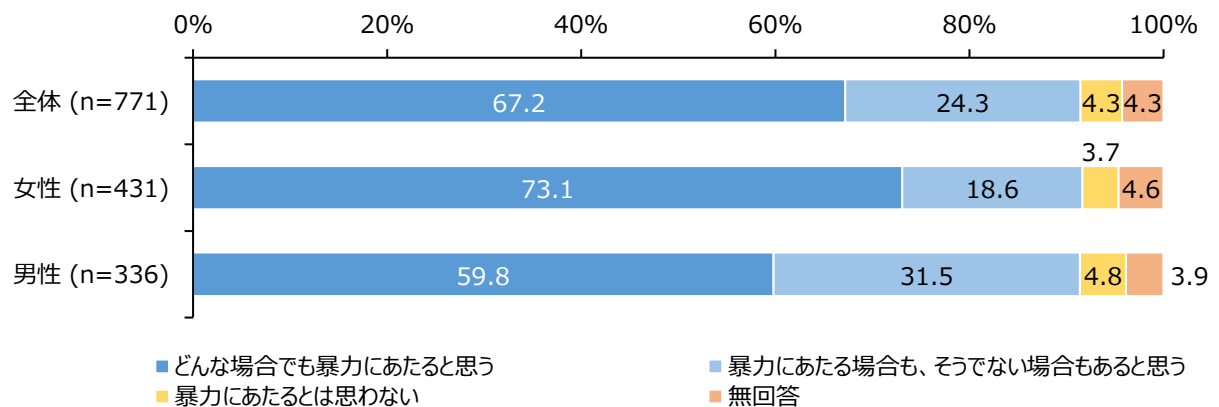
⑧ 家計に必要な生活費を渡さない

配偶者間での行動における暴力としての認識_家計に必要な生活費を渡さない(SA)



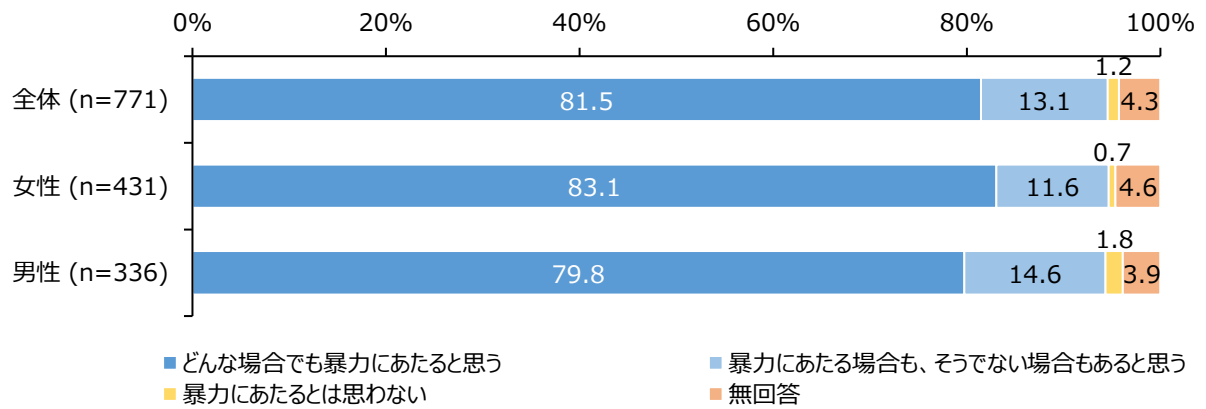
⑨ 家族や友人との関わりを持たせない

配偶者間での行動における暴力としての認識_家族や友人との関わりを持たせない (SA)



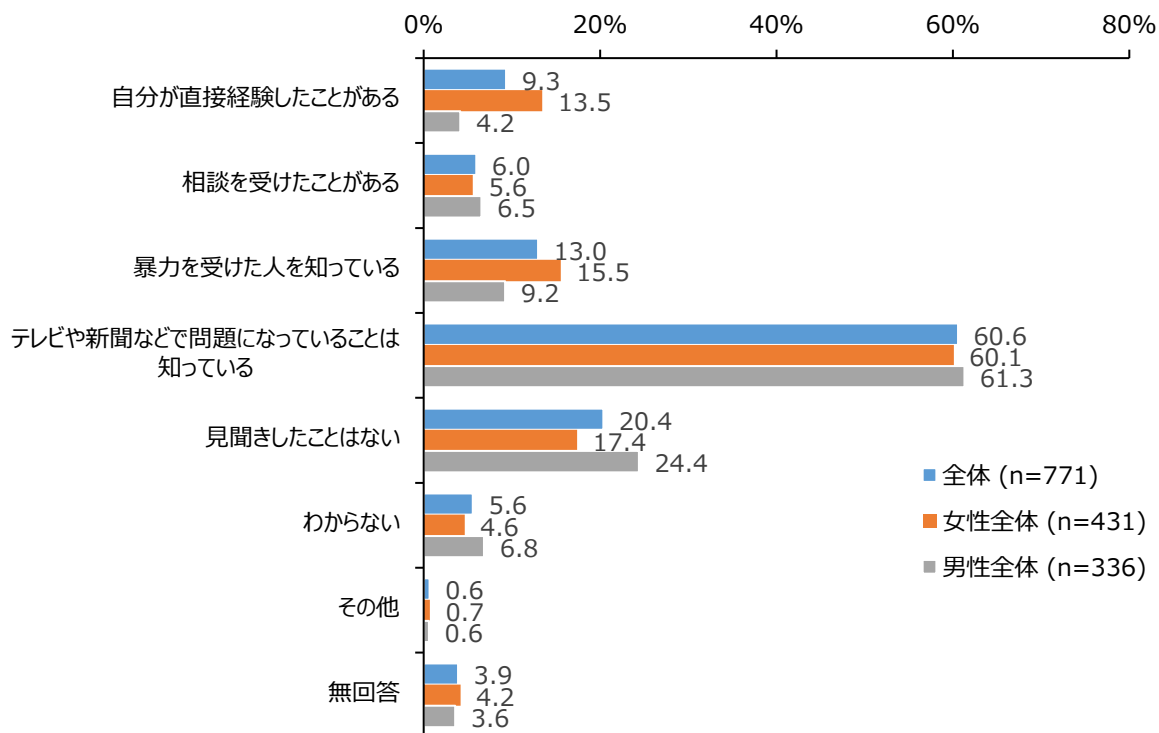
⑩ いやがっているのに、性的な行為を強要する

配偶者間での行動における暴力としての認識_いやがっているのに、性的な行為を強要する(SA)



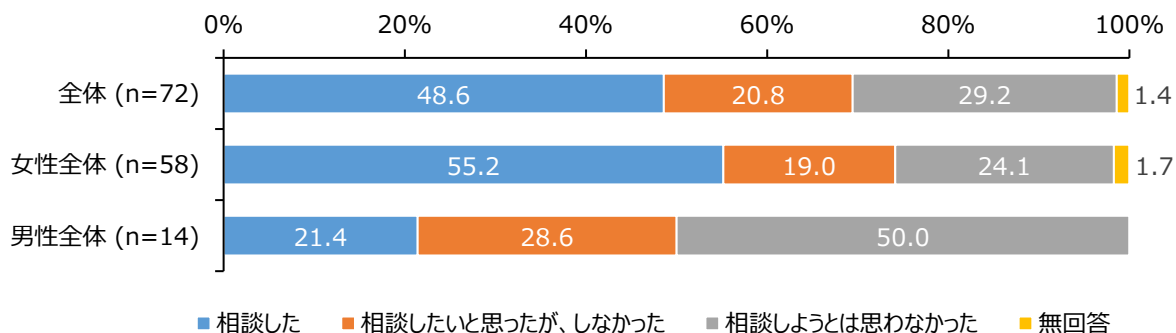
問15 親密な関係にある人からの暴力について（〇はいくつでも）

配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人々からの暴力について、経験したり、見聞きたりしたことはあるか（MA）



問15-1 相談の有無

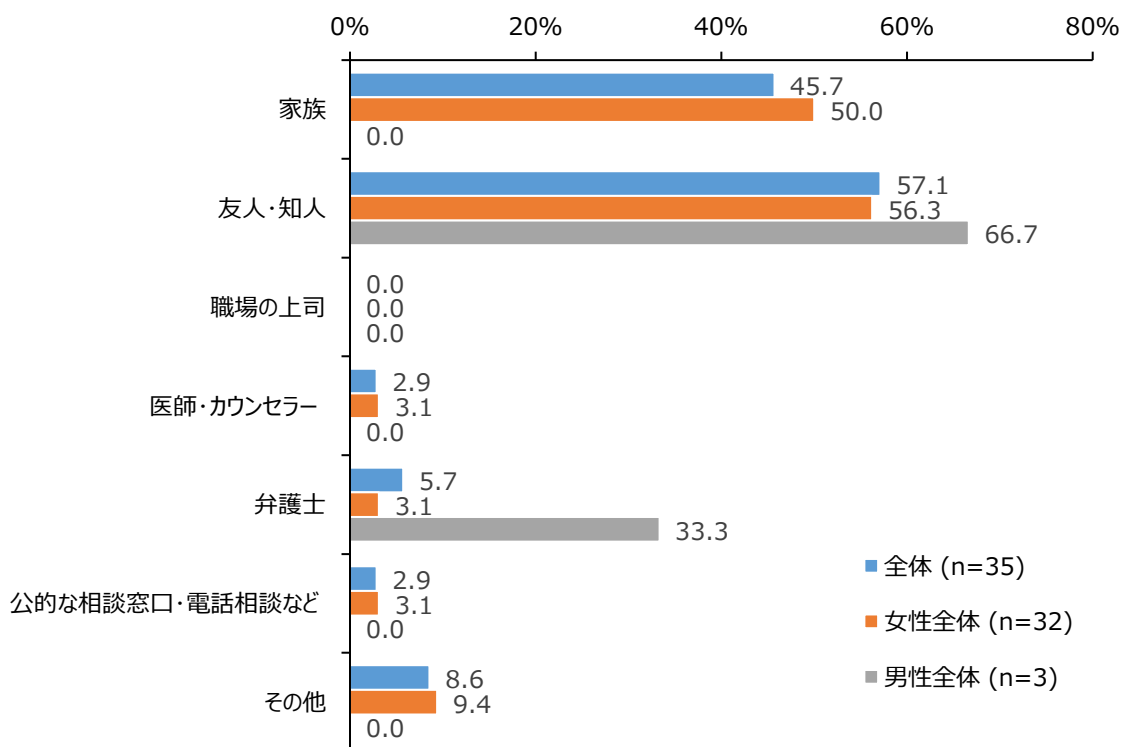
誰かに打ち明けたり、相談したりしたか（SA）



* 親密な関係にある人々からの暴力を直接経験したことがある方

問15-2 相談先（○は2つまで）

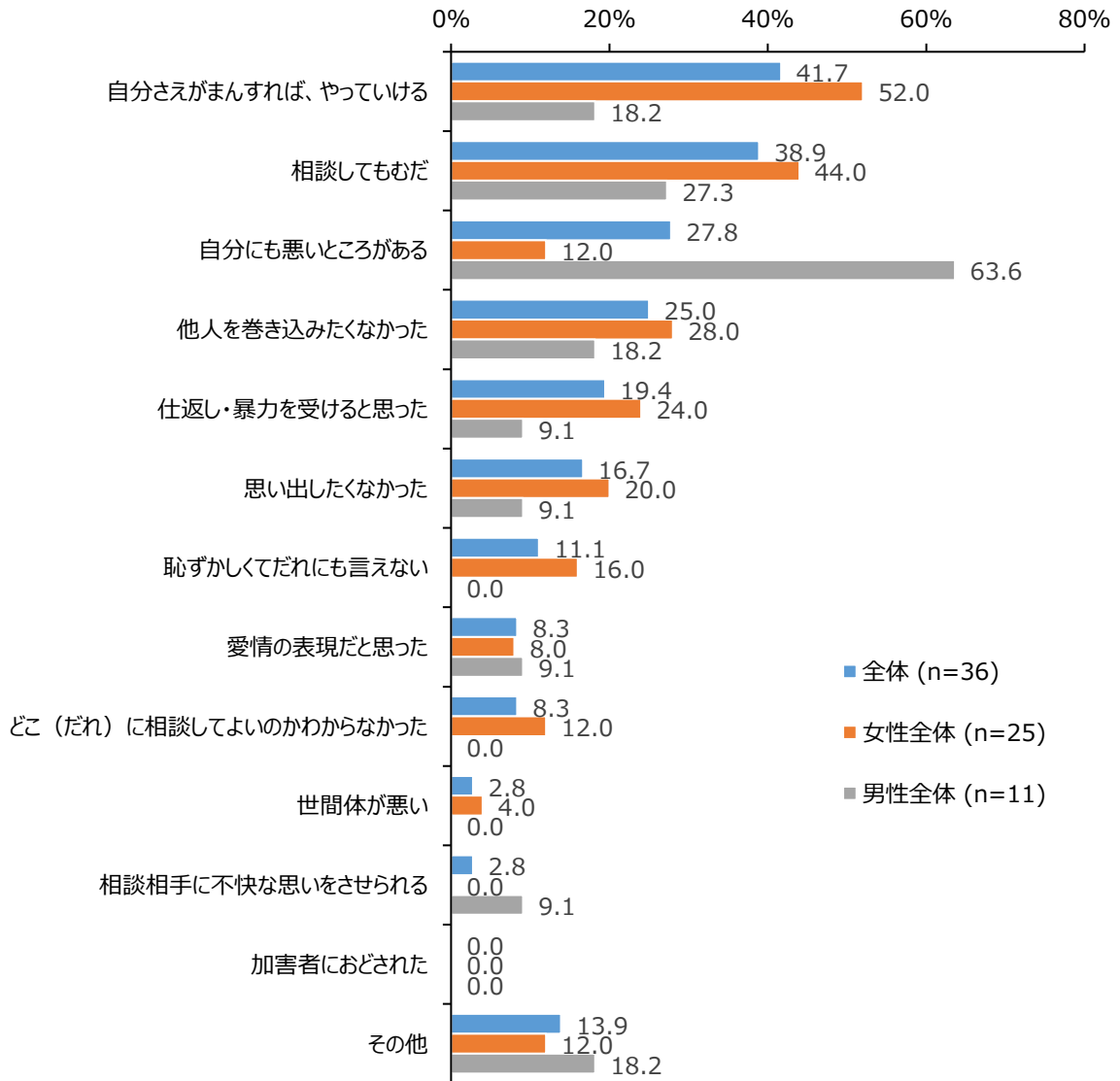
実際にだれ（どこ）に相談したか（MA）



* 親密な関係にある人々からの暴力を直接経験し、相談をしたことがある方

問15-3 相談しない理由（○は3つまで）

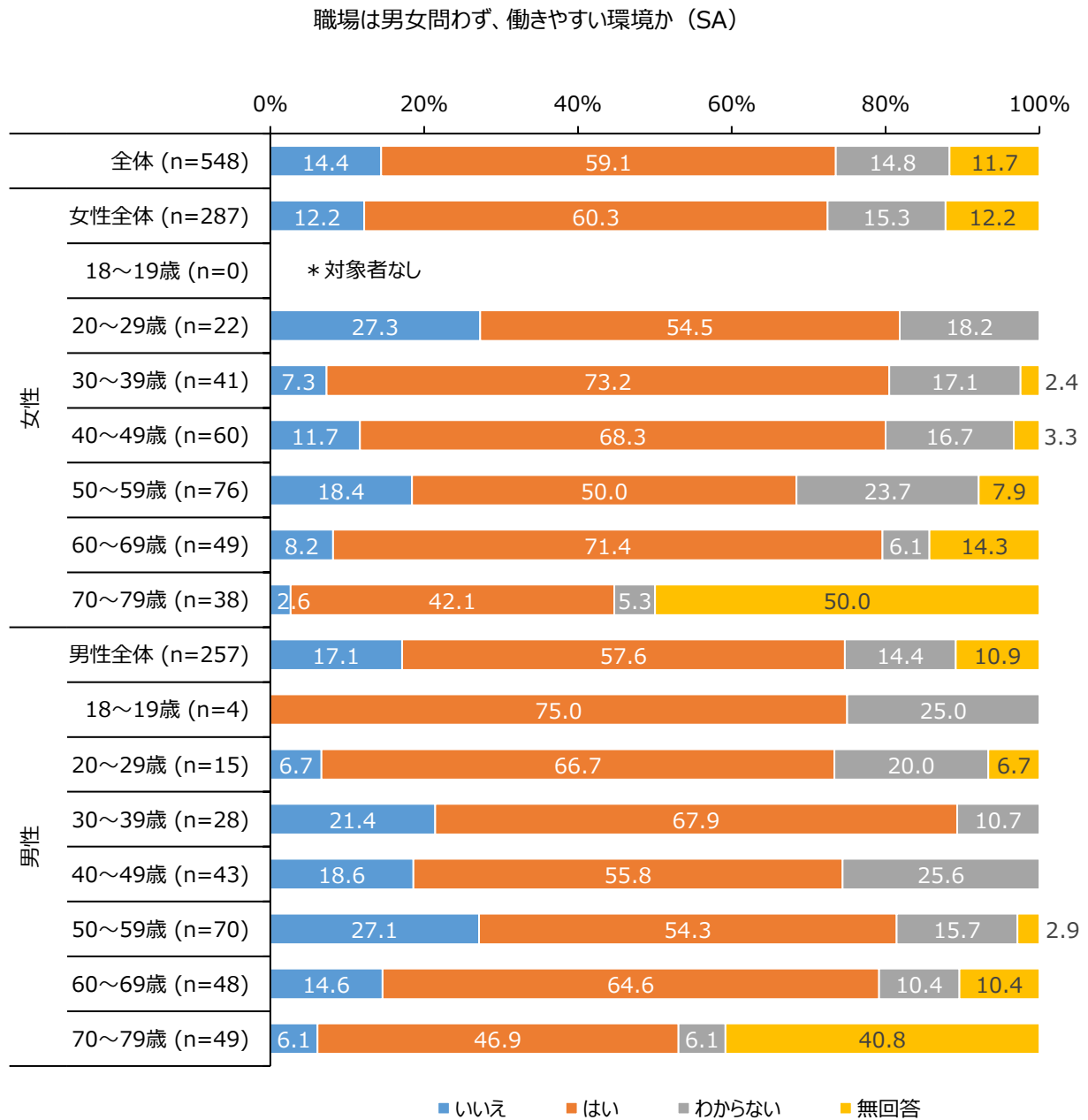
相談しなかった理由（MA）



* 親密な関係にある人々からの暴力を直接経験したが相談しなかった方

2.4. 「職場」について

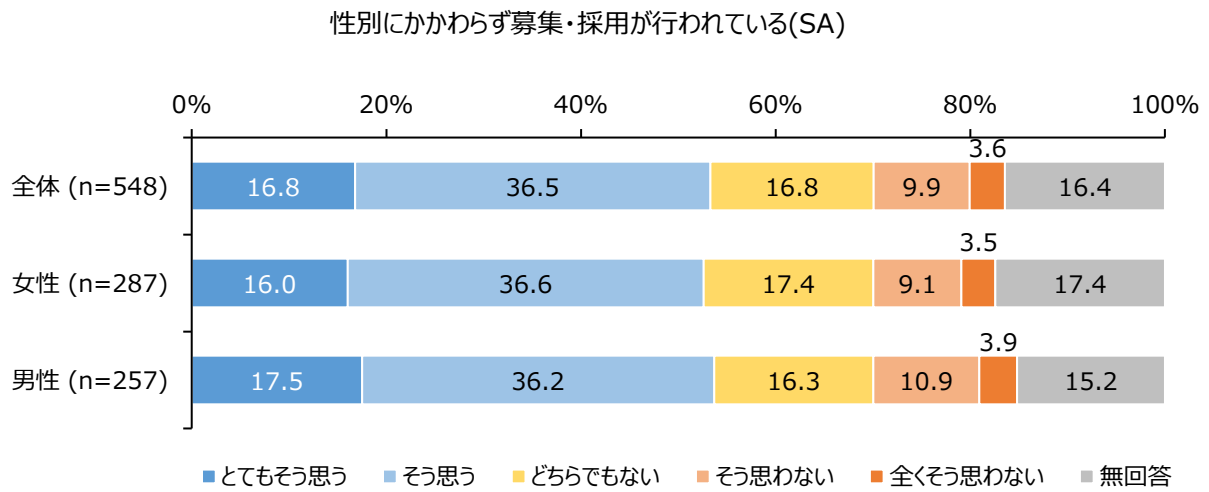
問16 職場の働きやすさ



* 仕事に就いている方

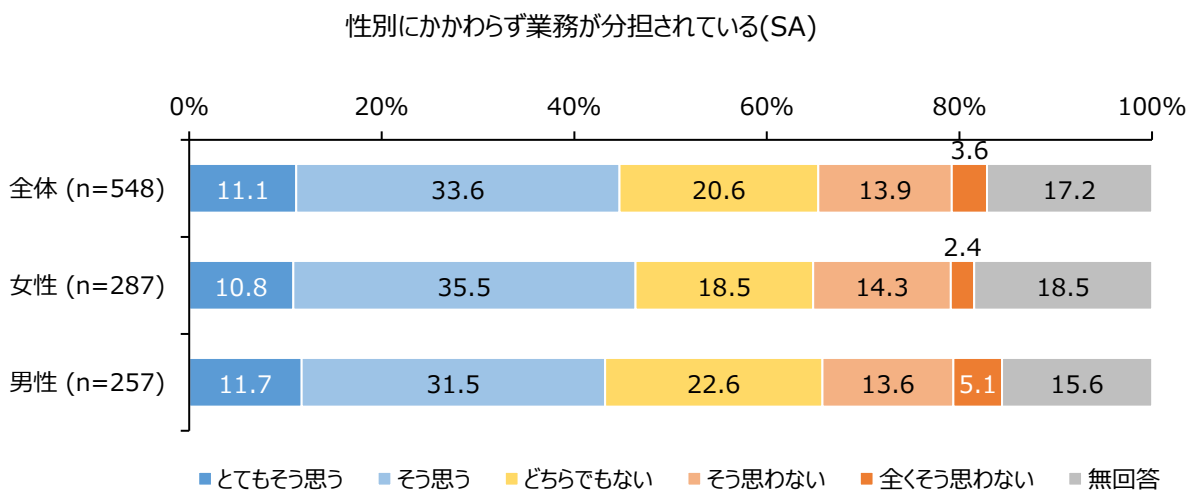
問17 職場における性別による格差

① 募集・採用



* 仕事に就いている方

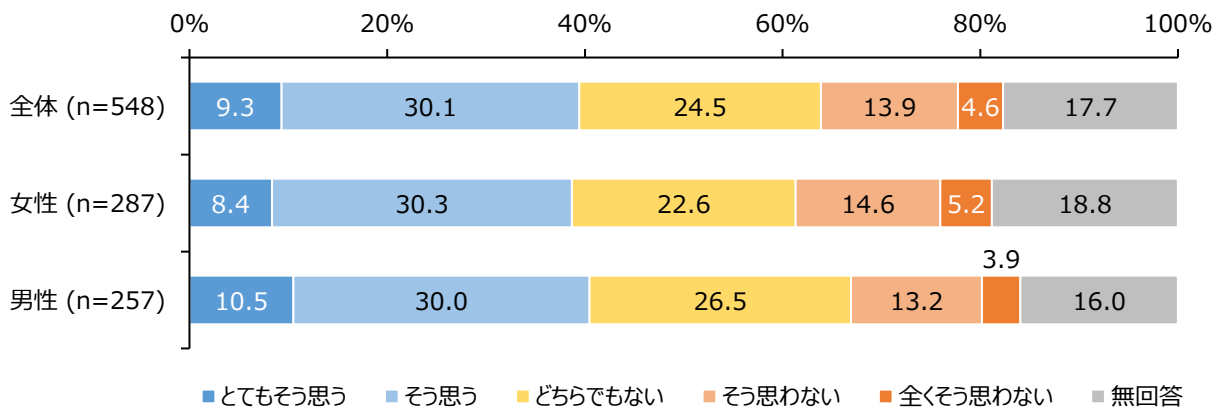
② 業務分担



* 仕事に就いている方

③ 昇進・昇格

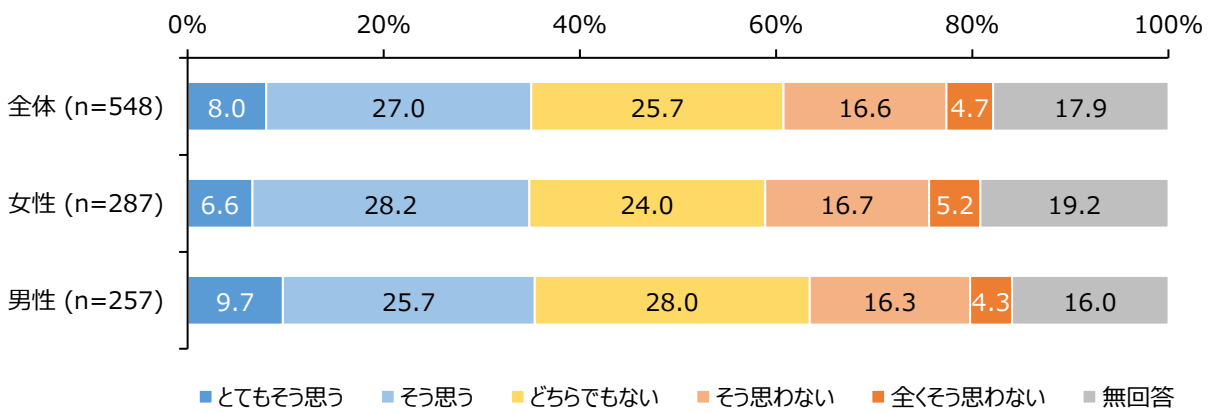
性別にかかわらず昇進・昇格が行われている(SA)



* 仕事に就いている方

④ 管理職への登用

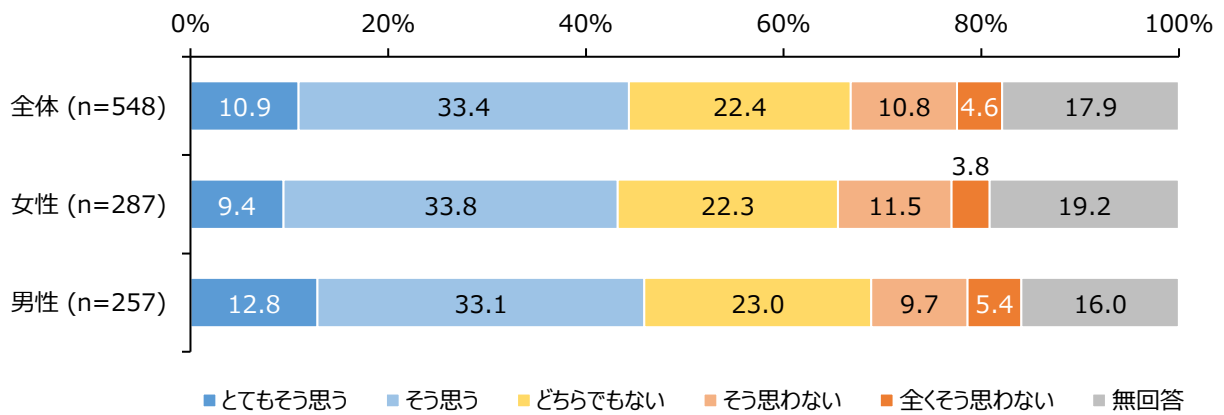
性別にかかわらず管理職へ登用されている(SA)



* 仕事に就いている方

⑤ 能力評価

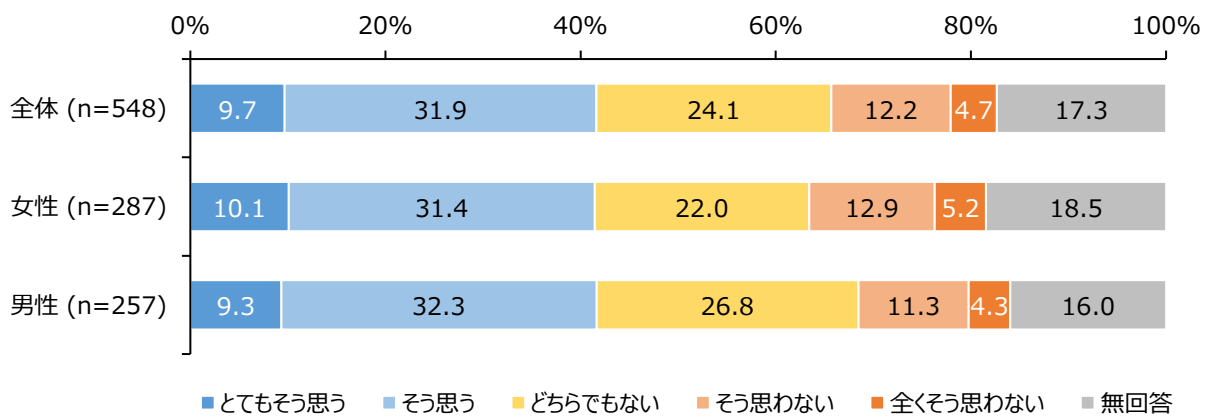
性別にかかわらず能力によって評価されている(SA)



* 仕事に就いている方

⑥ 働き続けやすい制度

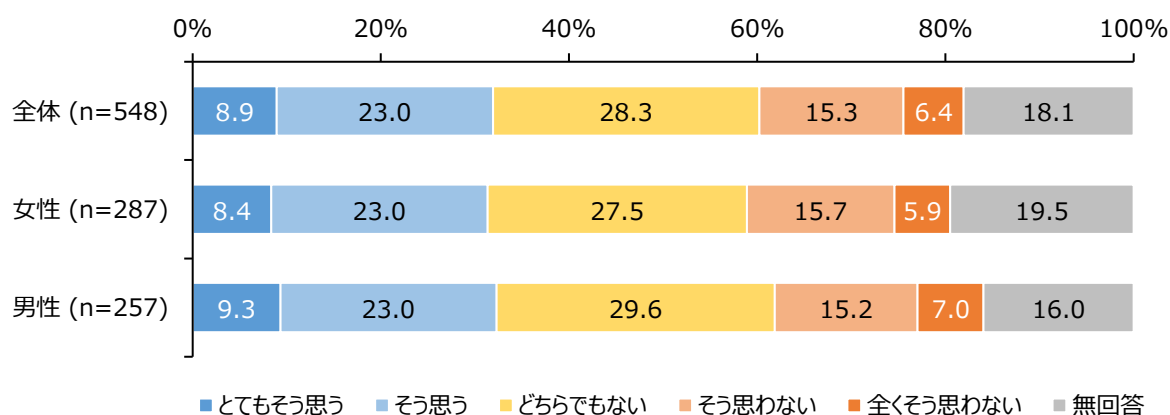
性別にかかわらず働き続けやすい制度が整っている(SA)



* 仕事に就いている方

⑦ 育児・介護休暇の取得しやすさ

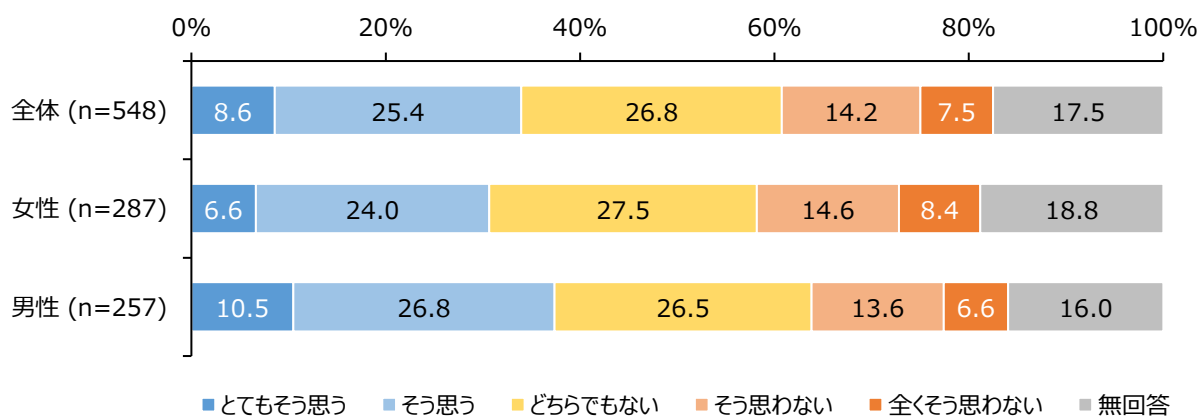
性別にかかわらず育児や介護のための休暇が取得しやすい(SA)



* 仕事に就いている方

⑧ 賃金の格差

性別にかかわらず賃金の格差がない(SA)

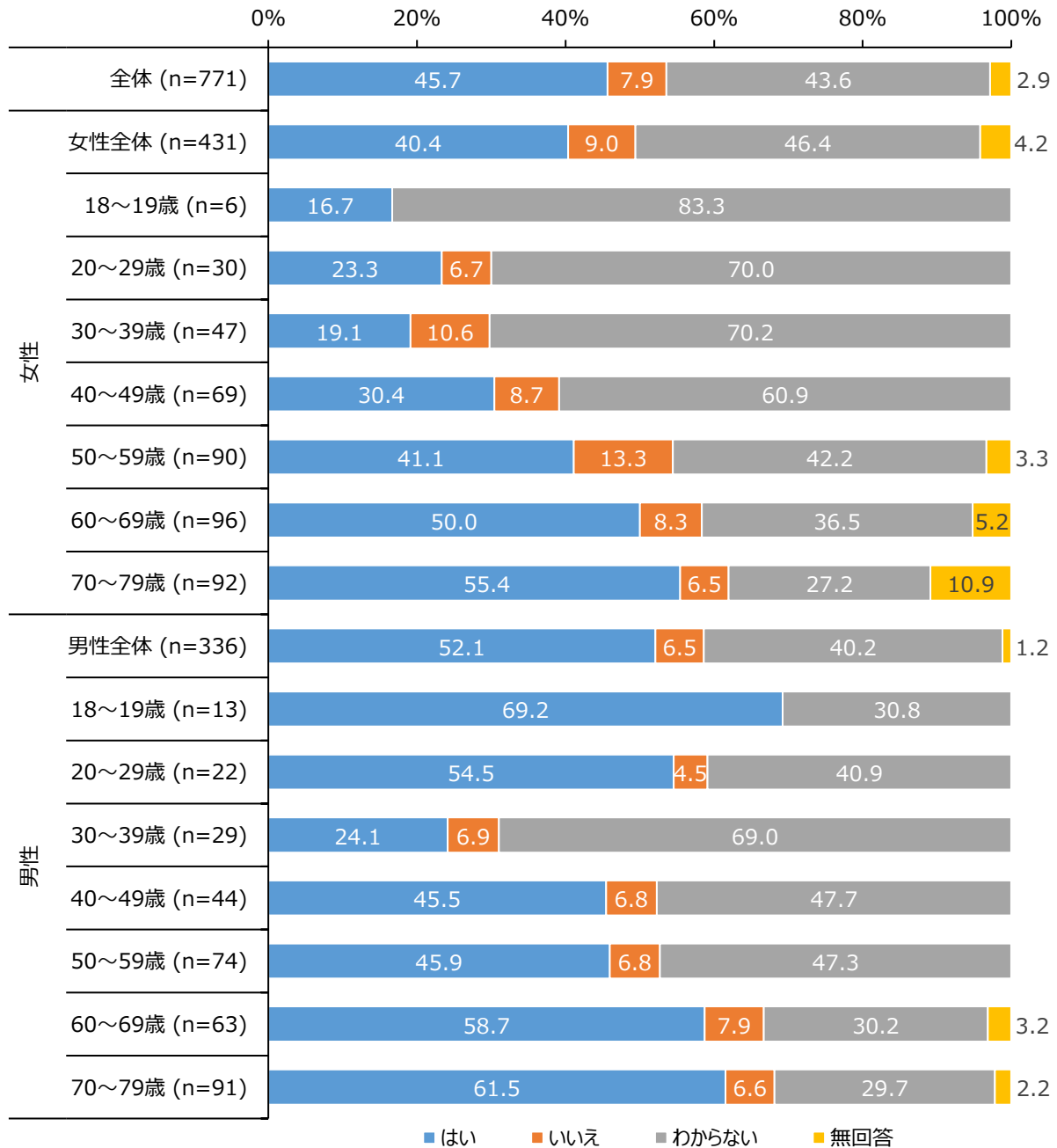


* 仕事に就いている方

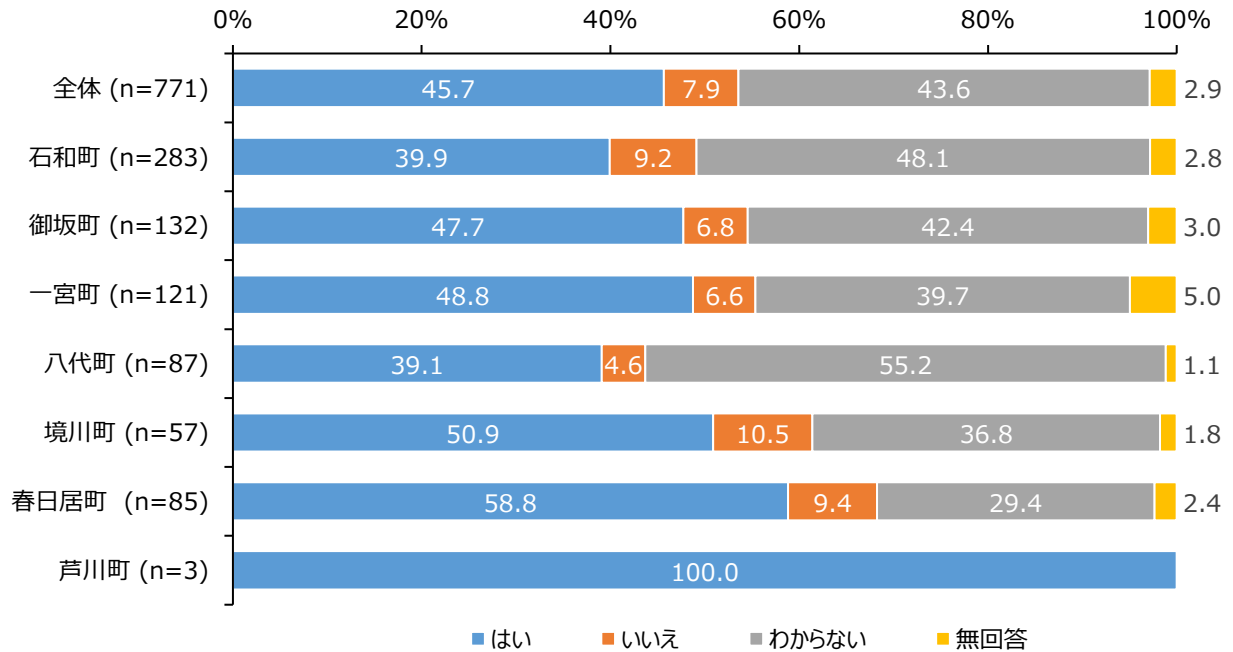
2.5. 「地域活動」について

問18 地域活動への参加しやすさ

住んでいる地域は男女問わず、地域活動に参加しやすいか（SA）



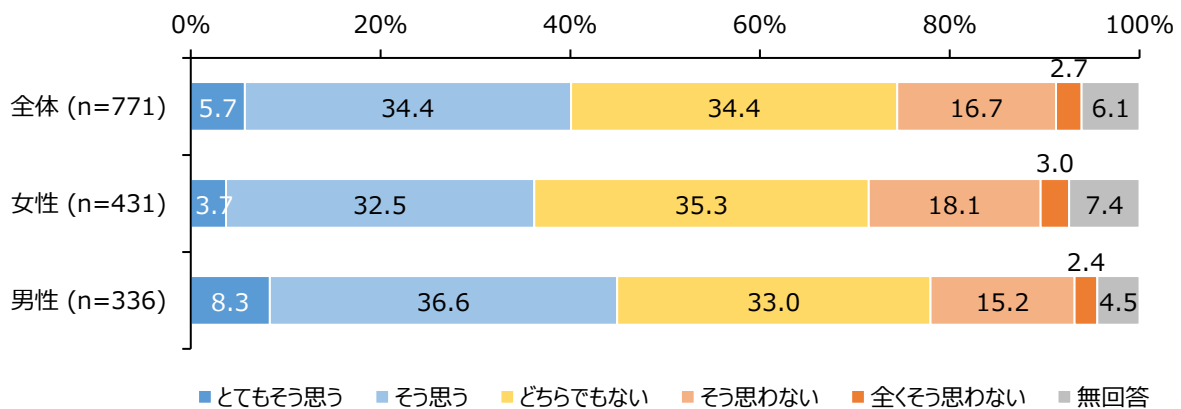
地区 × 住んでいる地域は男女問わず、地域活動に参加しやすいか



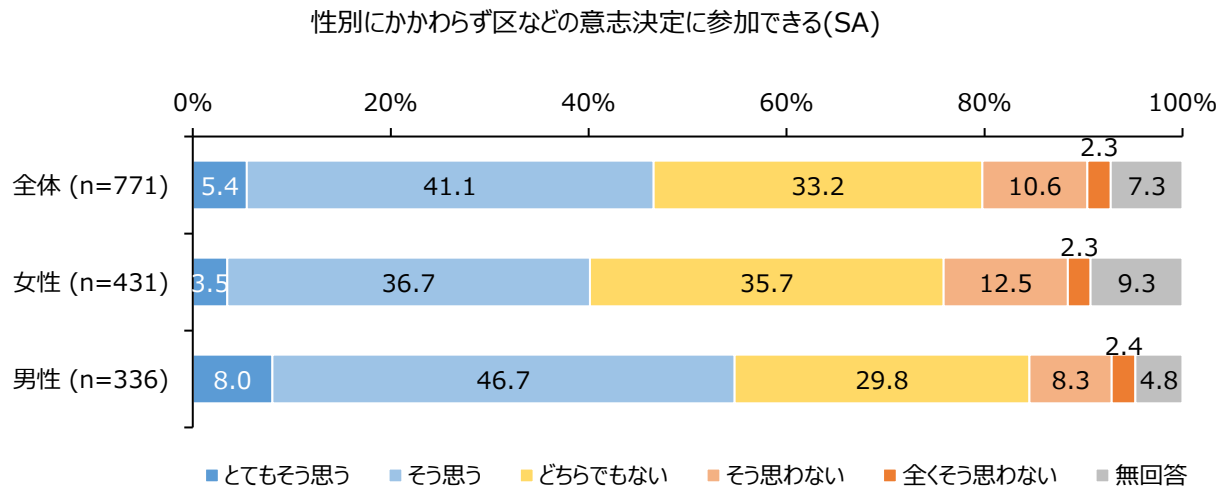
問19 地域活動における性別による格差

① 区などの役員への就任

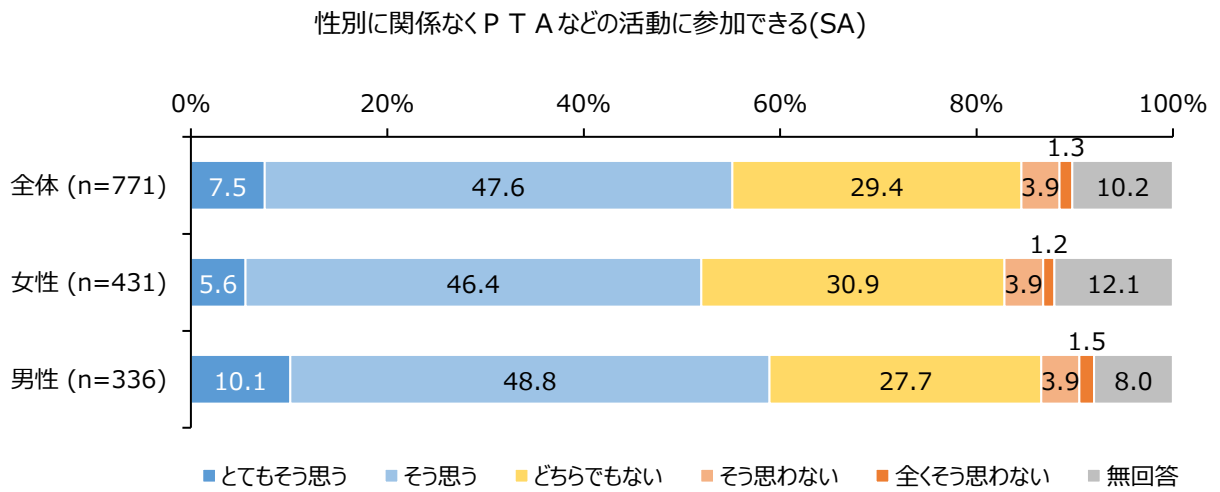
性別にかかわらず区などの役員に就くことができる(SA)



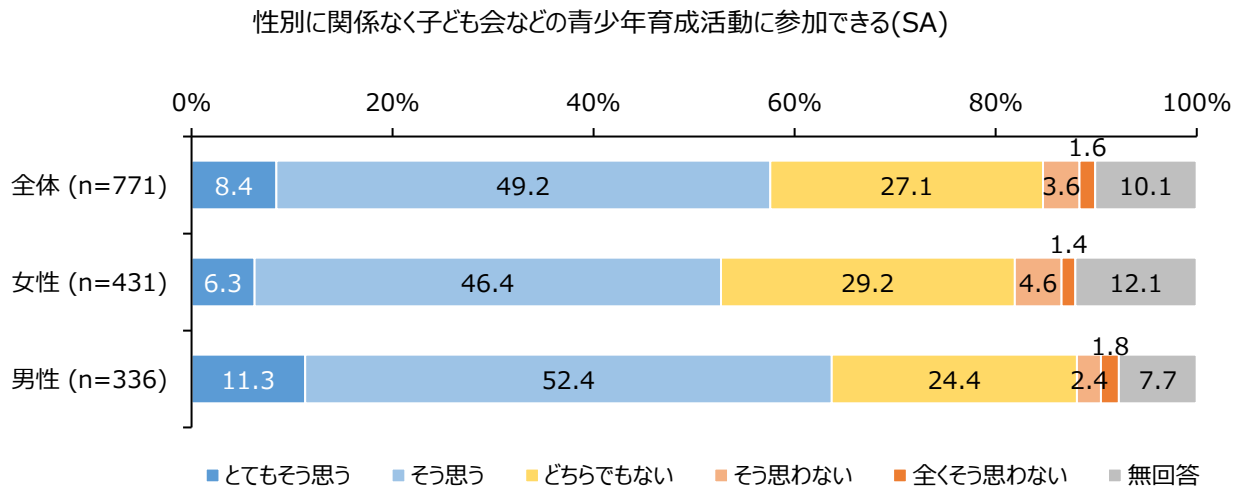
② 区などの意志決定への参加



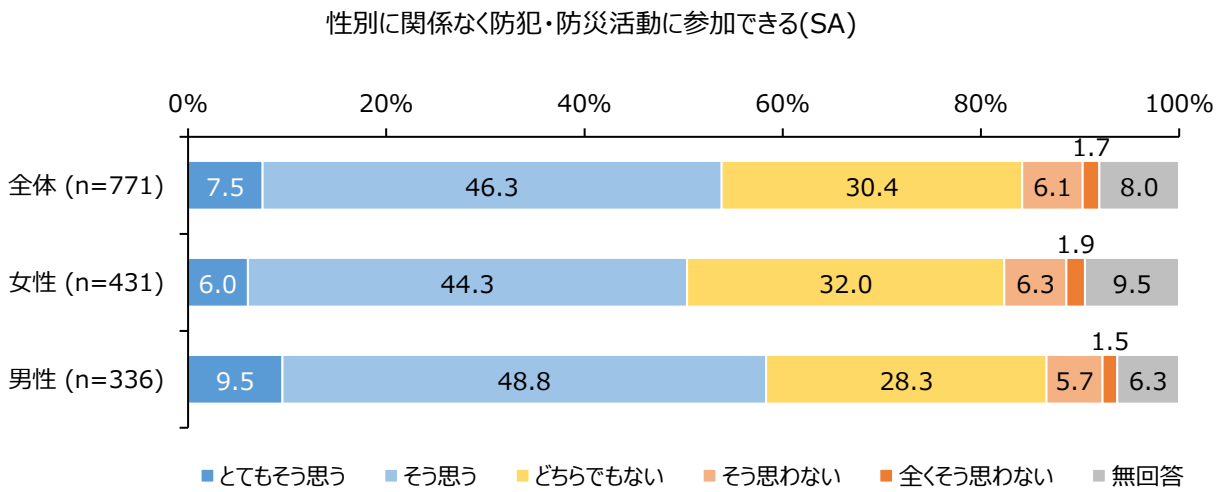
③ PTA などの活動への参加



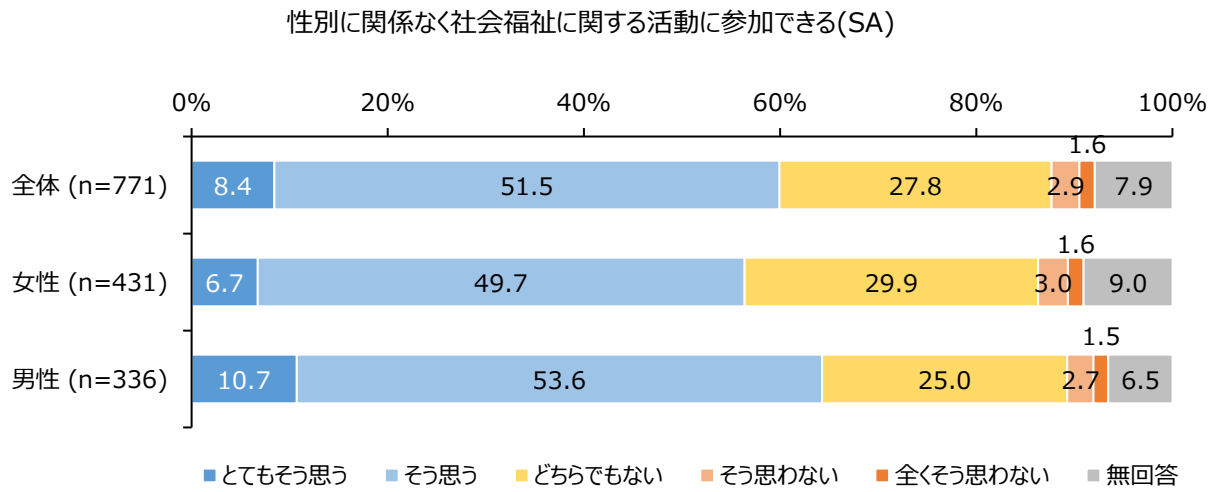
④ 青少年育成活動への参加



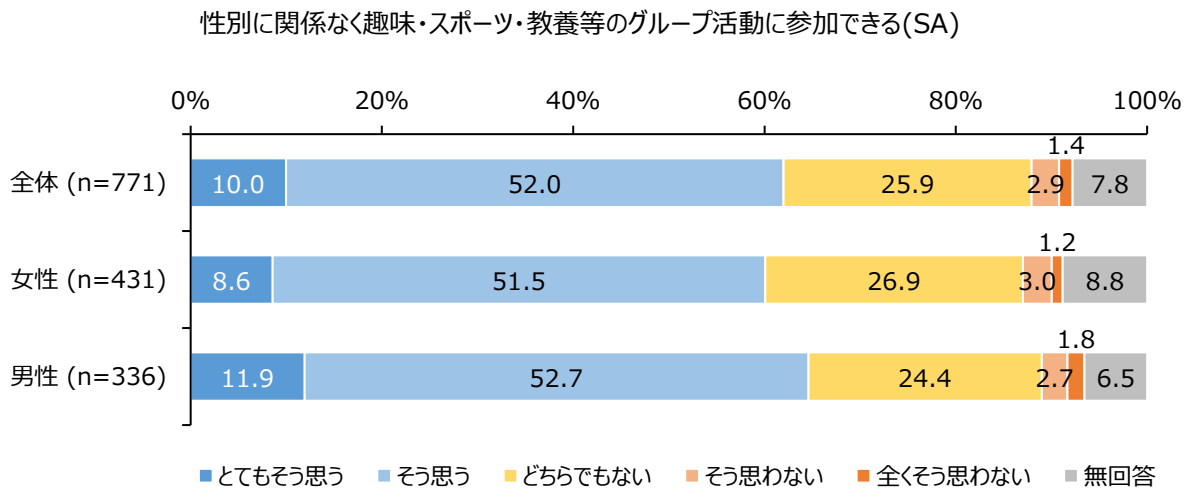
⑤ 防犯・防災活動への参加



⑥ 社会福祉活動への参加

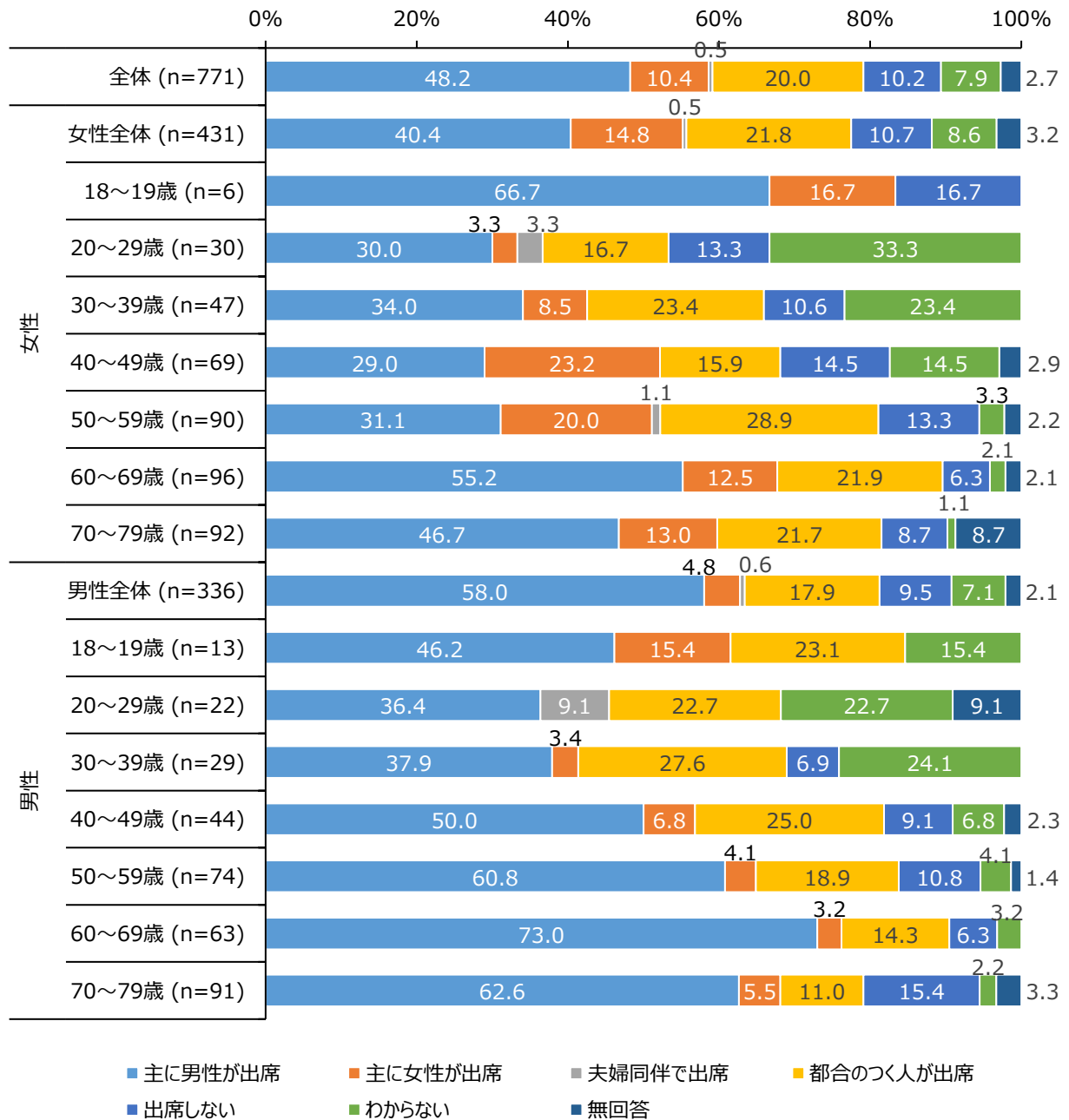


⑦ グループ活動への参加

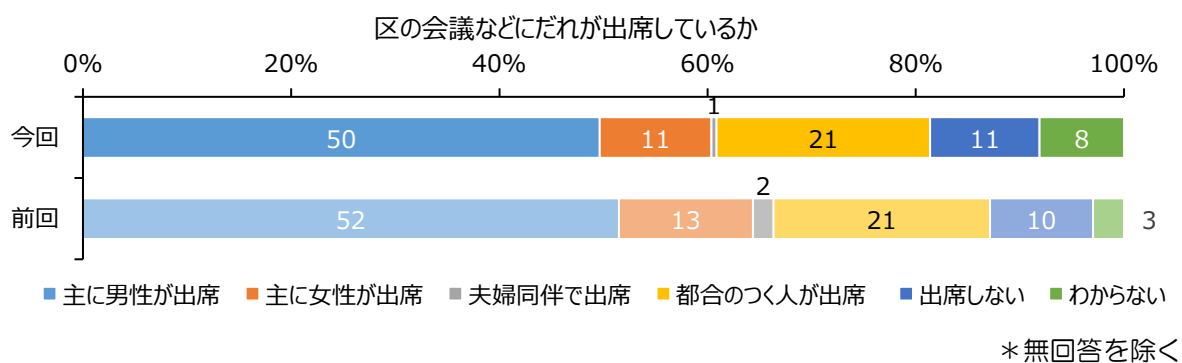


問20 家庭での区の会議などへの出席者

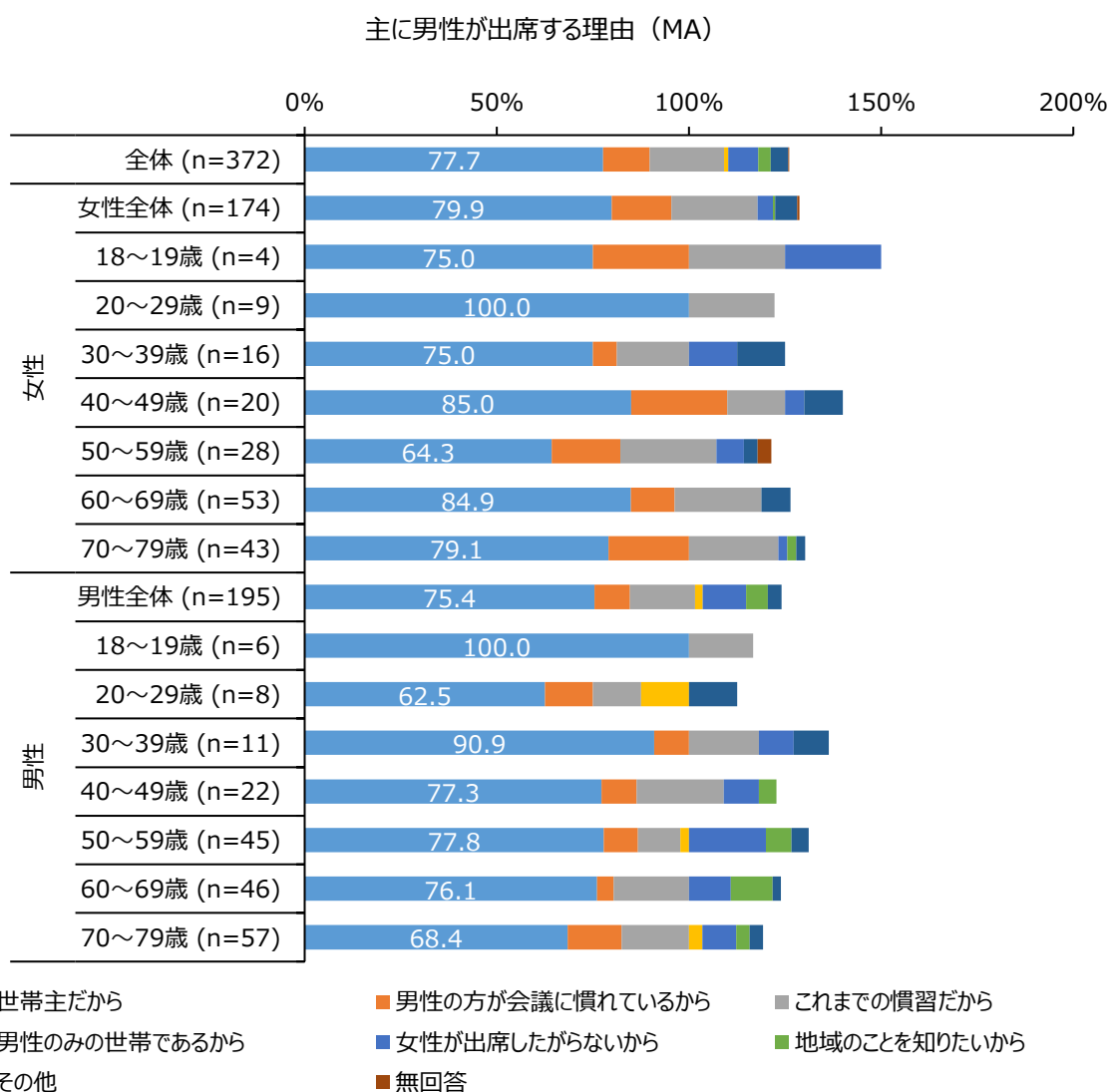
家庭では、区の会議などにだれが出席しているか (SA)



【前回（平成27年度）との比較】

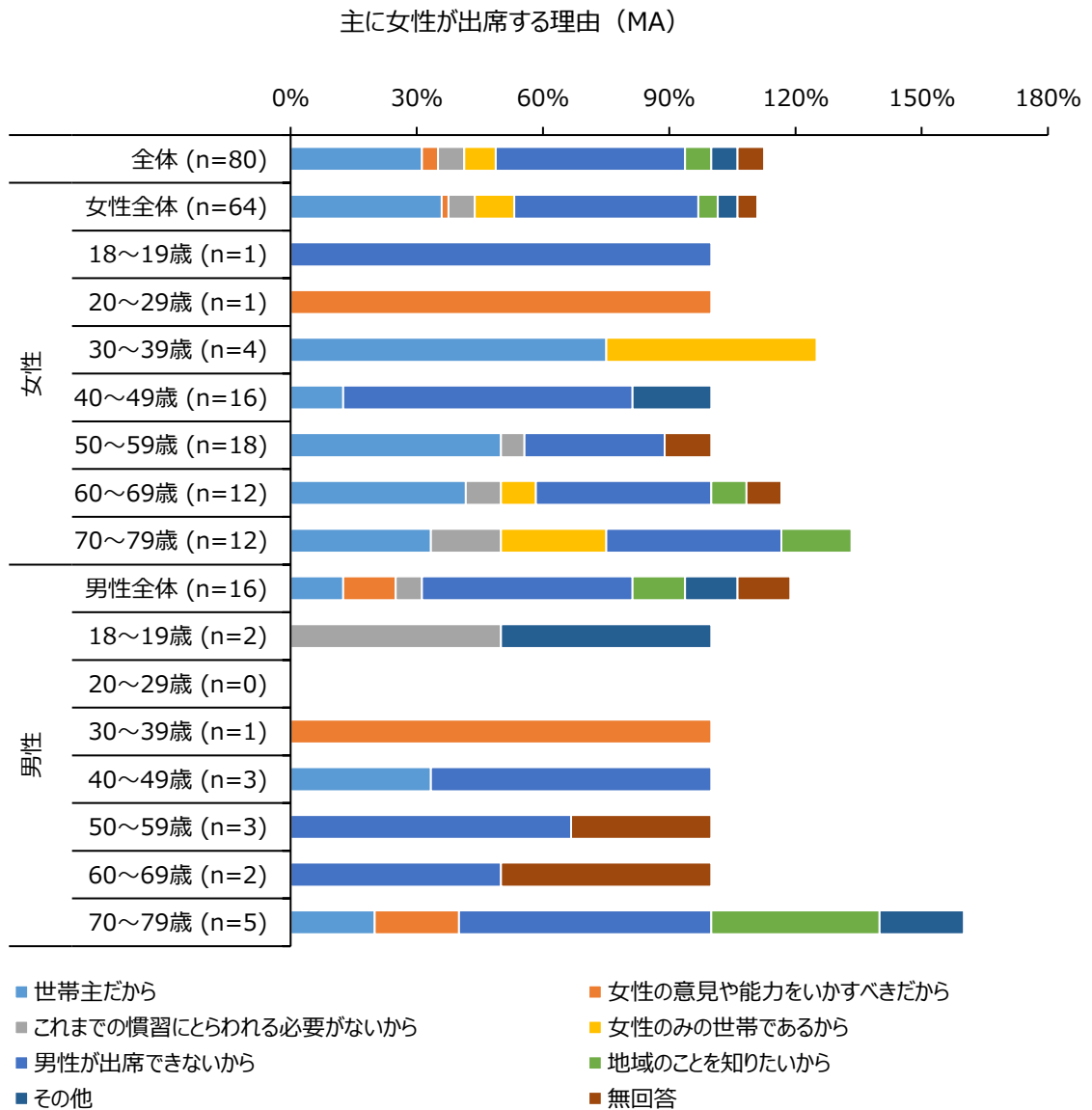


問20-1 主に男性が出席する理由



* 主に男性が区の会議に出席していると回答した方
 * 全体には年齢・性別無回答含む
 * 女性全体には年齢無回答含む

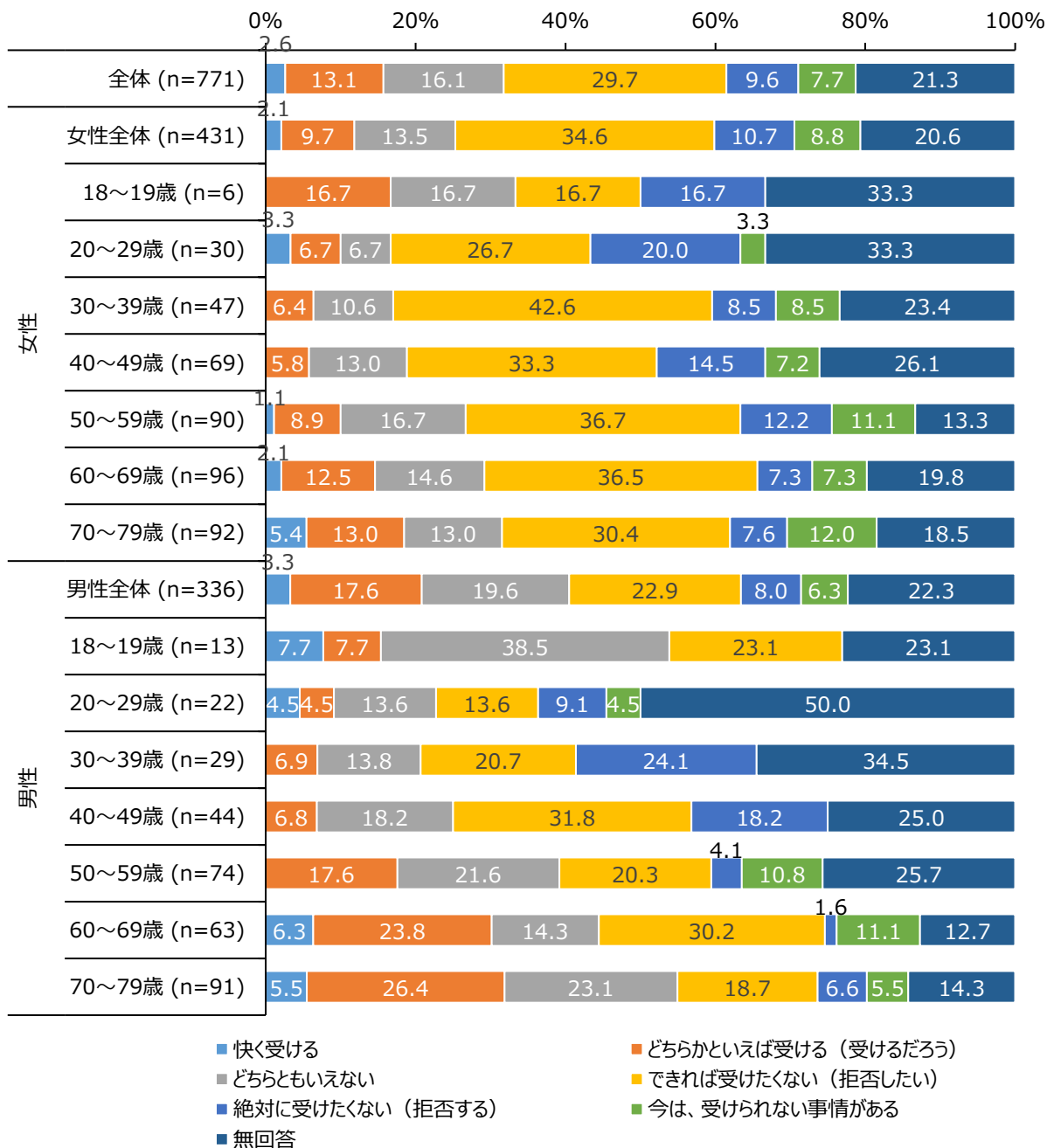
問20-2 主に女性が出席する理由



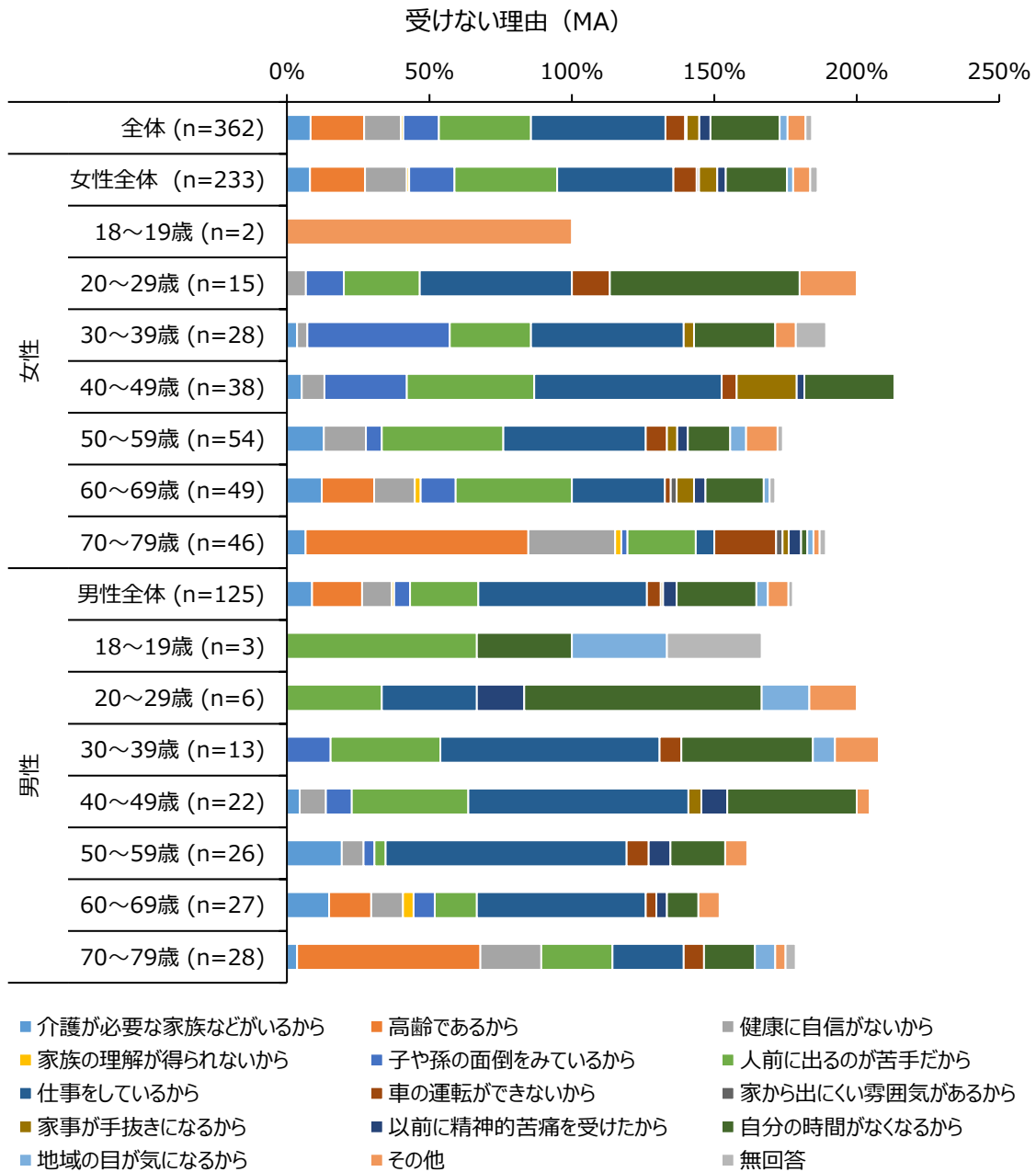
*主に女性が区の会議に出席していると回答した方

問2 1 区や市から役員や審議会などの公的役員に選出された場合の対応

区や市から、役員や審議会などの公的役員に選出された場合、それを受けるか (SA)



問2 1-1 公的役員に選出されても受けない理由

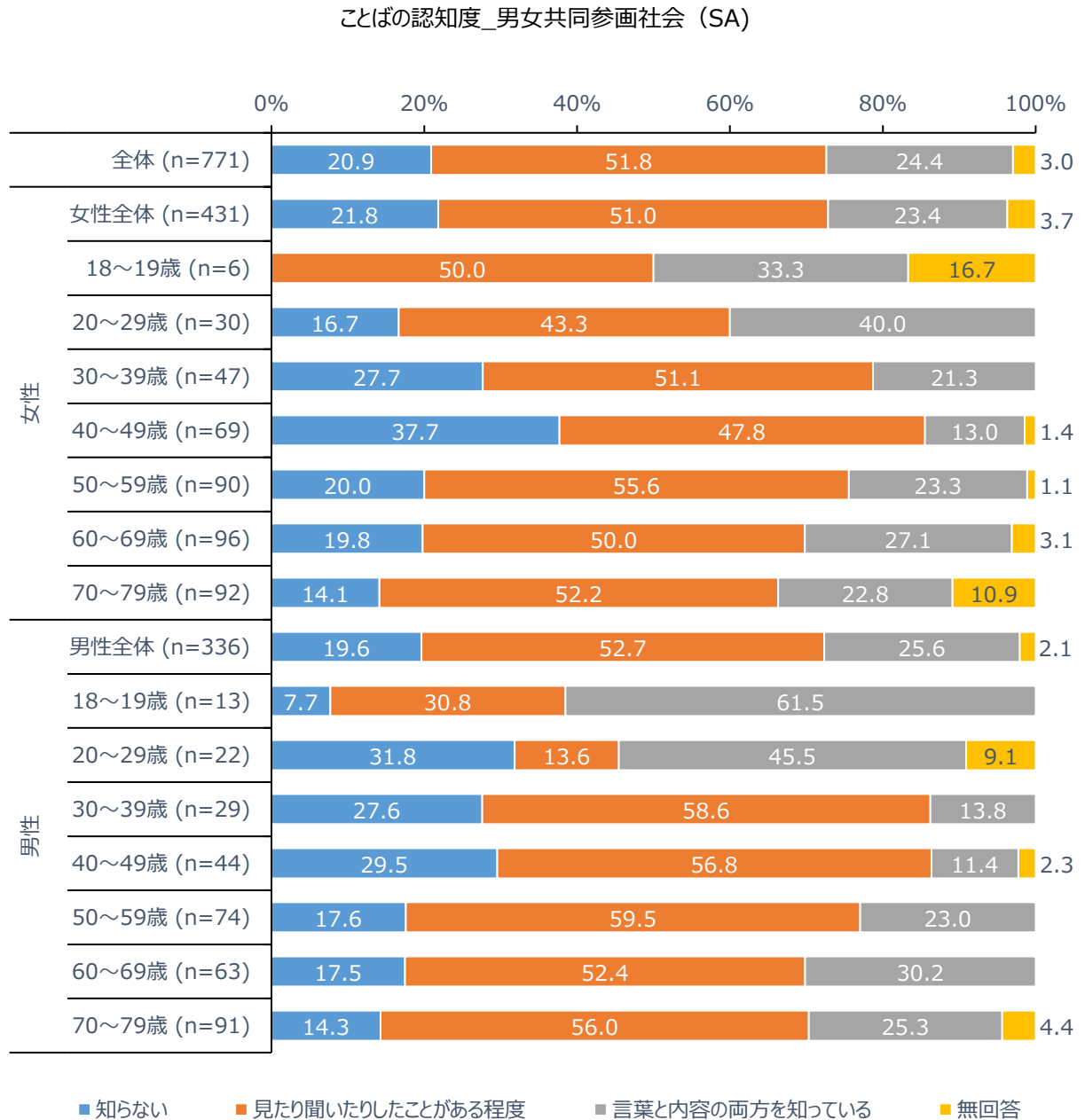


*お住いの区や市から役員や審議会などの公的役員に選出された場合、
「できれば受けたくない」「絶対に受けたくない」「今は、受けられない事情がある」と回答した方

2.6.ことばの「認知度」について

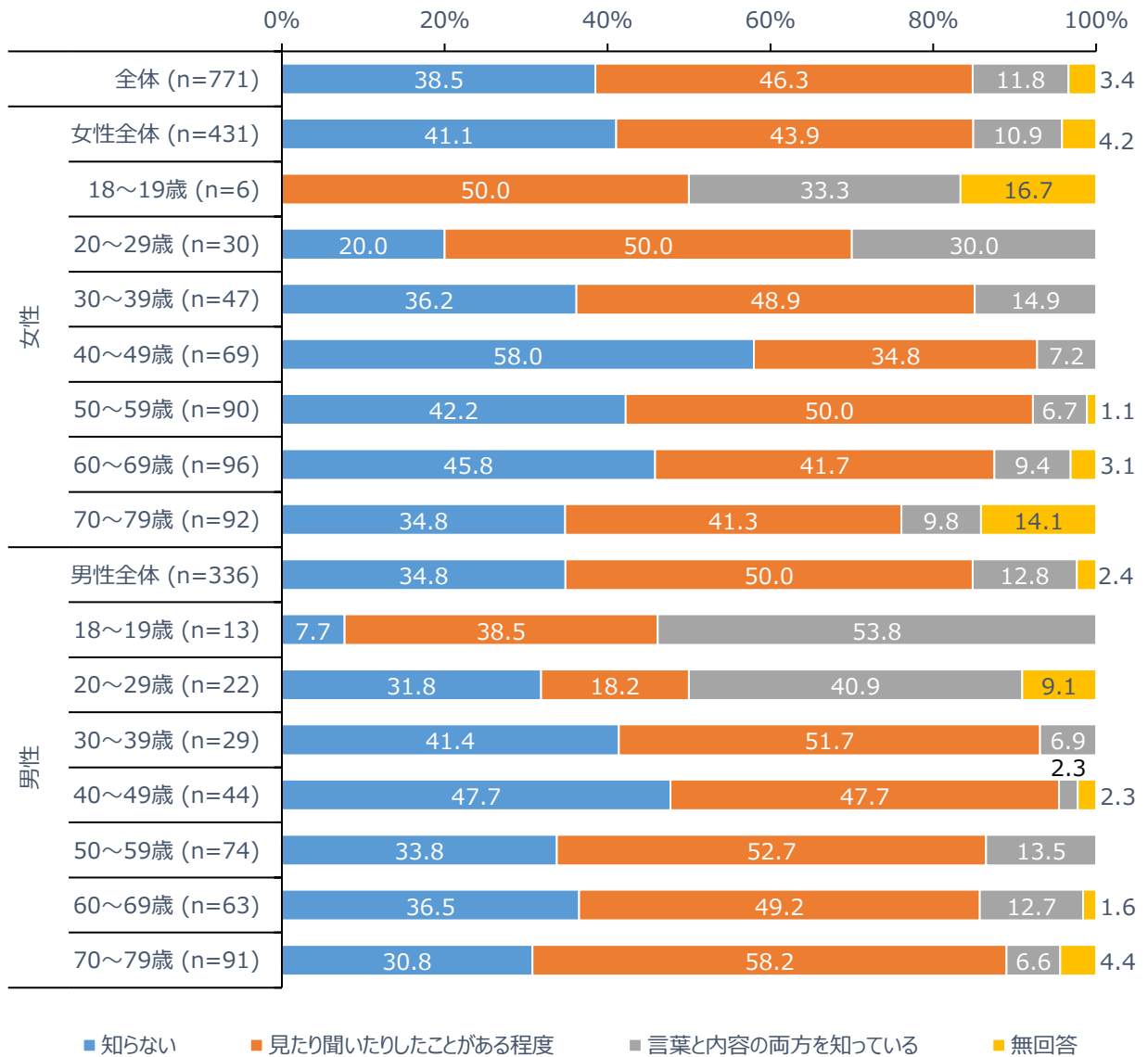
問22 ことばの認知度

① 男女共同参画社会



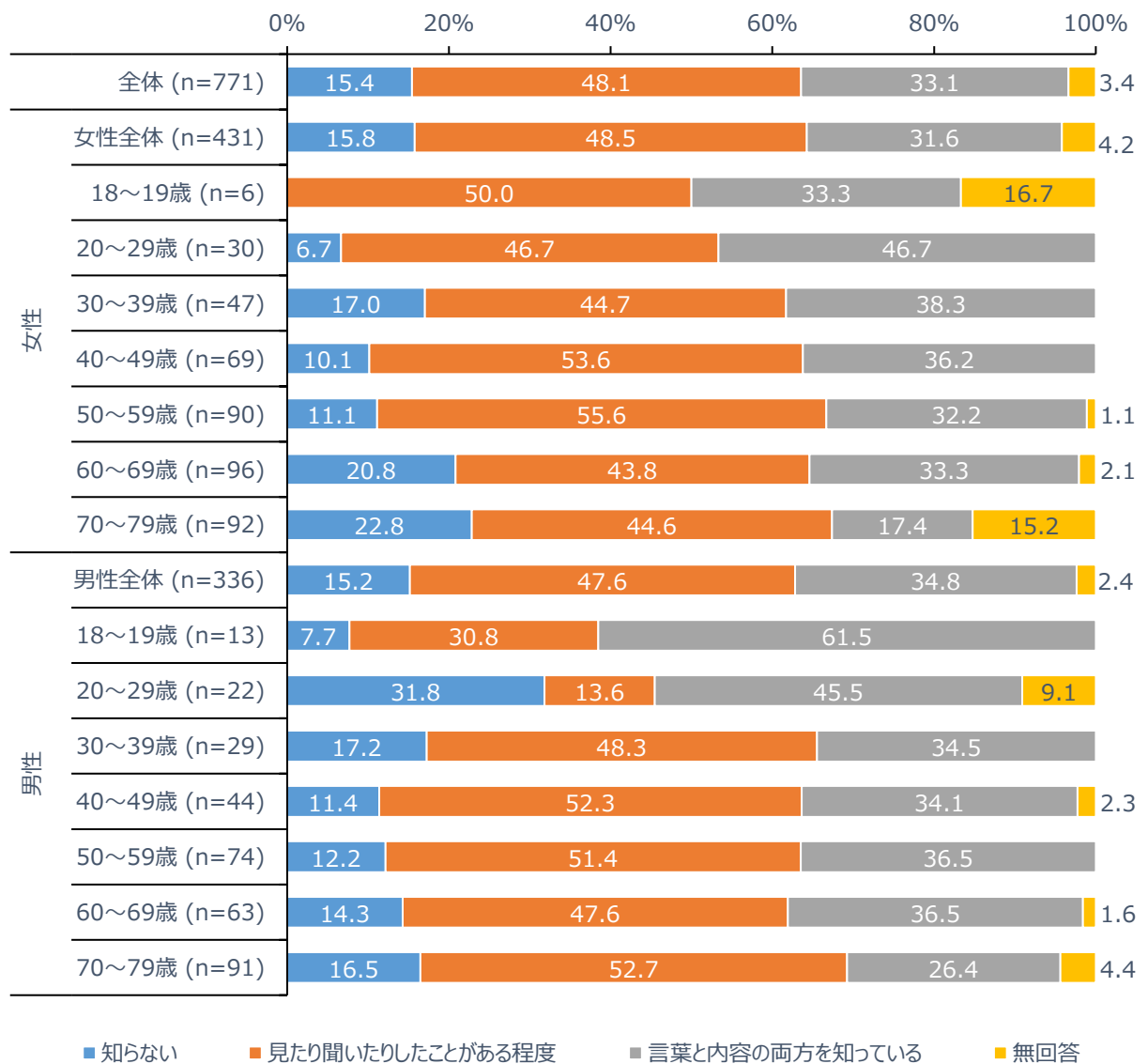
② 男女共同参画社会基本法

ことばの認知度_男女共同参画社会基本法 (SA)



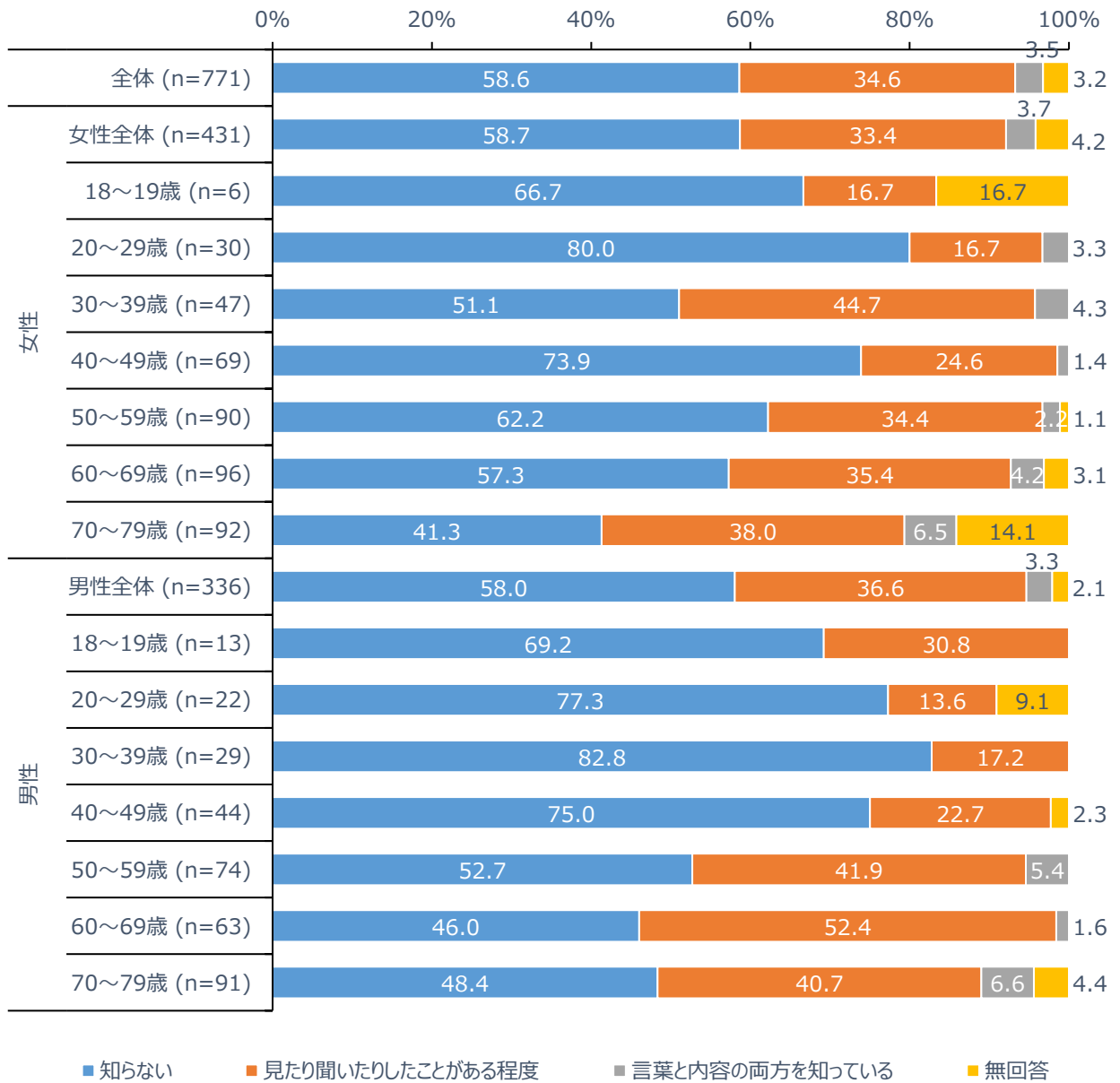
③ 男女雇用機会均等法

ことばの認知度_男女雇用機会均等法 (SA)



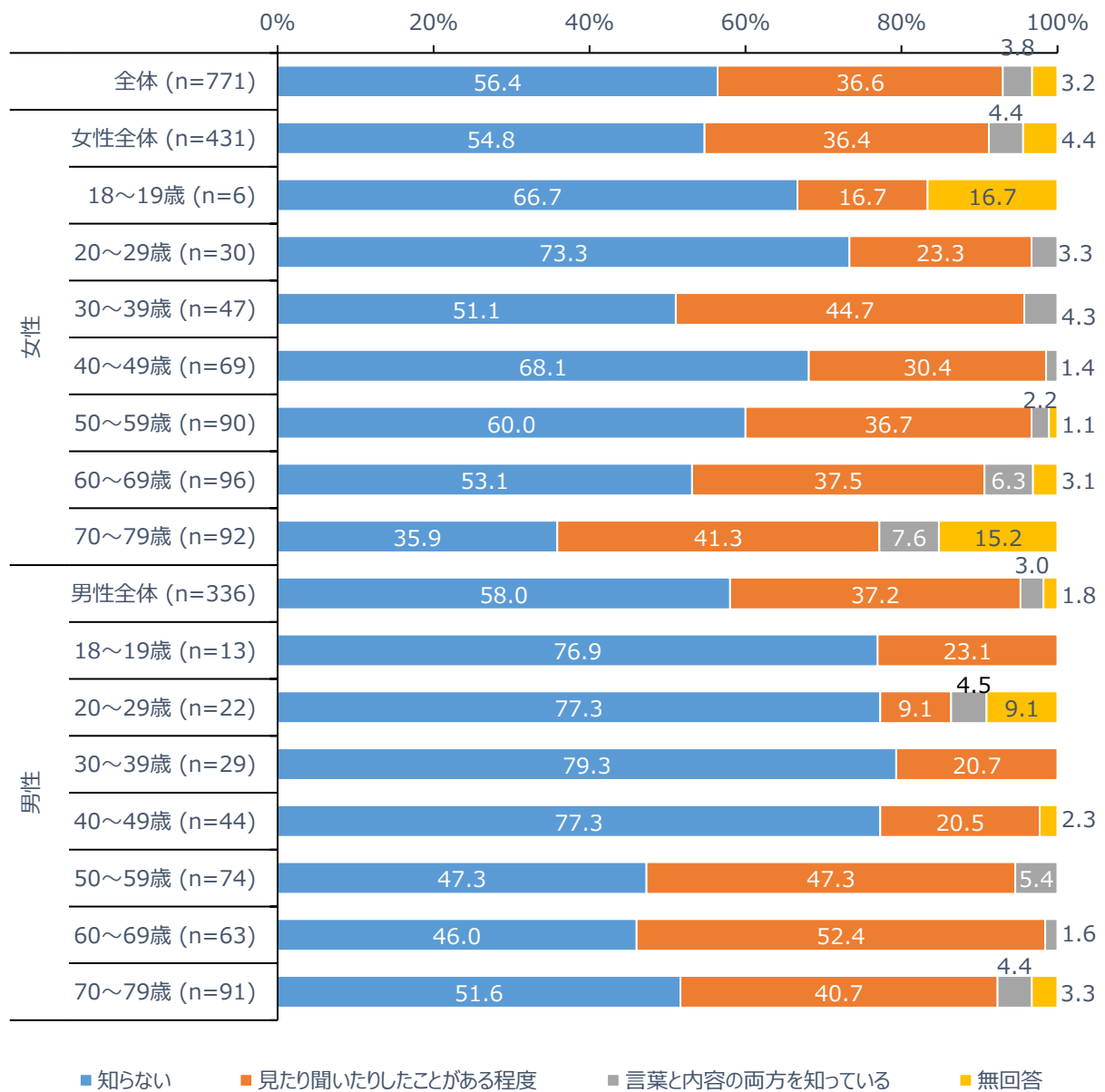
④ 笛吹市男女共同参画推進条例

ことばの認知度_笛吹市男女共同参画推進条例 (SA)



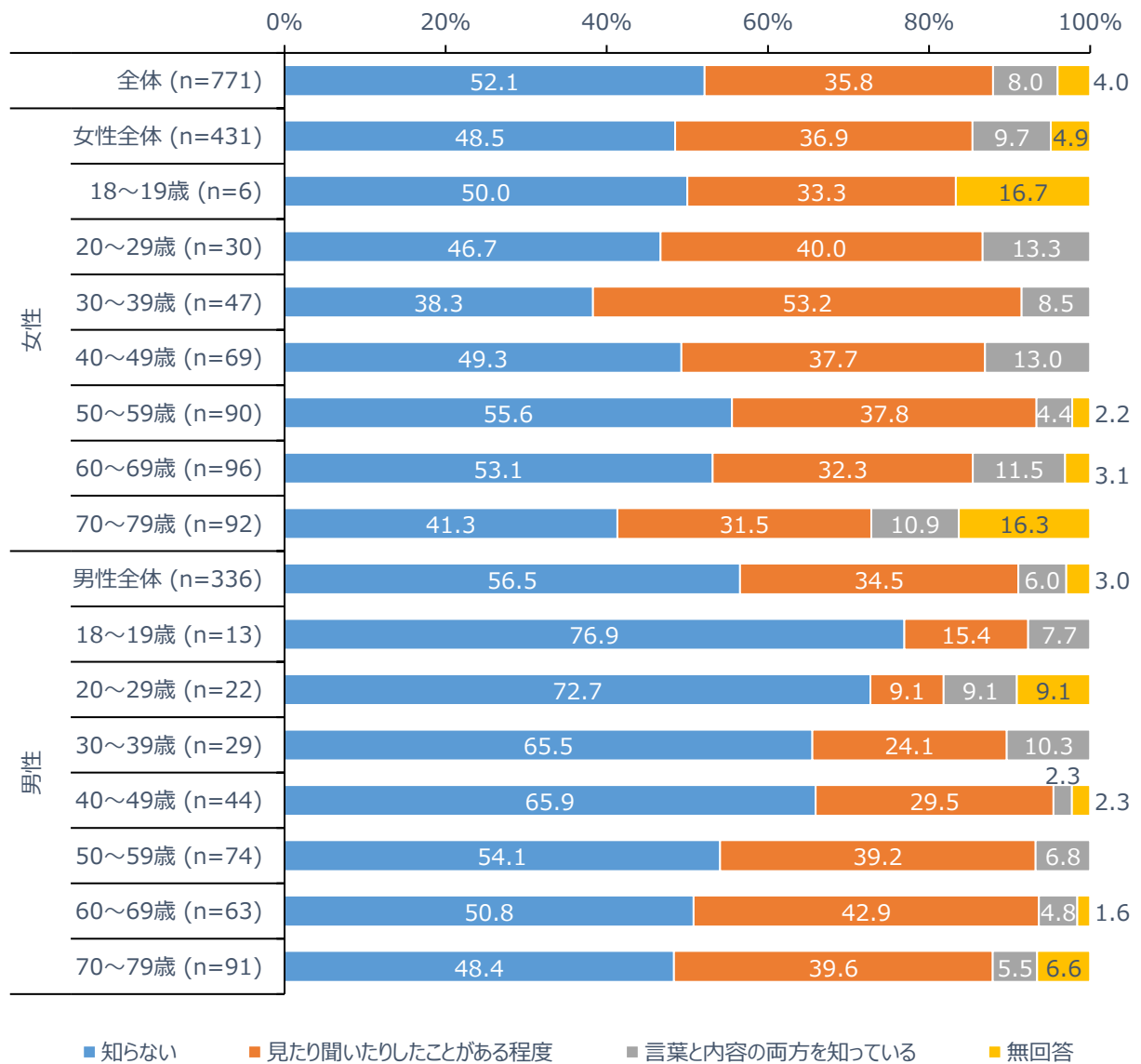
⑤ 笛吹市男女共同参画プラン

ことばの認知度_笛吹市男女共同参画プラン (SA)



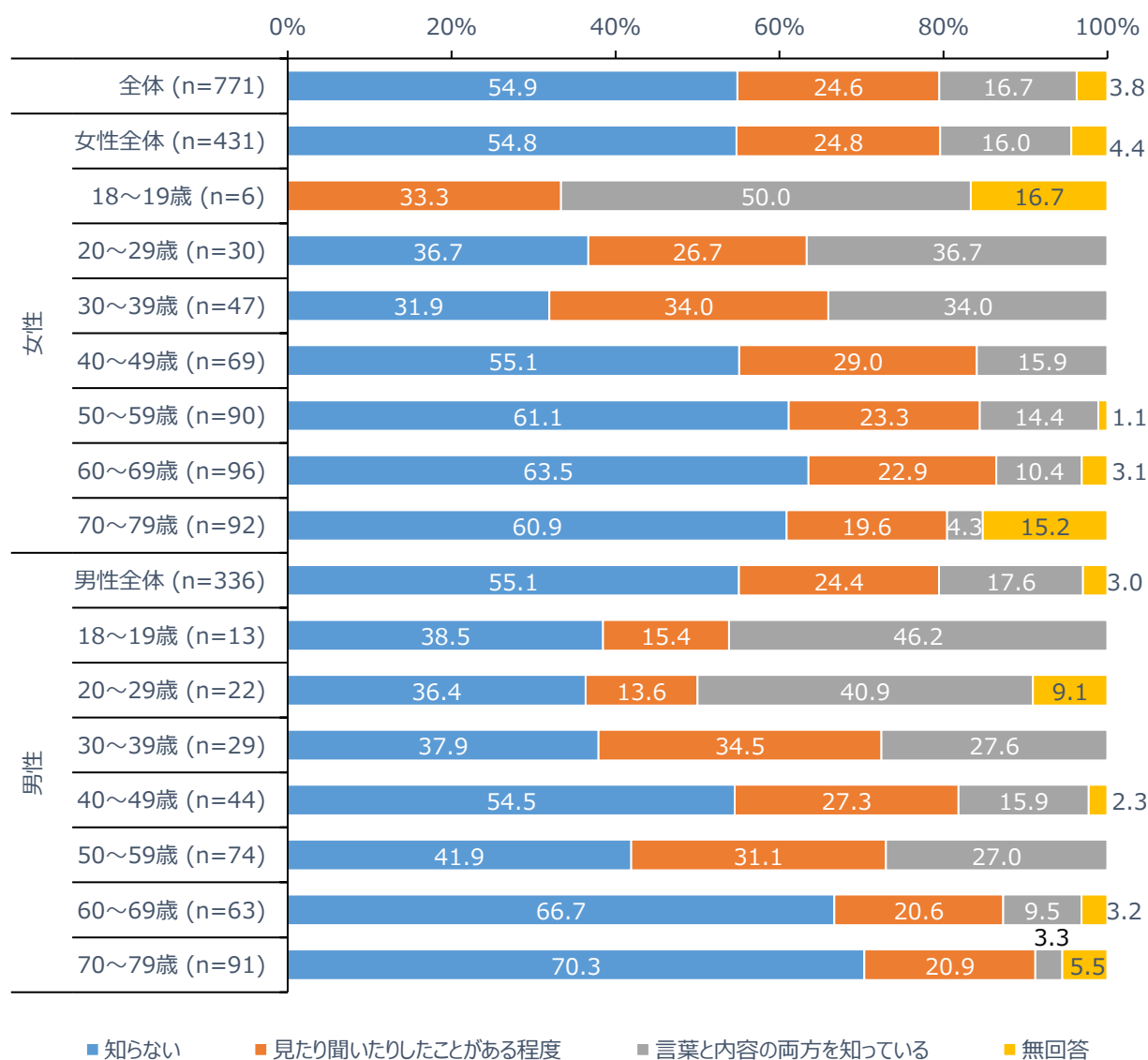
⑥ 配偶者暴力相談支援センター

ことばの認知度_配偶者暴力相談支援センター (SA)



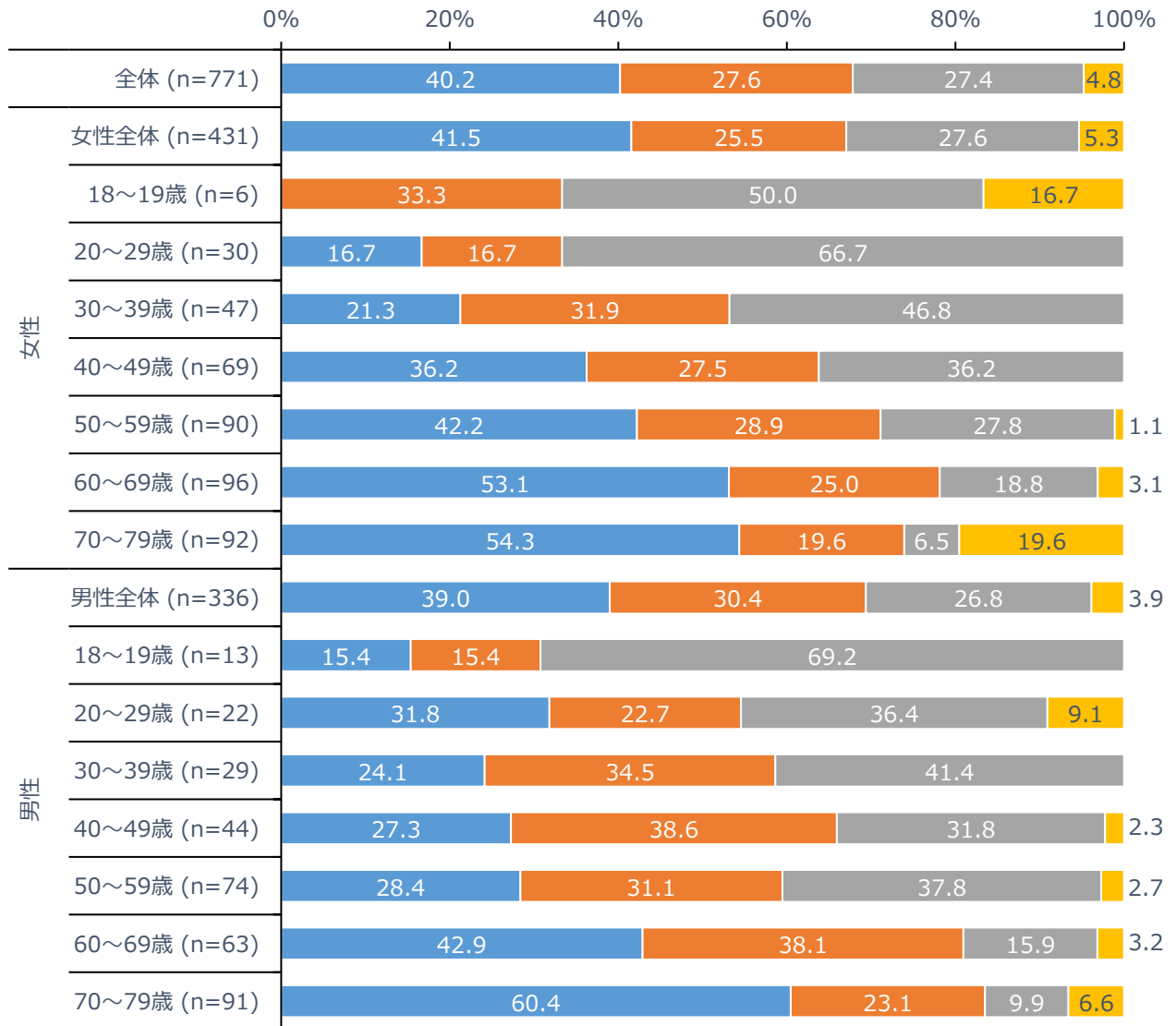
⑦ ワーク・ライフ・バランス

ことばの認知度_ワーク・ライフ・バランス (SA)



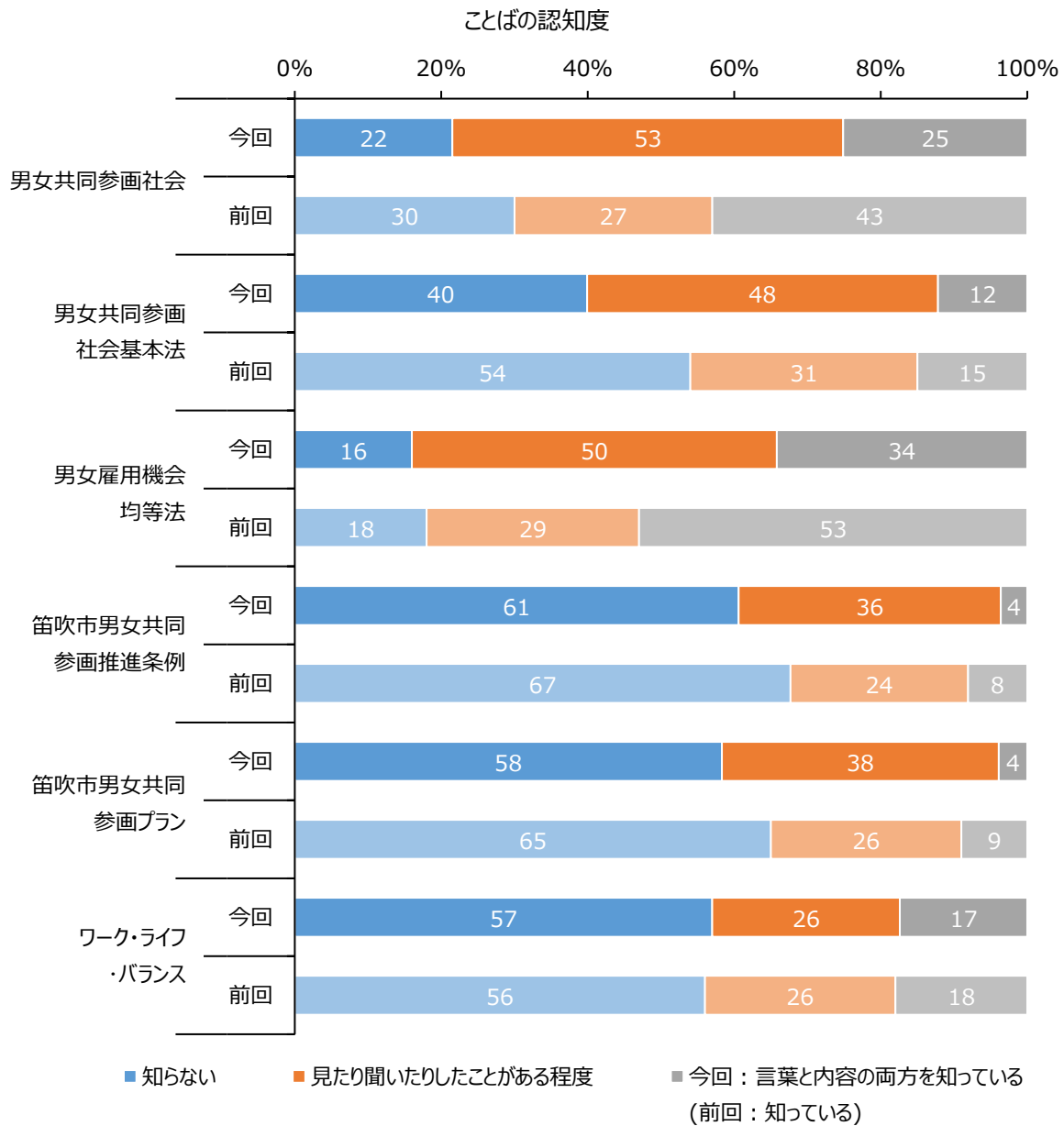
⑧ LGBT

ことばの認知度_LGBT (SA)



■ 知らない
 ■ 見たり聞いたりしたことがある程度
 ■ 言葉と内容の両方を知っている
 ■ 無回答

【前回（平成27年度）との比較】

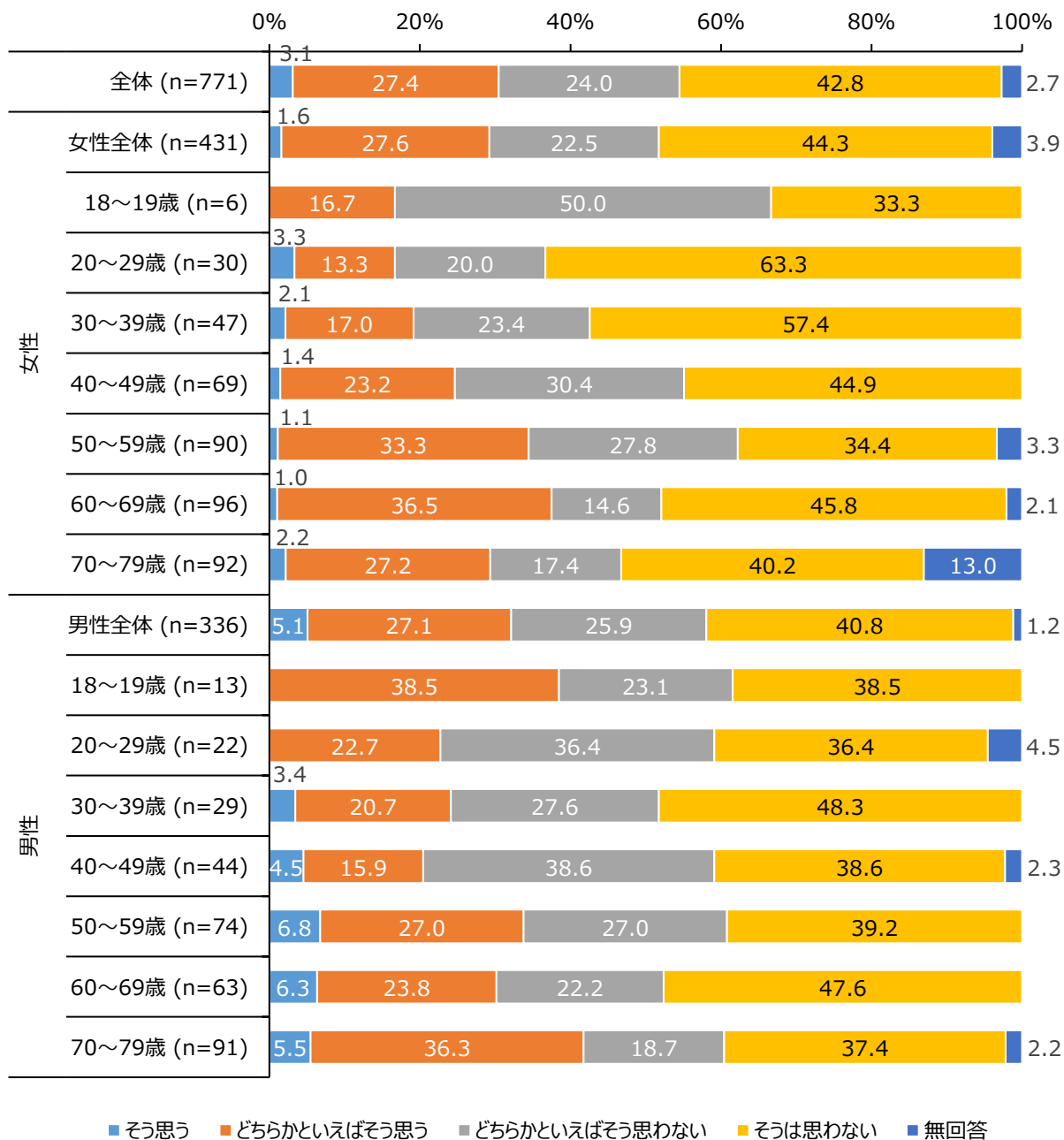


* 無回答を除く

2.7.あなたの「価値観」について

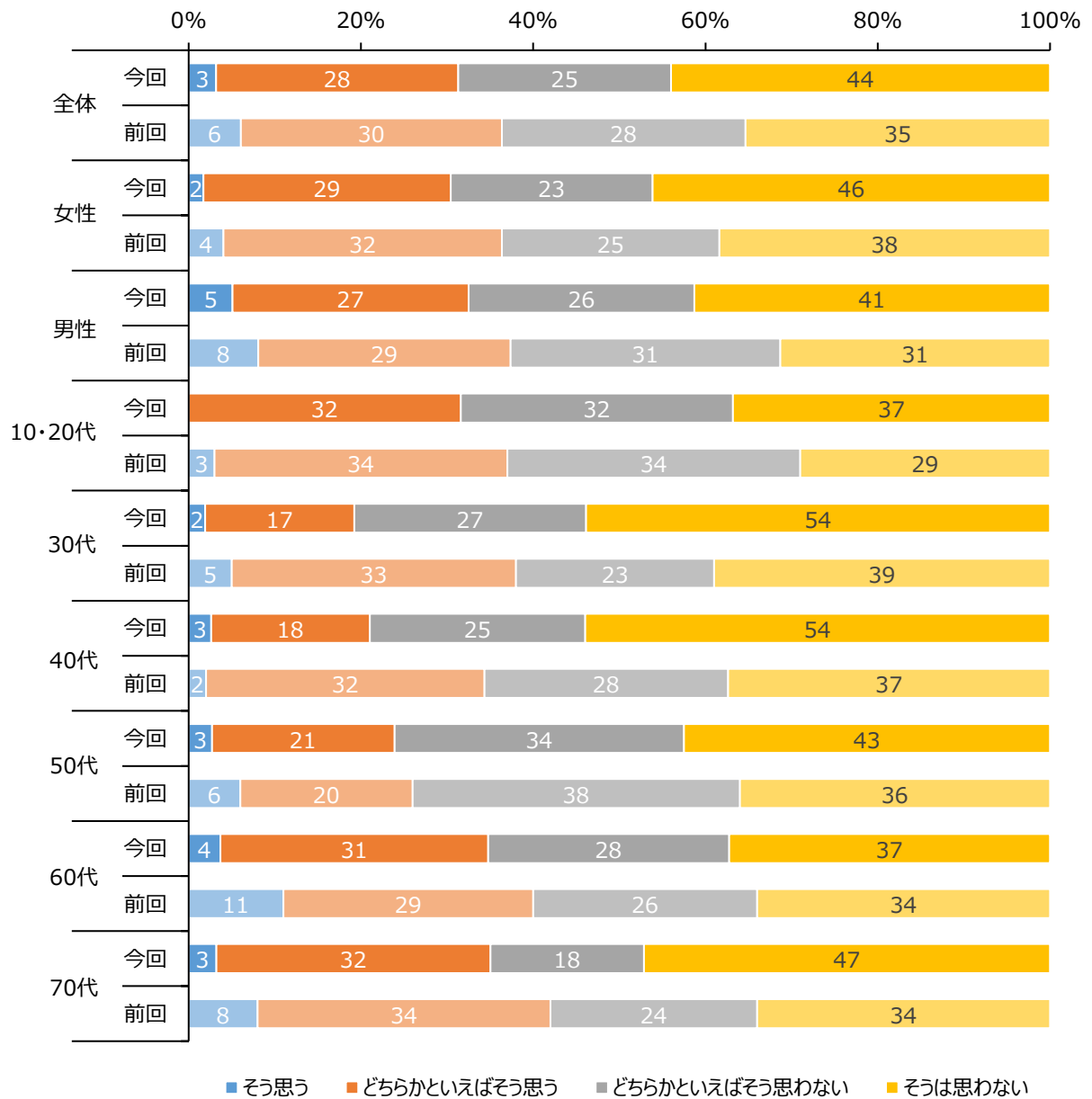
問23 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、どう思うか (SA)



【前回（平成27年度）との比較】

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、どう思うか

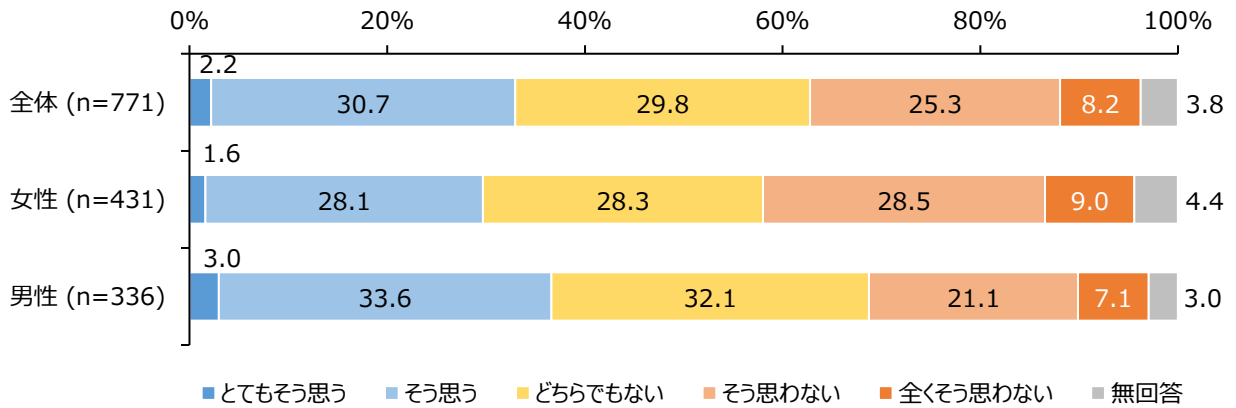


* 無回答を除く

問24 あなたは以下の各項目についてどのように思いますか（あなたの価値観）

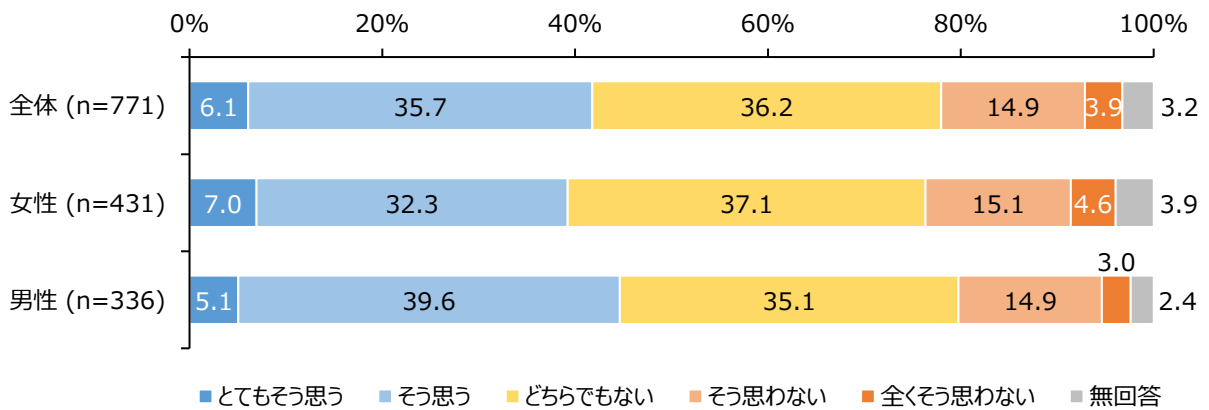
① 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているか

男性は仕事、女性は家事・育児に向いている（SA）



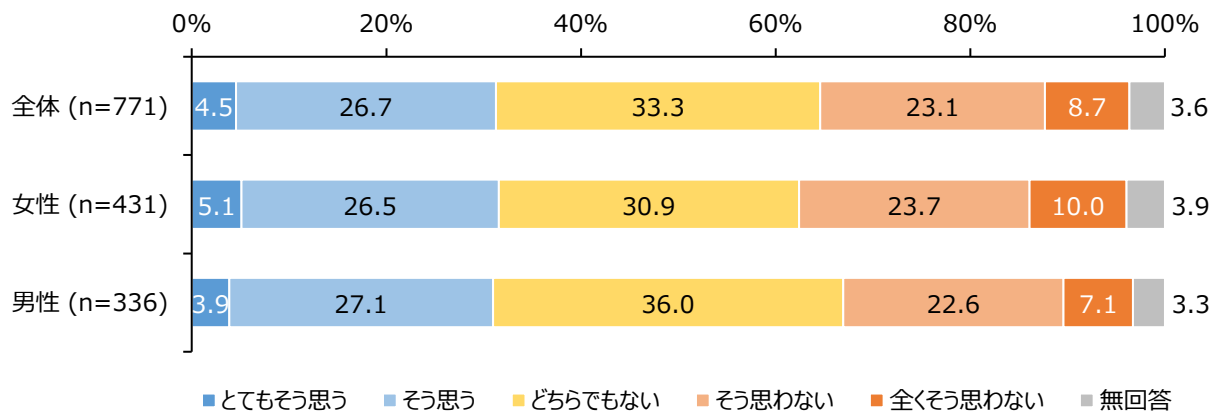
② 夫婦の役割を分ける方が、仕事も家庭もうまくいくか

夫婦の役割を分ける方が、仕事も家庭もうまくいく（SA）



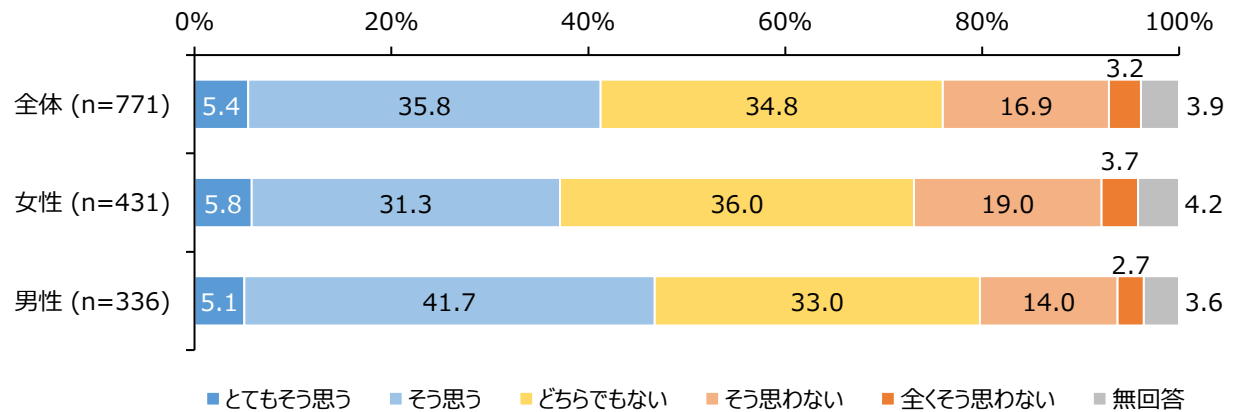
③ 子どもの頃から、男性は仕事、女性は家庭という教育を受けているか

子どもの頃から、男性は仕事、女性は家庭という教育を受けている (SA)



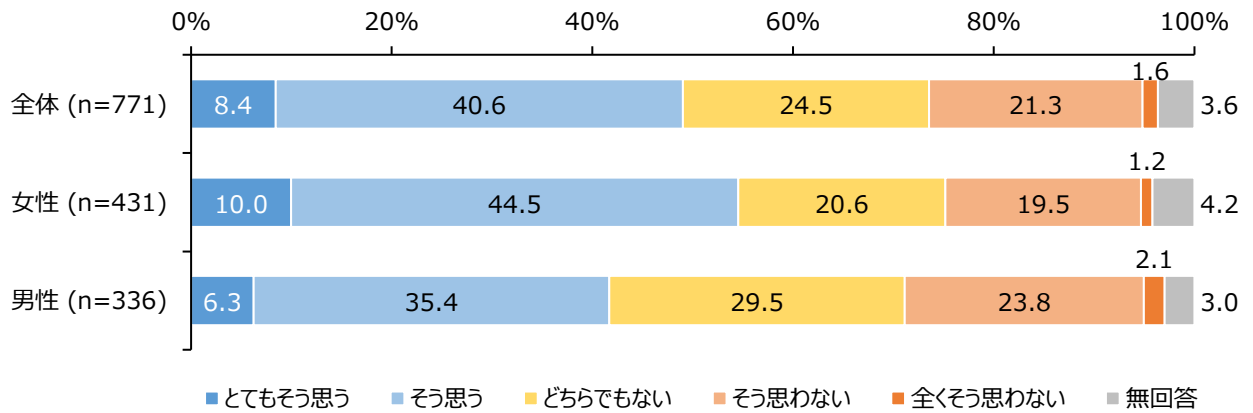
④ 女性が家庭にいた方が、子どもの成長のためによいか

女性が家庭にいた方が、子どもの成長のためによい (SA)



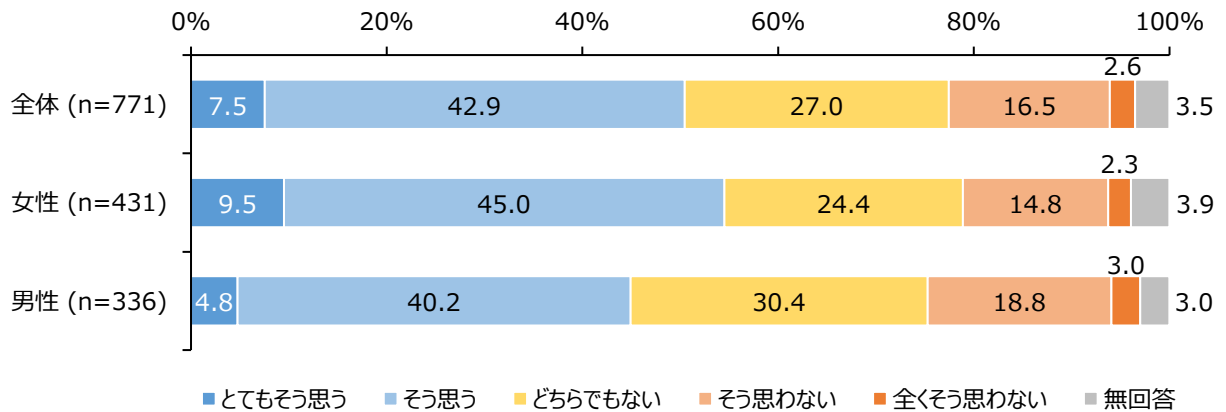
⑤ 女性は仕事と家庭との両立が難しいか

女性は仕事と家庭との両立が難しい (SA)

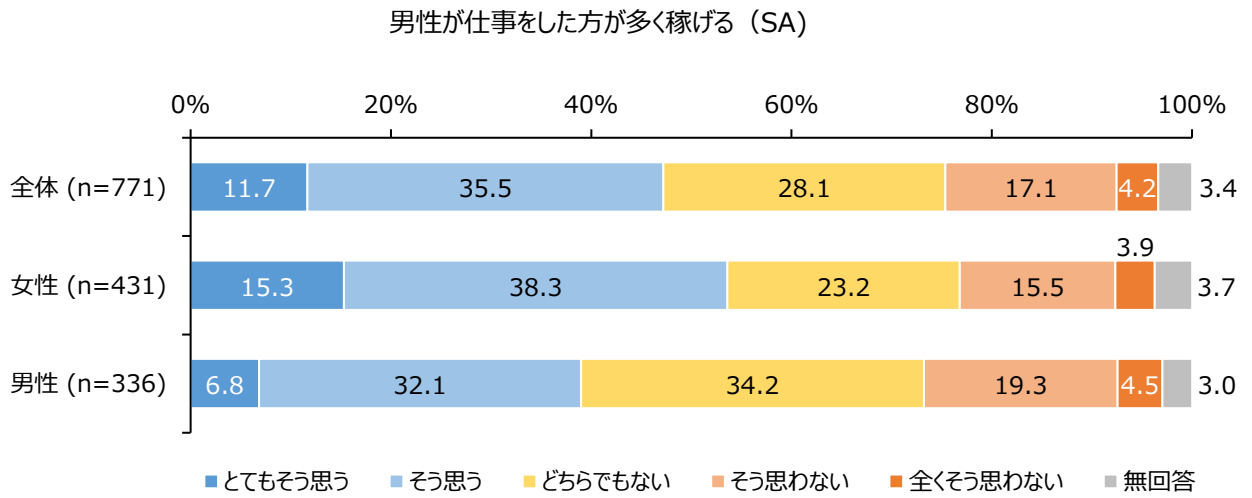


⑥ 女性は男性と比べて体力がないか

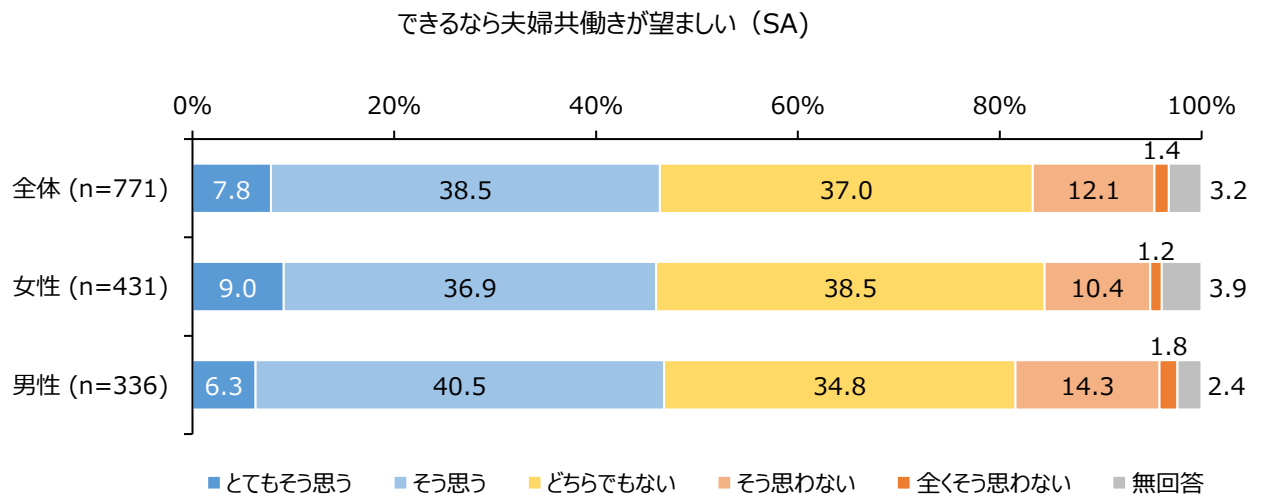
女性は男性と比べて体力がない (SA)



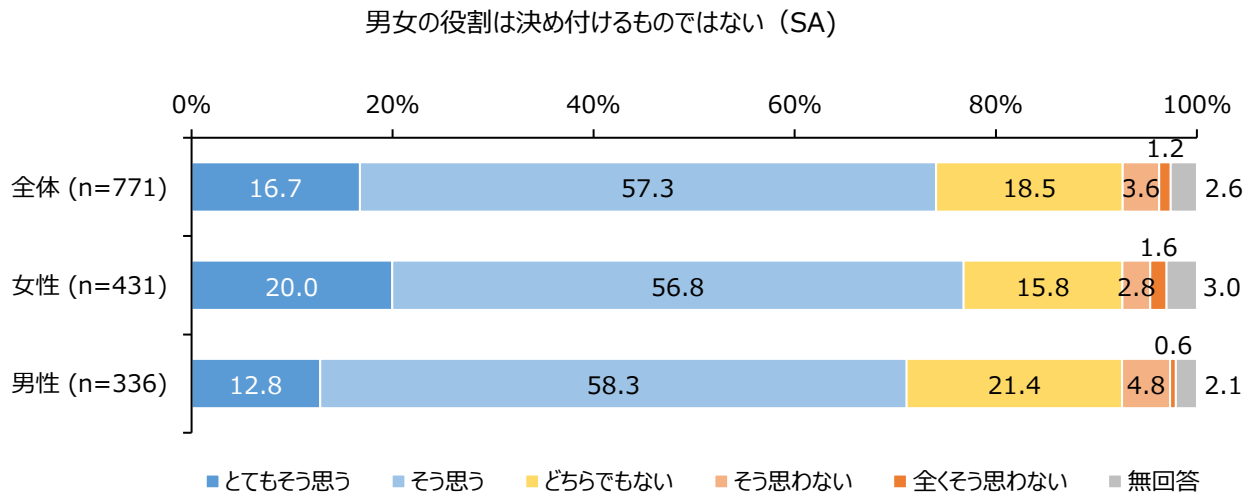
⑦ 男性が仕事をした方が多く稼げるか



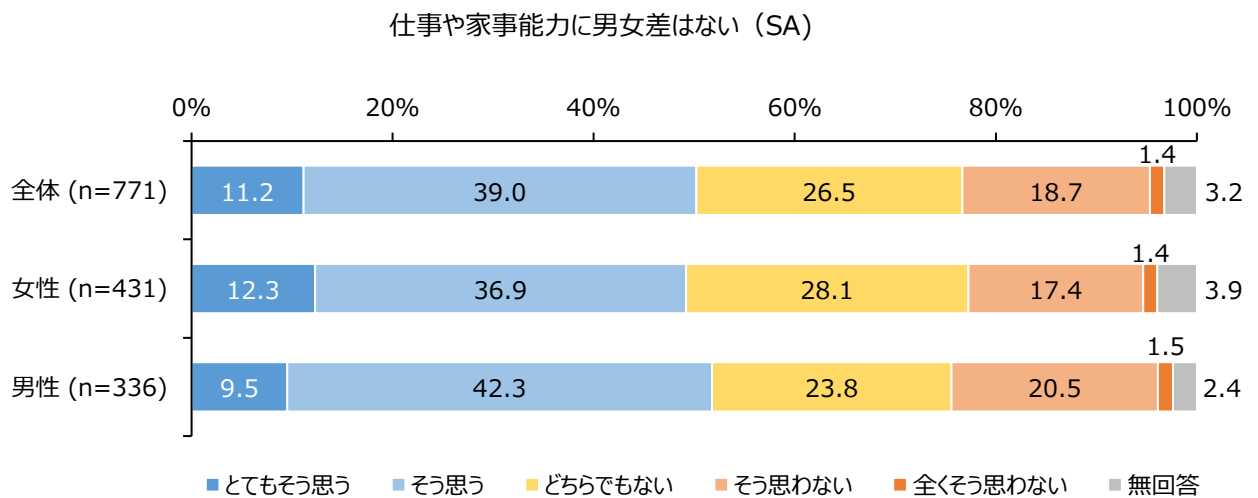
⑧ できるなら夫婦共働きが望ましいか



⑨ 男女の役割は決め付けるものではないか

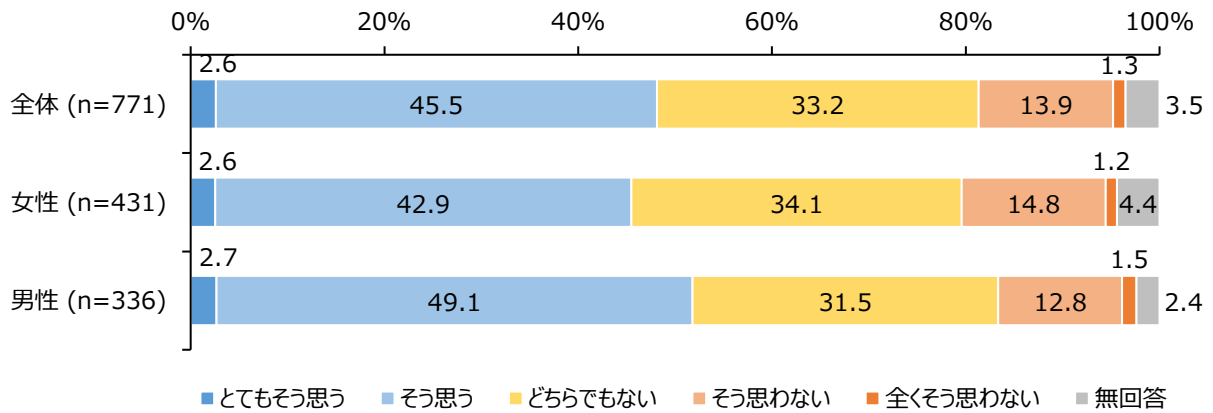


⑩ 仕事や家事能力に男女差はないか



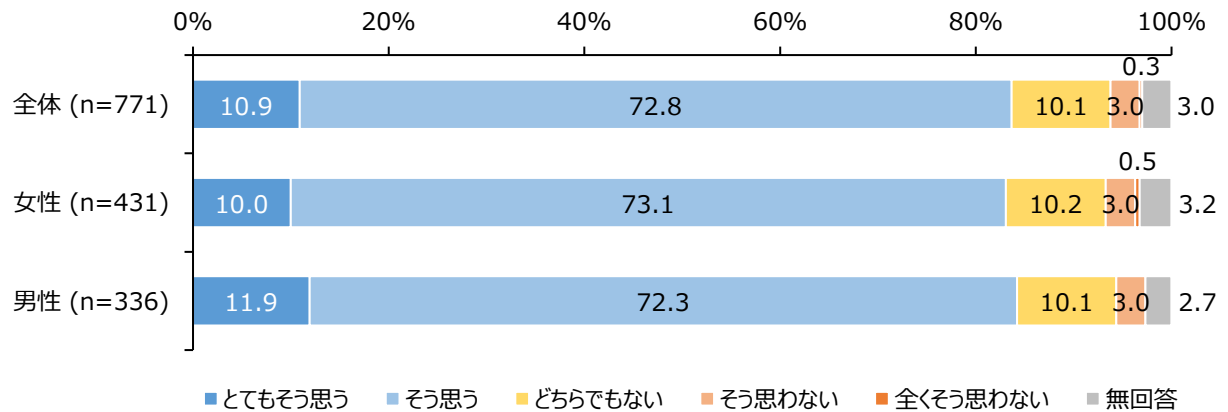
⑪ 男女を区別し役割を固定する慣習が薄れてきているか

男女を区別し役割を固定する慣習が薄れてきている (SA)



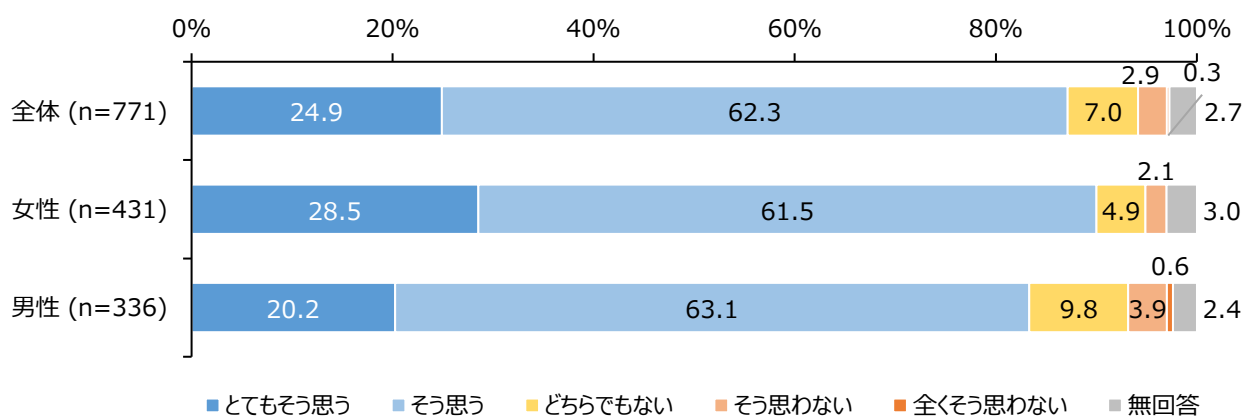
⑫ 仕事の面でも活躍している女性が多くなっているか

仕事の面でも活躍している女性が多くなっている (SA)



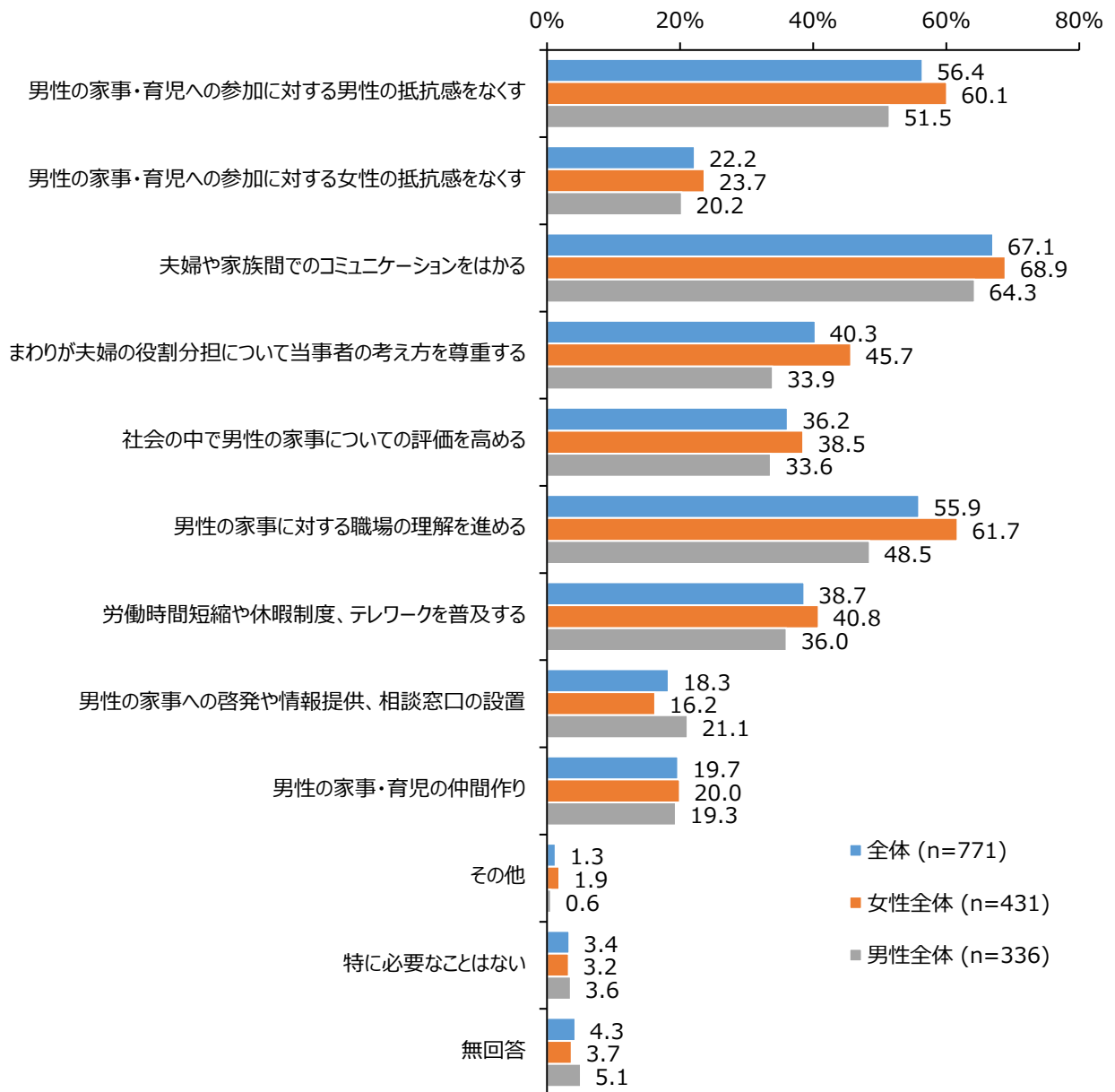
⑬ 女性も男性も自分のできることをすればよいか

女性も男性も自分のできることをすればよい (SA)



問25 男性が家事、育児などに積極的に参加していくために必要なこと（〇はいくつでも）

今後、男性が家事、育児、看護・介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと（MA）



2.8.自由意見

問 26 男女共同参画の実現に必要なと思われること

【10代】

- 男性が育児に携わることへの社会的な評価を高める。(女性/18~19歳/三世代)
- 社会全体の理解。(女性/18~19歳/三世代)
- 前々から国の立法機関で言っているが、現実には一向に進んでいないのが現実だと思います。(女性/18~19歳/三世代)
- 「男だから～」とか「女だから～」など、性別にとらわれた古くさい考えを捨てていくこと。(女性/18~19歳/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 男性は仕事、女性は家事育児をやるという考えをなくしていくことが大事だと思う。また、男性の育児休業を認められる世の中にしていくことも必要だと思う。(女性/18~19歳/三世代)
- 意識の改革。(女性/18~19歳/三世代)
- ワーク・ライフ・バランス。(女性/18~19歳/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 偏見をなくす。(女性/18~19歳/親と子ども(ひとり親家族除く))

【20代】

- セクハラニュースを見ると、被害者の話を信じていない人が多いです。その人は勇気を出して話したのに。こういうところの考えを変える教育が必要だと思います。(男性/20~29歳/一人暮らし)
- 小学生からそういう教育を進める。(男性/20~29歳/ひとり親家族)
- お互いが意見を理解し、お互いが相手を尊重すること。(男性/20~29歳/三世代)
- 今までの概念にとらわれる事なく、変化を受け入れて、他人に自分を押しつけないような形で出来る事に取り組めば良いと思う。(男性/20~29歳/三世代)
- 介護離職や育児休業を取得する者が女性の方が多いことからわかるように、「育児・介護等、家庭内のことは女性がするものだ」という性的役割(ジェンダー)の概念が根強く残っていると感じる。これは、職場の理解を得ることももちろん必要であるが、例えば、パパママ育休プラスなどはいまだ認知度が低いいため、何より必要なのは市民に対する啓発活動であると考え。回覧板に折りこむ広報誌等、誰もが目にするメディアによって啓発を行うことで、利用できる制度の認知度を高めることが大切だと考える。(男性/20~29歳/三世代)
- 男女の差異をなくすことではなく、性にとらわれずに自分のやりたい事をやらなければならない事の両立を誰でも当たり前でできる環境作りを、できるだけ早い状態を実現して欲しいというのは、今の若者が学校教育で受けた理想であると思う。(男性/20~29歳/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 古い考えを取り除く。(女性/20~29歳/三世代)
- テレビの力は大きい。画面の中が男女の役割を作っているのだから、時代や社会が変わってきても男女の役割イメージは変わらない。そして、女性が働くようになっているのだから、町や学校等、役員活動に参加するのは難しい。もっと減らさなければいけないと思う。ちなみに、愛育班は女性がやっているところがほとんど。なくていいと思う。(男性/20~29歳/三世代)

- 「男は仕事、女は家庭」といった価値観を持った中年の人たちにそういった考えは時代遅れだときちんと認知させること。(女性/20~29歳/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 今、社会で働いている方(特に管理職の方)の固定観念を変えられるのはとても難しいと思います。なので、学校教育の場や、これから社会で働く方、結婚する方に男女共同参画の大切さ、必要性を学んでいただくことが大切だと思います。(男性/20~29歳/夫婦のみ)
- 制度は徐々に整えられていっていると感じる。しかしながら、古い昔からの悪習を改めない人間が多い(具体的には、男性の育児休暇を使うならばクビにすると主張する会社の上司)。こうなると、会社側にも育児休暇をさせるインセンティブを与えるなどして、考え以上にメリットを与えるのが良いのではないだろうか(具体的には育児休暇取得の人数に応じた支援金)。(女性/20~29歳/三世代)
- 年配の方の古い考えを直していけば変わるのではないのでしょうか。(女性/20~29歳/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 女性が産休、育休後、職場復帰しやすい環境作り。(男性/20~29歳/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 内容がわからないので特にはないです。(男性/20~29歳/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 年配の方の固定概念をなくすような活動。性別によって職業選択の幅を狭めない。男性の育児が当たり前になるような社会、女性が社会復帰しやすい環境整備。(男性/20~29歳/親と子ども(ひとり親家族除く))

【30代】

- 結局、古い考え方を持っている高齢者が制度の変革にストップを掛けているし、年下の人間への圧力で地域行政を牛耳っていることが問題。一番早いのは法律ですべての自由を定めてもらい、それに逆らう老人を罰してくれないと何も変わらない。(女性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 職場の理解が必要だと思います。(男性/30歳代/夫婦のみ)
- PTA、地区の行事などの役員を決められても、仕事、子供がいたり、引っ越しなどでの役員の決め直しなどで他の地区に行きづらい。その話し合いもだいたい女性が行かなければならないのが大変です。(男性/30歳代/夫婦と親)
- 子供の頃から、多様性の重要性を教える必要があることと、男女についての違いを認識しながら協力し、暮らしていけるように育てる風潮であってほしい。(男性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 時間に対する余裕が必要。(女性/30歳代/夫婦のみ)
- 「男女共同参画」という言葉が難しくてわかりにくいのが良くないのですが、要するに、今後の日本の経済、社会は性別(や年齢その他)に関わりなくすべての人間が参加し、力を発揮していかなければ成り立たないという事です。男女が対立するのではなく、協力して多様性に富んだ人々すべてが活躍できる社会(職場、家庭、地球、政治等)をつくっていかうという姿勢が必要だと思います。(男性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 現在の労働生産性そのまま雇用や労働の均等を目指しても女性、男性関わらず疲弊するだけです。まず、第一は日本の労働の価値を高くすること。古の人間の「頑張っただけ価値がある」などの非効率な価値観を是正し、短時間で済むものに価値の比重を分ける仕組みを入れて、長時間労働を無価値なもの

に近づける方が、性別だけでなく、年齢、家庭環境など個々人の事情にて労働機会に制限がある人の労働環境が良いものになると思う。その為にはまず、団塊の世代に当たる人の雇用を極限に減らすことを第一歩とするべきと考えます。(女性/30歳代/夫婦のみ)

- 男性が得意なこと、女性が得意なこと、また、男女関係なく個人が得意なことがあるので、1人1人の得意な事と出来ることを理解しあってお互いに協力していく姿勢が大事だと思う。(男性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 仕事上でのポジションが高い男性が、より多く家事、育児に参加できる働き方を会社全体(日本全体)で取り組む事により、意識改革が出来るのではないかと思います。男女共同参画の件に対し、何か法律でもあればいいのに。(男性/30歳代/ひとり親家族)
- 休みなど取りやすくする周りの環境(仕事場)。保育園の充実(施設数や病児のための看護師をおくなど)。金銭面(子供がいる家庭には手厚い支援が多いが、そうではない家庭は「お金を国や地方自治体に取りられるだけ」になっているように感じるので、男女共に金銭面に多少の緩和がなければ、協力し合う心の余裕も作りにくいと思う)。(男性/30歳代/三世代)
- アンケート対象は既婚者に限ったほうが良い。(女性/30歳代/その他)
- 男女が同じように活動することは大切と思うが、実際男性のほうが出来ること、女性のほうが出来ることもあるのも事実だと思う。無理に全ての事で平等とするのではなく、課題を定め、その課題を男女共同で取り組めるような仕組みを作るようにすればいいと考える。(女性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- アンケートばかりでなく、行動、実行してほしい。計画、目標、実行。そもそもこれでなにか変わるのか。(男性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 実際問題、夫婦がフルタイムで働くとなると、子どもの面倒を見る人がいなくなるので難しい。現在、様々な職業、仕事は残業を前提として成り立っているため、子育てに関わる時間が短くなってしまふ。(女性/30歳代/三世代)
- 現状、生活に追われていて考える余裕が無い。(女性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 女性の管理職を増やすといい会社だと思われる傾向があるため、能力のない女性管理職がいるので見極めて欲しい。(女性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 性別に関わらず、お互いに助け合うことを重視していくことだと思う。大変な人がいたら男も女も関係なく皆で助けることだと思う。経済的にも肉体的にも精神的にも。(男性/30歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))

【40代】

- 義務教育段階で男女それぞれの良いところを尊重しあうことを学ぶ。感謝しあうよう育てば自然とうまくいくのでは。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 企業の考え方が変わっていないので企業に対して見直しを依頼したほうが良い。(男性/40歳代/夫婦のみ)
- 誰もが休みやすい環境を作れること。休まなければならないことでまわりのサポートする人が不利益にならないこと。1人で2人分、3人分、それ以上の仕事をしなければならないが金銭的には1人分しか出ない。これはおかしい。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))

- 男女それぞれの意識の持ち方と、社会の捉え方が安定することで実現できる。しかし、男女で生態的な向き不向きもあることも否定できないとも思う。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 年配者の昔ながらの考えを変える。子供の協力も必要だと思う。実際、育休や介護休を取ることは難しい。多様でも良いと思う。役割分担を性差で決めてもいい。(女性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 男女共同参画の実現に必要なと思われることの意味が何か分からない。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- こういうアンケートはすごく良いと思います。女も男も全員一緒です。(男性/40歳代/夫婦のみ)
- 男尊女卑がなくなる限り、実現することは厳しいと思います。(男性/40歳代/夫婦のみ)
- 山梨県自身が発展しなければ、人間も発展しないと考える。時間の流れが遅い場所だと思う。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 職場の理解不足が一番の原因と思慮されます。(女性/40歳代/三世代)
- 一人一人考え方が違いますから、自然にこの計画が受け入れる社会になるといいですね。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 時間を地域活動に取られることが一番の問題だと思います。古い慣習通りに実施しないとダメという古参が多い為、外部からの受け入れをしにくくなっています。そういうことに時間を取られることが、ワークライフバランスを乱していると思います。仕事と趣味を充実させたいので。神社の維持、祭り、運動会は廃止して欲しい。(女性/40歳代/三世代)
- 女性が家事をする事が当たり前になっているのが問題。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 政府より各企業への圧力を強める。(女性/40歳代/ひとり親家族)
- 欧米のようなハウスキーパー、ガーデナー、シッターなど、身内でない人に家事を頼める仕組み(安価で気軽に利用できる環境)が必要だと思う。本人たちがそれを望んでいるかどうか、日本の文化的な面や育った環境によって差はあるように思います。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 性別ではなく、役割の内容から考え、分担を回る意識転換をすすめる事。(男性/40歳代/夫婦のみ)
- 男性の年齢が高いほど、育児、家事、コミュニケーションがないように思う。若い方は協力があるように見える。子供の時、学生の時から社会の中で役割や育児を考える教育があると良いと思う。勉強も必要でしょうが、生活をしっかりと支える勉強がもっと必要ではないか。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 職場で積極的に男性の育児や家事への参加を促すような情報提供をしたり、もっと社会全体で周知していくべき。自分のまわりでは育休を取った男性はいなかった。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- もう少し簡単に男女共同参画についてわかるものがあればいいと思う。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 今の暮らしが経済的にゆとりがあり、将来や老後の不安が解決されれば市民が活動の幅が出てくるのではと考えます。心のゆとりがなければ新しい行動は起きないと考えます。経済的ゆとりがあって、

心のゆとりが生まれてくる。ゆとりが一人一人の行動力を生んでくると考えます。(女性/40歳代/夫婦のみ)

- 男性が仕事を休みやすくなれば良いと思います。人生は多様です。寛容な社会の仕組みがとても必要です。失敗してもよいから、挑戦して頂けることを行政には求めます。やれることは多いです。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 家庭教育の必要性、幼い頃から「お手伝い」をする事を身につけていれば、他社への思いやりの心が育まれると思います。「男性だから」「女性だから」ではなく、人としての教育が必要かと。「やる気」を育てた上で周囲の理解。「やる気」をきちんと育んだら理解も当然できるはず。(男性/40歳代/一人暮らし)
- 年配者を中心に「男性は仕事、女性は家庭」という考え方を変えるべきだと思う。特に、職場の年配の上司は女性を下に見る傾向が強く、やる気も削がれる。正当な評価を女性も受けることができれば、職場も社会ももっとよくなると思う。男性は意識を変える必要がある。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 充実した社会制度、職場環境、家族の理解。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- より働きやすく、より生きやすく。働きやすくするためには、制度の改革や賃金、社会保障の見直しも必要かと思えます。充実した男女の労働環境や心のゆとりが、生きやすい生活にもつながっていくと思います。生きやすい社会であれば、より男女それぞれが家庭や地域への貢献がしやすくなると思います。これは市町村単位ではなく、県、はては国がもっと力を入れて進めていくべきことと思えます。(男性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 自分もこのアンケートにて法律、仕組など知ったことも多々ありました。認知度も必要なのでは。(女性/40歳代/三世代)
- 男女についての価値観の変革が一番難しいものの1つであると思われる。教科書的な啓蒙よりは地域社会の具体的に根ざした「働きやすさ」「暮らしやすさ」「充実した人生」の実現のなかから自ずと多様な価値観が生まれ共有されていくことが望ましいと考える。笛吹市にも期待しています。(女性/40歳代/夫婦のみ)
- 次代も令和に入り、男尊女卑を行うような時代錯誤な高齢管理職は減りつつあるが、まだ勘違いしている遺物が残っている。だがそれも時間の問題。今の社会を機能的に考えれば、女性の方がむしろ能力が高いので、大切にすべきだと思う。(女性/40歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))

【50代】

- 思いやる気持ち！(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 昔は女性が外に出ることを嫌う姑、舅が多く感じるが、最近は少なくなった気がする。家事育児の分担や社会活動を行う理解が周囲になれば難しいと思う。(男性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 男女平等であることや、相互に補い合い生活を成り立たせていくことが普通の考えとして定着することが必要。1人1人得意な事、不得意な事があるので、男女で決めつけないほうが良い。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 極端な方向に進むべきものではないと考えます。共同参画ありきで進んでいくことに違和感を覚えま

す。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))

- 多種の職業の男女に参加してもらうことが必要。(女性/50歳代/夫婦のみ)
- 何もかも男女共同と言うのは、それぞれの機能を考慮すると無理があると思います。それぞれを尊重し、補い合う事が必要だと思います。男性に子供は産めないし、授乳も出来ない。力仕事は女性には少し難しい。(女性/50歳代/一人暮らし)
- 朝から夜 8 時まで妻が子供の面倒を見ていて、8 時から私が仕事から帰ってきたら妻が仕事に夜中の 3 時まで行くので、その間は私が生まれて 6 か月の子供の面倒を見ていました。食事の支度も、妻がフィリピン人のために日本食が作れないので、私が作っていましたから、私には普通の事です。(女性/50歳代/ひとり親家族)
- 男女平等・共同という意識の根本は、お互いの存在に対する「感謝の心」を持つ事が大切です。この意識は学校等で人から教えられるものではなく、家庭生活の中で幼い頃より自然と育まれていくものです。また、我が国がなぜ男女不平等・不共同と言われる様な社会となっているのか、歴史をしっかりと学び、認識・理解した上で方策を考える事が重要です。歴史を知らずに未来を語る事は出来ません。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 地区の役員などで、交通安全母の会や愛育班など、女性がするべきと思われるものや、男性でなければダメだと言われるものがまだあります。ひとり親や忙しくても参加できないご主人が、肩身の狭い思いをしなくてもよい地区にしたいです。河川清掃に参加できない人がお金を払うのもあまりよくない。高齢者など無理して参加したりしています。(男性/50歳代/夫婦のみ)
- 笛吹市はコロナ対策が不十分。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 男女間の給料の差をなくするのが一番の近道と思う。(男性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 「男女共同参画」の意味がわからない。何をどうするかわからない。一部の人ができるのではなく、皆にわかる様にして下さい。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 男女という言い方を変えて欲しい。男女=差別のイメージしかわからない。公務員が男女平等の手本を示してほしい。(男性/50歳代/一人暮らし)
- それぞれの家庭で差があると思いますが、出来るだけ男女区別なく男性でも家庭のことであればいいと思います。介護も男性にも参加してもらえればいいと思います。(男性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 市民にこの制度の認知度を上げることが必要だと思う。(男性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 労働時間的に共働きでは家事や育児をする時間がない部分もある。妻が仕事ではなく家事、男性が仕事など、分担しないと家が回らない。仕事時間を減らしても収入が減るのでは意味がない。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 各家庭の選択を社会が受け入れていくことが必要だと思う。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 地域の活動の古い慣習は改めていくべき。(女性/50歳代/三世代)
- 女性に対してまずは敬意を持って欲しい。女性の価値を理解していただくことで男性を支え、共に頑張れる。女性を活かして欲しい。日本の社会の成長にも繋がる。(男性/50歳代/三世代)

- 社会全体の相互理解が必要。その為には時間がかかる。新しい世代の人たちにはそういう社会を変えてもらいたい。男も女もというのではなく、皆同じという考え方。子供も高齢者もこの世に生きている人皆同じだから。(男性/50歳代/三世代)
- 男女のコミュニケーション。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- まずは社会が男性による家事育児について評価してくれる事が大事だと思います。(女性/50歳代/夫婦のみ)
- 家事を軽視しないこと。家庭人の仕事を重視するべきです。無償の愛に感謝なくして実現は本来難しいのです。(男性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 現在の社会の指導者(政治家、官僚、会社経営者等)は主に男性で構成され、自分たちがその恩恵を享受している。本気ではないので進むことはないだろう。男女共同参画は、価値観の違う世代への交代が進むまでこのようなことをずっと言っているであろう。(女性/50歳代/一人暮らし)
- 現在の立場上特にはない。(男性/50歳代/ひとり親家族)
- そもそも個人によって体力差や能力差があるので、男性だから〇〇、女性だから〇〇、と決めつける事が好きではない。もっと人として思いやりを持って、出来る人が行うとか、得意な人が行うとか、その都度みんな考えて話して生活していければ理想だと思う。突き詰めれば「コミュニケーション」と「人間力」。一番難しいですが。(男性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 社会全体の仕組み、考え、評価などの改善。(男性/50歳代/三世代)
- 女性自身の主体性の向上も必要。若い人であっても、簡単な書類を書く時にでもいつも夫の名前で書くとか、自分では大役は引き受けない(「夫に聞かないと」などの発言を無意識にしたり、あえて夫を理由にして自分は引き受けない。)ことが多いと感じる。女性自らが意思決定をする場に参加したり、自分の意見を言えるよう、主体性を高めることも必要。めんどくさいことに対して都合よく夫の陰に隠れてしまうのは、その考え方が役割分担(男女差を認める)意識にもつながっていると思う。(男性/50歳代/ひとり親家族)
- 精神的、体力的余裕。日々慌ただしく生活していると、そのようなことを考える暇がないと思います。(男性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 家庭では親が家事分担をしている姿を見せる。職場では急な休みが取りやすい環境になる。(男性/50歳代/夫婦のみ)
- 私の勤務先では同じ職場内に産前産後休暇取得による長期離脱者がいても復職までの間の人的補充はないことから、状況によっては誰かがオーバーワークを引き受けなければならないことがある。制度の趣旨や重要性を頭では理解しても、時にしわ寄せが出るとどうしても不満が生じる。互いに気持ちよく休暇が取得できるためには組織内の体制整備が不可欠であるが、企業にその余裕がないのが実情。さらに言えば、こうした変化を受け入れるためには社会全体がもっと寛容になる必要があると思慮する。(女性/50歳代/三世代)
- 女性が有利になることはやめてもらいたい。能力が同じなら女性を有利に評価することはおかしい。(女性/50歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 家事、育児への男性参加に比べ、介護における男性参加、仕事との両立への支援や制度への認知度が低いように思う。男女共に介護離職をしないし社会も、家事、育児と同様に大切だと思う。(男性/50歳代/三世代)

【60代】

- 男女共個性を伸ばせるよう、機会を与える環境作りと能力を生かせる職場。(男性/60歳代/夫婦のみ)
- 「男女共同参画」という内容がよくわかりません。(男性/60歳代/夫婦と親)
- 子供が小さい頃から男女区別なく生活していくための全てを教育することが必要。小さいころから当たり前になる。男女なんて言葉はそもそも決めつける始まりなのだろうね。(男性/60歳代/夫婦と親)
- 男性の、女性の、と区別するのではなく、何事も自分の出来ることは自ら行う！生活習慣の見直しが必要である。誰の仕事かではなく、自分の仕事、自分の事、と自覚することが大切。(男性/60歳代/夫婦のみ)
- お互いを尊重し、常に感謝の気持ちを忘れない。これに尽きると思います。(女性/60歳代/夫婦のみ)
- 女性の管理職や女性議員を増やす。(女性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 疑問を持つこと。持ったら考えること。諦めずに意見を言い続けること。男性の育児休業は、取りたくても取りにくい会社の方が多いと思う。一週間でも取れる社会になってほしい。(男性/60歳代/夫婦と親)
- 共働きなら家庭内の仕事の分担。専業主婦なら難しい。(女性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- まだまだ男女差は大きく、女性の活躍は難しいが進んではいる。男性の意識改革は大変だが、年配者こそ考えるべき。(男性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 誰でも同一のスタートラインに立てる事。多様性を認めること。男女でなく、誰でも自由な選択の機会を持てる事。選挙で当選した人ばかりでなく、一般庶民も同じくらいの割合で参画する。(男性/60歳代/夫婦のみ)
- 男女平等について、男性の考えが間違っている事、平等とは何かを考え直して欲しい。女性が男性より力がない、男は子供を産めない、のは当たり前。(男性/60歳代/一人暮らし)
- 「輝け男女、日本の星」地域活動に進んで参加することは、自分自身の人生を豊かにすると考えます。家庭、仕事、地域活動と三位一体で熟成させていきたいと思っています。(女性/60歳代/夫婦のみ)
- 今の若い世代を見ると、男女が共に家事、育児に参加するのは微笑ましい感じはするが、私達の若い頃はそうではなかった。だから、今でも一生懸命に仕事をする男性は当たり前で、それが一番良い様な気がする。一番自然な形だと思っている。(男性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 夫婦(家庭)、地域など人々の幸福感が多くなること。他を尊重し、コミュニケーションを深めること。行政の組織的なPRの充実、小学生からの男女平等の教育。(女性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 誰でも男女に拘らず出来ることをすればよい。努力することも大事だと思う。(男性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 先ずは推進委員会で手本を見せる事、そして成果を出すこと。行政からの唱えだけではだれも動きません。唱えた者自ら実行し現状との比較を行い、利点や不具合を見出し、対策を講じ標準化出来たら

一般に行政指導を行う。(女性/60歳代/夫婦のみ)

- 男女ではなく、その能力や成果を重視し、活用することが重要である。ただし、男女の体力差や生理的な差があることは事実なのでその配慮は必要であり差別ではない。(女性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 私の経験上では、女性のほうが男性より優秀である。なぜなら、仕事を1人前にこなしながら家庭生活でも主婦業をしっかりとこなしているから。時間管理能力が男性より高い。弱点は感情的になりやすい事と体力面である。相互に良い点を発揮しあえばよいと思う。(女性/60歳代/夫婦と親)
- 認知度が低い。(男性/60歳代/夫婦のみ)
- 飲食店経営を40年間ほどしておりますが、過去に5年ほど両親の看護、介護をしました。出来る人がやればよいので、特別男性が参画する必要性は感じません。(男性/60歳代/一人暮らし)
- 高齢であっても声をかけ、社会に出て参加をすると良いと思う。男女を問わず、参加できれば良い。出産は女性だけだが、男性と共同して出産から関わっていくのが良い。(男性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 制度の改革(年金、雇用、学校教育など)。一人一人の意識の改革。(女性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 女性の意思向上が一番。田舎特有の「出る杭は打たれる」風なところがなくなれば、女性も発言力が高くなる。(男性/60歳代/夫婦のみ)
- 行き過ぎた男女共同参画の考えではなく、人間としてお互いを思いやる心を持って、実現できる事から実行していく事が大事だと思います。(男性/60歳代/夫婦のみ)
- 日本の国は昔から男尊女卑が根強い。一朝一夕で変えられるものではないと思います。子どもの頃から男女平等についての教育をしっかり行うことで身につけていくのだと思います。アンケートを通し、男女共同参画に興味を持つことができました。住みよい笛吹市になります様に。(男性/60歳代/一人暮らし)
- 身近な地域との関わりの中で互いの事を気にかけてながら、1人1人が生活していく上で淋しくない、誰も置き去りにしない、持続可能な社会、地域作りが大事に思う。(男性/60歳代/その他)
- 家庭、周囲の人たちの理解だと思います。(男性/60歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 行政ばかりがこのようなアンケート、会議等をやっている、市民1人1人に活動が全然届いていない。H27年3月の宣言の事も知らない。まずは市民にこの意義を知ってもらう事。現状できている実例など、どんどん発信する方が先だと思う。(男性/60歳代/一人暮らし)
- 女性が活躍する事を快く思わない男性がいる。特に、年配の方はそういう傾向が。そういう方々の意識を変えることが必要だが難しいと思われる。若い人達で男女共同参画を積極的に推進していくことが必要と思われる。(男性/60歳代/三世代)

【70代】

- 互いに支えあって生活出来ているという気持ちを持つ。地区会(自治会など)毎月出席し、改善点とか行事に参加出来ないとか伝えると最初から住んでいる長老の区長とか、決め事だからそれは直せないとか、組長だから仕事より行事を優先しないと、と押し付けないでもっと後から移住している方々の意志や考えも昔の考えにとらわれず吸収してほしい。女性も男性も目標は同じなので、もっと住みやすく発展すると

思います。(女性/70歳代/夫婦のみ)

- 男女ともにコミュニケーションを取りながらより良い方向になれるのが一番良いと思いました。(女性/70歳代/一人暮らし)
- 男性、女性、それぞれ自分の行動に責任を持つこと。女性も自立して考えて、車の運転を見ても赤になるのに行ってしまう、他人に対して譲らないなどの人が結構多く見られるので甘えている人が多くいる。(男性/70歳代/夫婦のみ)
- 今までの社会通念を社会全体で変えようとする環境整備が必要だと思う。(男性/70歳代/一人暮らし)
- とてもよいことだと思います。(女性/70歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 現在の若いご夫婦を見ますと、ほとんどが家事、育児の分担を自然に行っているように思います。女性の社会進出、活躍が目ざましい現状を考えますと私たち(70代)の時代とは違い(女性は家事育児、男性は仕事)、出来る人がお互いに協力し合うかたちとなるのではないのでしょうか。私自身は働いておりましたので、もっと子供に関わり過ぎたかったと後悔しております。(男性/70歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 委員は市での会議ばかりではなく、もっと地域に出て活動すべき。(女性/70歳代/夫婦のみ)
- 主婦の家庭内の仕事(雑事も含めて)を社会全体で理解する事が大切。男性の理解力は程違い。(男性/70歳代/夫婦のみ)
- 男女平等にする事。(女性/70歳代/一人暮らし)
- 現実には夫婦で協力して生活している。どの家庭も同様と思われる。仕事、家庭、地域活動どれも大事であるが、現状、企業等経営環境が悪化している中で難しい面が多い。(女性/70歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 状況に応じた家庭でのコミュニケーション、話し合いが大事だと思う。(女性/70歳代/夫婦のみ)
- 個々の人格、意見を尊重し、思いやりを持って話し合いをする事(大人のいじめの様にならぬ事が大切)。(男性/70歳代/夫婦のみ)
- 互いに尊重し理解すること。(女性/70歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 気づかないうちに性別役割分業に縛られていることを自分自身が気づき、その上で自分はどう生きたいか自分で決めるようになることが大切。「性別役割」は、全ての悪の根源とあってきて辛い目にもあったが、今振り返ると、必要な考え方(世の中をうまく回していくのに)だったかな、と思う事がある。(男性/70歳代/夫婦のみ)
- 地域社会、家庭よりも男性の職場における意識改革をもっと進めることが必要だと思う。(男性/70歳代/夫婦のみ)
- 今与えられた仕事をやりきる事。その場でスキルアップをして、信頼と評価を勝ち取る事。(女性/70歳代/夫婦と親)
- 男性が気分よく、女性の分野を手伝ってくれるのであればありがたいが、気を遣うのであれば無理しても自分でこなしたい。(男性/70歳代/親と子ども(ひとり親家族除く))
- 見返りを求めない無償の愛の精神。(女性/70歳代/夫婦のみ)
- 私共、70歳の年齢ともなると、なかなか男女共同参画についての実現に伴う考えが思いつかず、うまく表現できませんが、現代の若者たちの生き方を見ていると逆に教えられることが多くあります。はっきりとした考え方を持ち、自分の意見を述べる事が出来るのも素晴らしい事かと思えます。(男性/70歳

代／夫婦のみ)

- 男性がもっと家事、育児などに協力する。(男性／70 歳代／一人暮らし)
- 飲食業なのでアンケートに答えられない所もありました。店は夜遅くまで営業。(女性／70 歳代／夫婦のみ)
- 男女共同参画プランは、あまり進展がないように思う。この事業を発展させる必須条件は人間の人格の向上が大切だからです。しかし、人間の進化を成し遂げる場がなさすぎる。人間のための教育の場をもっと増すべきです。(女性／70 歳代／一人暮らし)
- お互いの理解が必要だと思います。(男性／70 歳代／夫婦のみ)
- 新型コロナウイルスで世間が変わっていくと思います (教育にも職場にも)。不景気にもなっていくような気がします。(男性／70 歳代／親と子ども (ひとり親家族除く))
- 周囲の人の理解。(男性／70 歳代／三世代)
- 国民性、地域性等を抜きにしての人間の活動をよく理解していない。(女性／70 歳代／夫婦のみ)
- 会社=経営者の考え方の変革。家庭=相互理解の向上。(女性／70 歳代／三世代)
- 事例も含めた情報提供とネットワーク作りが重要と考える。(女性／70 歳代／一人暮らし)
- 自分は男尊女卑の考えが強い時代の生まれであるから、男女共同参画は全て、賛同出来ない。また、女性の働く機会が多い為、家事ができなくなったり、独身で生活していける為結婚しない女性が多くなったりして、現在になっているのではないかと思う。(女性／70 歳代／夫婦のみ)
- 男女共同というのであるから、基本的な部分でそれぞれが真に尊重できるかが問題です。(男性／70 歳代／夫婦のみ)
- 役割分担にこだわらず、何事も臨機応援という事はいかがでしょうか。(男性／70 歳代／夫婦のみ)
- 主に男性側が女性への性別意識を無くすことが必要。(女性／70 歳代／夫婦のみ)

3. まとめ

市民アンケート調査からみた幸せの形（参考）

アンケートの回答者を男女及び年齢が50歳以上・未満の4つのグループに分け、さらに「家庭」、「職場」、「地域活動」に対する男女平等についての評価と、各自の「価値観」の回答結果から、合計16の「男女共同参画タイプ」を抽出しました。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| • 女性50歳未満タイプ1～4 | • 女性50歳以上タイプ1～4 |
| • 男性50歳未満タイプ1～4 | • 男性50歳以上タイプ1～4 |

なお、分析には以下の手法を用いています。

- ✓ 主成分分析
たくさんの変数からなるサンプルを対象とするとき、各データの持つ情報をできるだけ失うことなく、互いに相関のない、少ない変数にまとめる手法
- ✓ クラスタ分析
データの集まりから、互いに似た性質を持つデータを集め、それらをまとめてクラスタとして識別する、グループ分けのための手法

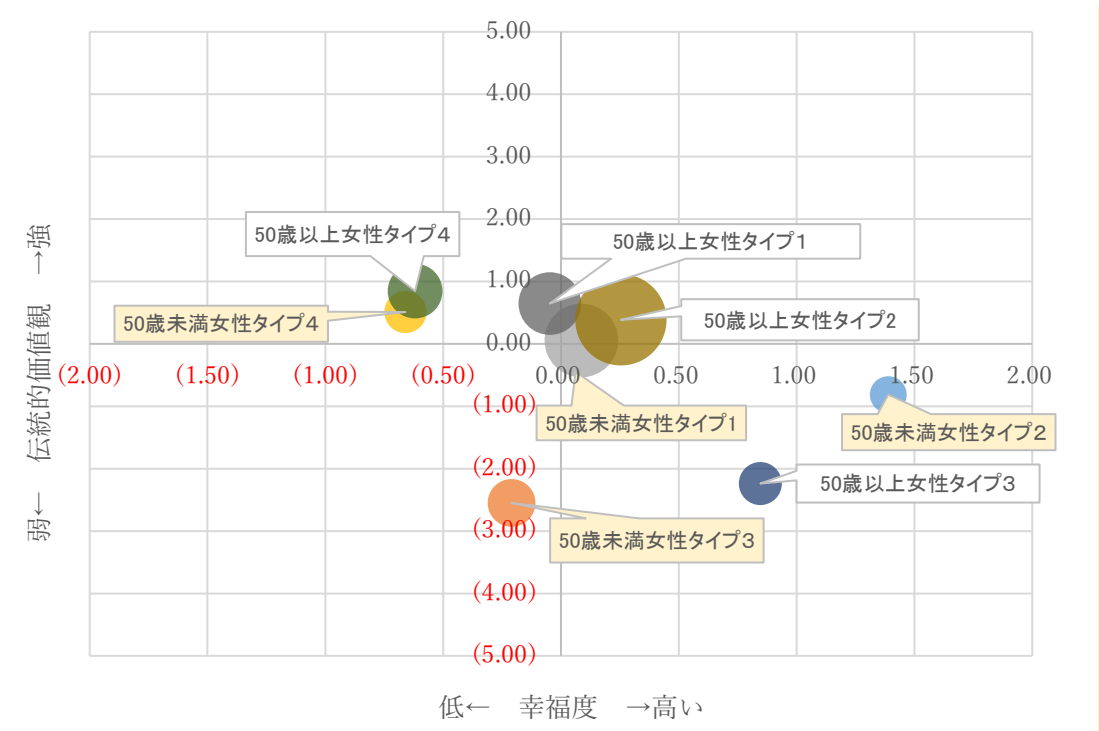
3.1. 価値観と幸福度の関係

16の「男女共同参画タイプ」について、男女平等の価値観と幸福度の関係をまとめると、次の通りとなります。

【女性について】

「男性は仕事、女性は家庭」という伝統的価値観を強く示すタイプはみられないものの、特に 50歳以上のタイプ（50歳以上女性タイプ1、2、4） などでは、やや伝統的価値観を持つ傾向がみられます。

幸福度からみた場合、50歳未満を中心に伝統的価値観が弱いタイプには、幸福度が高いタイプ（50歳未満女性タイプ2、50歳以上女性タイプ3） とやや低いタイプ（50歳未満女性タイプ3） がみられます。反対にやや伝統的価値観を持つタイプには、幸福度が低いタイプ（50歳以上女性タイプ4、50歳未満女性タイプ4） がみられます。



【参考図1】 伝統的価値観と幸福度の関係からみた「男女共同参画タイプ」（女性）

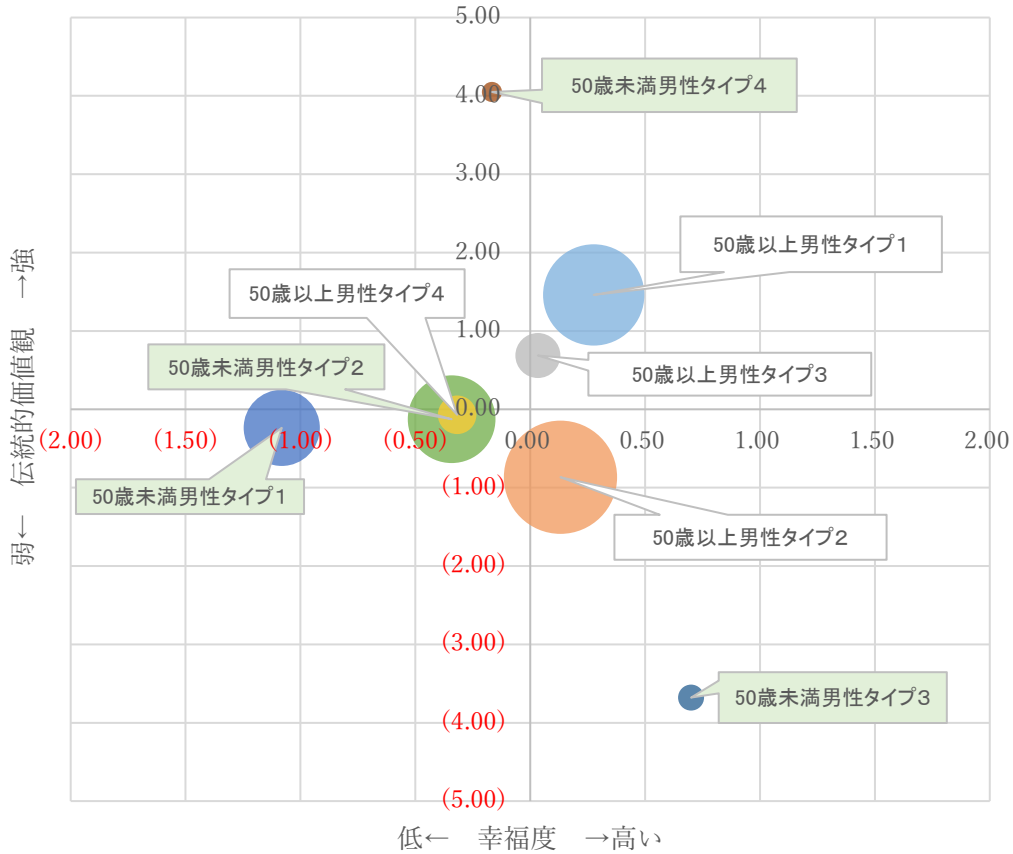
※バブルの大きさは、各グループのサンプル数を示す（以下同様）

【男性について】

50歳以上では伝統的価値観が強いグループ（50歳以上男性タイプ1）と弱いグループ（50歳以上男性タイプ2）に大きく分かれているものの、幸福度はいずれも平均以上となっています。

一方で50歳未満では、伝統的価値観について大きな特徴はみられないものの、幸福度が低く表れています。

このことから今回の調査では、男性については伝統的価値観と幸福度に関係性はみられませんでした。



【参考図2】 伝統的価値観と幸福度の関係からみた「男女共同参画タイプ」(男性)

3.2. 社会参加の機会と家庭生活の役割分担

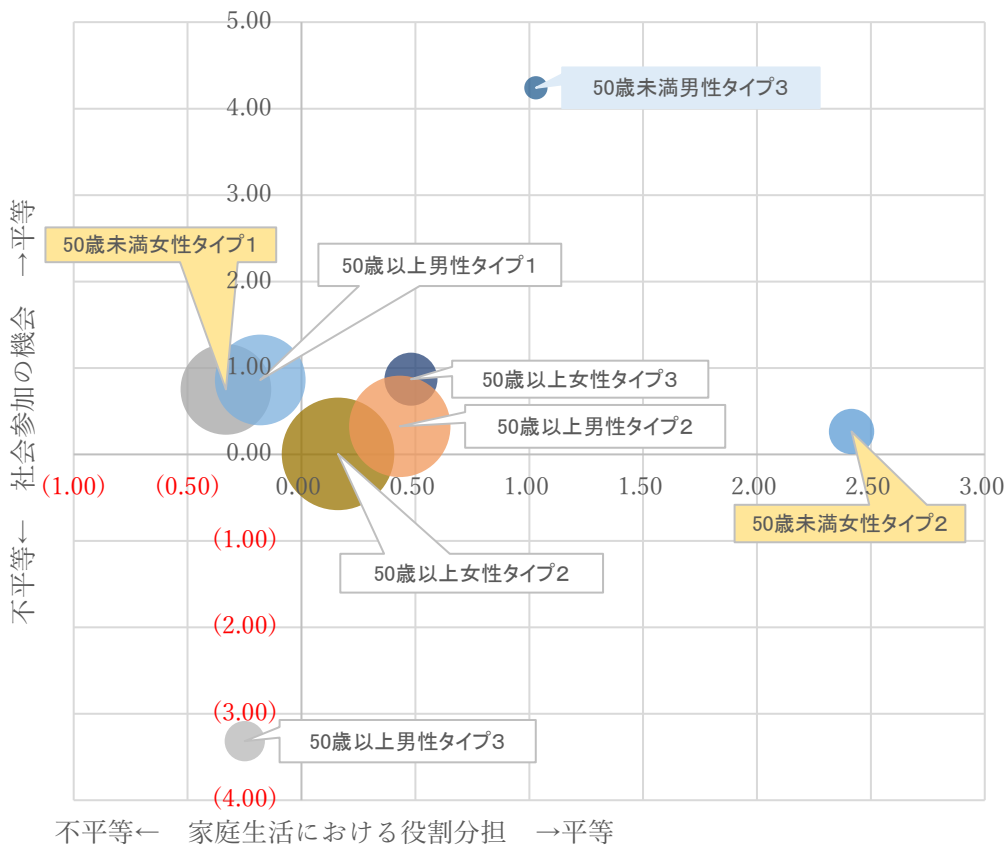
16の「男女共同参画タイプ」のうち、幸福度が全体平均以上の8タイプを抽出し、社会参加や役割分担との関係をまとめると次のとおりとなります。

- 50歳未満 : 女性タイプ1と2、 男性タイプ3
- 50歳以上 : 女性タイプ2と3、 男性タイプ1と2と3

ほぼすべてのタイプにおいて、社会参加の機会が平等との評価に位置づけられていることから、男女ともに社会とのつながりが幸福度と一定程度関わりがあると考えられます。

家庭生活における役割分担については、やや不平等と評価しているタイプ（50歳未満女性タイプ1）がある一方で、極めて高い値を示すタイプ（50歳未満女性タイプ2）もみられます。

このことから、幸せを形づくる家庭生活における役割分担のあり方とは、単一的なものではなく、個人や各家庭によって多様であることが分かります。



【参考図3】幸福度が平均以上のタイプにおける社会参加や役割分担との関係

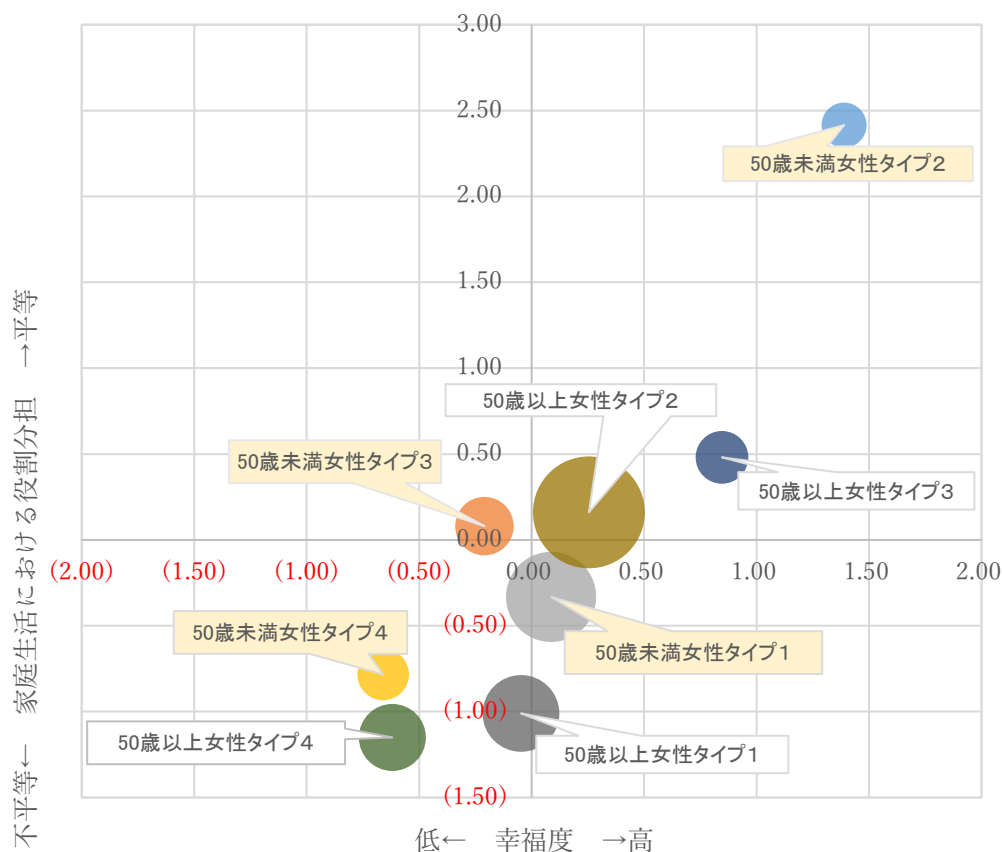
3.3. 家庭生活の割分担と幸福度

16の「男女共同参画タイプ」のうち、女性の8タイプについて、家庭生活における役割分担と幸福度の関係をまとめると、次の通りとなります。

- 女性50歳未満タイプ1～4
- 女性50歳以上タイプ1～4

幸福度が比較的高いタイプ（50歳未満女性タイプ2と50歳以上女性タイプ2・3）は、家庭生活における役割分担について平等と評価する傾向がみられます。

一方で、幸福度が比較的低いタイプ（50歳未満女性タイプ4と50歳以上女性タイプ4）は、家庭生活における役割分担について不平等と評価する傾向がみられます。



【参考図4】 家庭生活の役割分担と幸福度（女性）

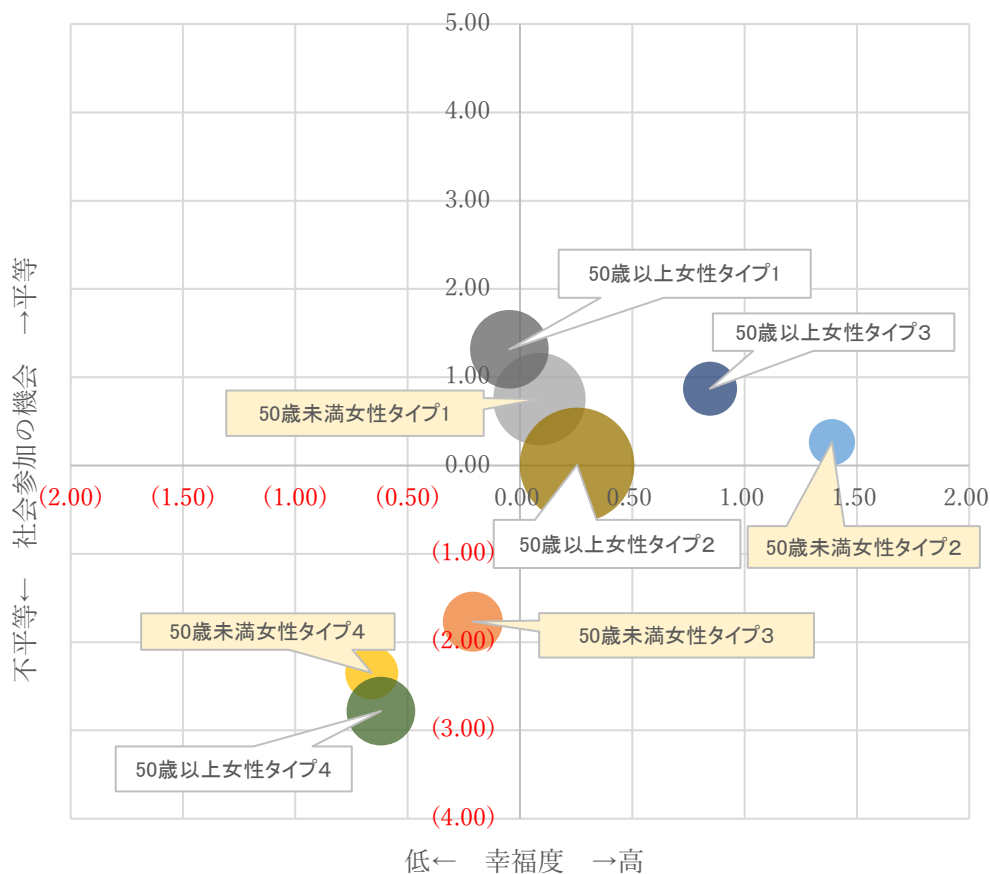
3.4. 社会参加の機会と幸福度

16の「男女共同参画タイプ」のうち、女性の8タイプについて、社会参加の機会と幸福度の関係をまとめると、次の通りとなります。

- 50歳未満女性タイプ1～4
- 50歳以上女性タイプ1～4

幸福度が平均以上のタイプは、概ね社会参加の機会が一定程度確保されていると評価する傾向にあるのに対して、幸福度が低いタイプ（50歳未満女性タイプ3と4、50歳以上女性タイプ4）については、不平等との評価が強く表れています。

このことから、地域活動や趣味などのグループ活動への参加機会が一定程度確保されていることと、女性の幸福度には関係性があるとみられます。



【参考図5】 社会参加の機会と幸福度（女性）

問4 あなたは、以下のような場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。
それぞれの項目について、選んでください。(項目ごとに○は1つだけ)

*横方向にお答えください →	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が 優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が 優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
	1	2	③	4	5	6
(回答例)			③			
家庭生活	1	2	3	4	5	6
職場	1	2	3	4	5	6
学校教育の場	1	2	3	4	5	6
政治の場	1	2	3	4	5	6
法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
自治会やPTAなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6



あなたの「家庭」について

ご家族と同居している方におたずねします。→それ以外の方は、問 12 へ進んでください。

問5 あなたの家庭における男女共同についてどのように思いますか。
それぞれの項目について、選んでください。(項目ごとに○は1つだけ)

*横方向にお答えください →	とても そう思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わない	全く そう 思わない
	性別にかかわらず家事を分担している	1	2	3	4
性別にかかわらず自分の意見を主張できる	1	2	3	4	5
性別にかかわらず介護や育児を分担している	1	2	3	4	5
性別にかかわらず働くことができる	1	2	3	4	5

問6 あなたの家庭では、家事などをするのは、主にだれですか。
それぞれの項目について、選んでください。(項目ごとに○は1つだけ)

*横方向に お答えください →	(自分 配偶者なし)	主に夫 (男性 パートナー)	夫婦 同程度 (パートナ ー)	主に妻 (女性 パートナ ー)	父 または 祖父	母 または 祖母	その 他の 家族	家 族 み ん な で	該 当 者 が い な い
	家事	1	2	3	4	5	6	7	8
育児	1	2	3	4	5	6	7	8	9
看護・介護	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問7 あなたの家庭では、家庭内の決め事はだれが決めていますか。(○は1つだけ)

1. 主に女性(妻や母や祖母)が決めている
2. どちらかといえば女性(妻や母や祖母)が決めている
3. 夫婦または家族で話し合っで決めている
4. どちらかといえば男性(夫や父や祖父)が決めている
5. 主に男性(夫や父や祖父)が決めている
6. その他()

問8 あなたが一日(平日)に家事・育児・介護等に関わる時間はどれくらいですか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. ほとんどない | 2. 30分未満 |
| 3. 30分以上 1時間未満 | 4. 1時間以上2時間未満 |
| 5. 2時間以上 3時間未満 | 6. 3時間以上 4時間未満 |
| 7. 4時間以上 5時間未満 | 8. 5時間以上 |

問9 あなたが一日(休日)に家事・育児・介護等に関わる時間はどれくらいですか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. ほとんどない | 2. 30分未満 |
| 3. 30分以上 1時間未満 | 4. 1時間以上2時間未満 |
| 5. 2時間以上 3時間未満 | 6. 3時間以上4時間未満 |
| 7. 4時間以上 5時間未満 | 8. 5時間以上 |

子育て中または子育ての経験のある方におたずねします→それ以外の方は、問12へ進んでください。

問10 あなたの子育てへのかかわりは十分である、または十分であったと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 十分である(あった) | 2. ある程度は十分である(あった) |
| 3. あまり十分ではない(なかった) | 4. 十分ではない(なかった) |

問11 配偶者(パートナー)の子育てへのかかわりは十分である、または十分であったと思いますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 十分である(あった) | 2. ある程度は十分である(あった) |
| 3. あまり十分ではない(なかった) | 4. 十分ではない(なかった) |
| 5. 配偶者(パートナー)はいない(いなかった) | |

問12 法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。あなたはこの制度を知っていますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問12-1 制度を活用して、男性が育児休業を取得することについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 取得した方がよい | 2. どちらかという取得した方がよい |
| 3. わからない・どちらともいえない | 4. どちらかという取得しない方がよい |
| 5. 取得しない方がよい | |

問13 法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。あなたはこの制度を知っていますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問13-1 制度を活用して、男性が介護休業を取得することについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 取得した方がよい | 2. どちらかという取得した方がよい |
| 3. わからない・どちらともいえない | 4. どちらかという取得しない方がよい |
| 5. 取得しない方がよい | |

問14 あなたは、次のようなことが配偶者間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(項目ごとに○は1つだけ)

*「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

*横方向にお答えください →	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
足でける	1	2	3
平手で打つ	1	2	3
なぐるふりをして、おどす	1	2	3
大声でどなる	1	2	3
他の異性との会話を許さない	1	2	3
何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3
家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3
いやがっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3

問15 あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人々からの暴力について、経験したり、見聞きしたりしたことはありますか。(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1. 自分が直接経験したことがある (→問15-1へ) |
| 2. 相談を受けたことがある |
| 3. 暴力を受けた人を知っている |
| 4. テレビや新聞などで問題になっていることは知っている |
| 5. 見聞きしたことはない |
| 6. わからない |
| 7. その他() |

問15で 1 を選んだ方におたずねします →それ以外の方は、問16へ進んでください。

問15-1 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つだけ)

1. 相談した(→問15-2へ)
2. 相談したいと思ったが、しなかった(→問15-3へ)
3. 相談しようとは思わなかった(→問15-3へ)

問15-2 実際にだれ(どこ)に相談しましたか。(○は2つまで)

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. 家族 | 2. 友人・知人 |
| 3. 職場の上司 | 4. 医師・カウンセラー |
| 5. 弁護士 | 6. 公的な相談窓口・電話相談など |
| 7. その他() | |

問15-1で 2・3 を選んだ方におたずねします →それ以外の方は、問16へ進んでください。

問15-3 なぜ相談しなかったのですか。(○は3つまで)

1. 自分にも悪いところがあったから
2. 相談してもむだだと思ったから
3. 世間体が悪いから
4. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
5. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
6. 他人を巻き込みたくなかったから
7. そのことについて思い出したくなかったから
8. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
9. どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから
10. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
11. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
12. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
13. その他()



あなたの「職場」について

現在、お仕事に就いている方におたずねします。→それ以外の方は問18へ進んでください。

問16 あなたの職場は男女問わず、働きやすい環境ですか。(○は1つだけ)

1. はい 2. いいえ 3. わからない

問17 あなたの今の職場は、性別によって差があると思いますか。

次のそれぞれの項目について、選んでください。(項目ごとに○は1つだけ)

*横方向にお答えください →	とても そう思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わない	全く そう 思わない
	1	2	3	4	5
性別にかかわらず募集・採用が行われている	1	2	3	4	5
性別にかかわらず業務(内容・責任)が分担されている	1	2	3	4	5
性別にかかわらず昇進・昇格が行われている	1	2	3	4	5
性別にかかわらず管理職へ登用されている	1	2	3	4	5
性別にかかわらず能力によって評価されている	1	2	3	4	5
性別にかかわらず働き続けやすい制度が整っている	1	2	3	4	5
性別にかかわらず育児や介護のための休暇が取得しやすい	1	2	3	4	5
賃金の格差がない	1	2	3	4	5



問20で 2 を選んだ方におたずねします。

問20-2 その理由は何ですか。(○は2つまで)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 世帯主だから | 2. 女性の意見や能力をいかすべきだから |
| 3. これまでの慣習にとられる必要がないから | 4. 女性だけの世帯であるから |
| 5. 男性が出席できないから | 6. 地域のことを知りたいから |
| 7. その他() | |

問21 あなたは今、お住まいの区や市から、役員や審議会などの公的役員に選出された場合、それを受けますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 快く受ける | 2. どちらかといえば受ける(受けるだろう) |
| 3. どちらともいえない | 4. できれば受けたくない(拒否したい) |
| 5. 絶対に受けたくない(拒否する) | 6. 今は、受けられない事情がある |

問21で 4・5・6 のいずれかを選んだ方全員におたずねします。

問21-1 その理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 介護が必要な家族などがいるから | 2. 高齢であるから |
| 3. 健康に自信がないから | 4. 家族の理解が得られないから |
| 5. 子や孫の面倒をみているから | 6. 人前に出るのが苦手だから |
| 7. 仕事をしているから | 8. 車の運転ができないから |
| 9. 家から出にくい雰囲気があるから | 10. 家事が手抜きになるから |
| 11. 以前に精神的苦痛を受けたから | 12. 自分の時間がなくなるから |
| 13. 地域の目が気になるから | 14. その他() |

ことばの「認知度」について

問22 次のそれぞれの言葉について、あなたにあてはまるものを選んでください。
それぞれの項目について、選んでください。(項目ごとに○は1つだけ)

*横方向にお答えください →	る 両 方 を 知 っ て い る	言 葉 と 内 容 の 程 度	見 た り 聞 い た り し た こ と が あ る	知 ら な い
男女共同参画社会	1	2	3	
男女共同参画社会基本法	1	2	3	
男女雇用機会均等法	1	2	3	

(前ページからつづき) *横方向にお答えください →	両方を知っている 言葉と内容の 程度	見たり聞いた りしたことがあ る程度	知らない
笛吹市男女共同参画推進条例	1	2	3
笛吹市男女共同参画プラン	1	2	3
配偶者暴力相談支援センター	1	2	3
ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
LGBT	1	2	3

あなたの「価値観」について

問23 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そうは思わない |

問24 あなたは以下の各項目についてどのように思いますか。

それぞれの項目について、選んでください。(項目ごとに○は1つだけ)

*横方向にお答えください →	とても そう思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わない	全く そう 思わない
男性は仕事、女性は家事・育児に向いている	1	2	3	4	5
夫婦の役割を分ける方が、仕事も家庭もうまくいく	1	2	3	4	5
子どもの頃から、男性は仕事、女性は家庭という教育を受けている	1	2	3	4	5
女性が家庭にいた方が、子どもの成長のためによい	1	2	3	4	5
女性は仕事と家庭との両立が難しい	1	2	3	4	5
女性は男性と比べて体力がない	1	2	3	4	5
男性が仕事をした方が多く稼げる	1	2	3	4	5

(前ページからつづき)	とても そう思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わない	全く そう 思わない
*横方向にお答えください 					
できるなら夫婦共働きが望ましい	1	2	3	4	5
男女の役割は決め付けるものではない	1	2	3	4	5
仕事や家事能力に男女差はない	1	2	3	4	5
男女を区別し役割を固定する慣習が薄れてきている	1	2	3	4	5
仕事の面でも活躍している女性が多くなっている	1	2	3	4	5
女性も男性も自分のできることをすればよい	1	2	3	4	5

問25 今後、男性が家事、育児、看護・介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事・育児などについて、その評価を高めること
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること
10. その他()
11. 特に必要なことはない

自由意見

問26 男女共同参画の実現に必要なと思われることについてご自由にお書きください。

アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。